

いきがい・助け合いサミット in 大阪

助け合い大全'19

ポスター編



助け合い大全'19

ポスター編



この大全に収録されているポスターは、公益財団法人さわやか福祉財団主催の「いきがい・助け合いサミット in 大阪 共生社会をつくる地域包括ケア ～生活を支え合う仕組みと実践～」におけるポスター展に対し、全国から出展された134のポスターです。

生活支援コーディネーターや協議体、自治体関係者、社協、包括等が住民の方々と取り組みを進めていく中で、「全国で紹介したい」「おすすめしたい、自慢したい」といった活動を紹介しています。

新地域支援事業に関する情報交換のツールとして本冊子をご活用いただければ幸いです。



この大全をご活用ください

～ けっこう楽しいですよ～

（ 1. ポスターのテーマは？ ）

ポスターのテーマは全国の生活支援コーディネーターや協議体に関する活動であつて、本大全ではこれを次の5つの類型に分けています。

- 【O類型】 その活動を幅広い共生の視点から進めている状況などを伝えるポスター
 - 【A類型】 生活支援コーディネーターや協議体の体制を住民の信頼が得られるようにつくるプロセスなどを伝えるポスター
 - 【B類型】 選出された生活支援コーディネーターや協議体が住民のニーズ調査や担い手の掘り起こしをするプロセスなどを伝えるポスター
 - 【C類型】 生活支援コーディネーターや協議体が助け合い活動を創出し、あるいはすでに存在している助け合い活動をネットワークに組み入れるプロセスなどを伝えるポスター
 - 【D類型】 都道府県の支援活動を伝えるポスター
- 掲載の順番は上記の順に従っています。

（ 2. この「大全」を保管してご利用ください ）

少なくとも数年間は、この「大全」を助け合い活動を創り出したり、助け合いのネットワークを創る時の**実務用テキスト**として、同時発行の「大全パネル編」とともに活用して下さるよう期待しております。

助け合い活動は住民が自主的、自律的に行うものであり、その内容は地域により時代によって異なりますから、画一的なテキストを作成することは不可能です。

その地域で何をどう創るかは、自分たちが住民の声をしっかり聞いて、学んでいくほかありません。

その際、もっとも有益な情報は、他の地域の生活支援コーディネーター、協議体などがどのようにして住民のニーズを把握し、担い手を掘り起こして、助け合い活動の

創出を支援し、助け合いのネットワークを形成していったかの事例です。

本大全収録のポスターは、**時代の最先端を切って地域の課題に向き合い、解決に向けて奮闘している生活支援コーディネーター、協議体の奮闘のプロセスと成果を見える化**して生の情報を提供するものです。

それぞれの事例の生まれた地域が自分たちの地域とどこが違い、どこが同じかを整理しながら、その時代の自分たちの地域に合うやり方を住民とともに見つけ、実践して、さらに成果を積み上げていって下さることを祈っております。

（ 3. 投票準備のためサミット参加前にお目通しください ）

同封してお送りする「事前投票・事前選定要領」に書きましたとおり、サミットでは全参加者に「いいね」と思ったポスター5枚以内にシールを貼る投票をお願いしています。

そのため事前にポスターを通覧して投票するポスターを選んでいただくことを希望しています。そうすればサミット会場で今後情報交換したい仲間（いい仕事をしている生活支援コーディネーターなど）と知り合う材料にもなるかと思います。

（ 4. ポスターの特徴 ）

生活支援コーディネーター、協議体による助け合い活動の創出やそのネットワーク化の作業が成功するかどうかは、①いかに**住民主体の活動**を、②**上手に後方支援**して引き出すか、にかかっています。

住民のニーズも確かめず、勝手に仕組みを決めて補助金を出し、上から仕切って仕掛けてもうまくいきません。

提出されたポスターで紹介されている仕掛けぶりの多くは、**どのように住民主体の活動にするか**に気を使っています。そここのところを読み取って、ご参考にいただければ、と願っています。

【 0 類型 共生 】

住民は一般に、要支援の高齢者などという特定グループだけを助け合いたいとは思いません。**困っている人がいれば誰であってもなんとかしたいと感じるのが普通の人**

情です。そこを理解すると、新総合事業に取り組むとしても、それをベースにしながら対象は子どもからお年寄りまで幅広い活動にするのが住民の気持ちに添うことになるし、いきがいを生み出す活動や就労活動などとも連携することになります。

行政の関係部局がタテワリを打破して、連携協力するのは当然のこととなりますし、行政その他の関係者が住民と同じ地域愛をもってこの事業に取り組むのも当然のこととなります。そういう思いにあふれたポスターもいくつか寄せられています。

[A類型 体制整備]

いかに住民から信頼される体制をつくるかがポイントです。A 類型では、住民から信頼されそうな人を、住民の中に入れていって大づかみで協議体構成員に選んでいる動き、そしてその構成員が、S Cと協力して、自分たちのまちの特徴をつかみ、目指す地域像を住民主体で実現するために自分たちは何をするかを考え、見える化しようとしている動きが注目されます。

そういうS C、協議体が成果を上げている様子も見て取れます。

[B類型 ニーズの把握と担い手の掘り起こし]

住民主体の活動にするためには、住民（特に生活に困っている住民）のニーズを正確に把握することが基本になります。

ポスターでは、アンケートを送ってその結果を形式的にデジタル化するのではなく、住民の間に入ってワークショップをやったり、じっくり面談して気持ちを聞いている実例を見ていただきたいと思います。

特に町内会レベルのワークショップは、ご近所で困っている人の状況を共有することから、「私がやりましょう」という人が結構出てくるのですが、その例が少なかったのは残念でした。

[C類型 助け合い活動の創出]

住民が主体的に動き出している様子がよくわかります。居場所（C - 1グループ 居場所・サロン・通いの場）は順調に広がっています。居場所は他の助け合い活動の基礎になるから当然ともいえます。居場所から家事支援、買い物支援、移動支援などの活動に広がっている事例もいくつも見受けられます（他のグループにもそのポスターがあります）。

有償ボランティア（C - 2グループ 有償ボランティア）は生活支援を継続して行

うのに適した助け合い活動です。その立ち上げや継続はかなり力仕事になりますが、着実に広がりつつある様子がポスターからも見て取れます。

「なんかしようや！から始まった」とか「必要だと思うこと、やりたいと思うことをやったら有償ボランティアだった」などの言葉がありました。

移動支援（C - 3グループ 移動支援）は、特に高齢化、人口減少の激しい地域では生活維持に欠かせない活動です。ポスターの数は多くありませんが、工夫して挑戦しておられる様子がわかります。

地縁の活動（C - 4グループ 地縁の助け合い・交流）は絆を求める住民の心に地域の誰が応えるのかが問題ですが、この事業が刺激になって自治会、町内会などが動き出している状況がわかります。

C - 5グループ **特別な切り口**のポスターは、仕掛ける側も住民の主体性を損なわないように仕掛けるためのいろいろな工夫をしている事例です。

高齢者とラインでつながって情報のやりとりをしたり、寄付金を基金にして生活支援コーディネーターに自由度の高い活動資金を提供するなどです。C-2グループの有償ボランティア活動の中には、利用者が負担する謝礼金の標準額1時間300円に、市社協が助け合い活動奨励金として200円を上乗せしている事例もありました。

このほかにも地域に応じて様々な工夫がされています。ポスターから読み取れない場合には直接聞いていただくことをお奨めいたします。

どうぞこの大全を存分にご活用下さい。

目次

ポスター 番号	カテゴリー O 共生の取り組み	頁
1	福岡県中間市 中間市介護保険課 わたしたち、たてわりやめました	14
2	長崎県五島市 五島市長寿介護課 日本最西端の離島 GOTO 列島 ～行政の部門を超えて連携する～	15
3	宮城県大崎市 大崎市民生部社会福祉課地域包括ケア推進室 まちづくり部局等をはじめとした、さまざまな事業と連動した 大崎市流地域包括ケアシステムの深化・推進	16
4	奈良県吉野郡吉野町 吉野町 地域包括ケア町内連携会議 ～部局横断的に地域づくりをすすめる取り組み～	17
5	広島県尾道市 尾道市 発祥の地・“みつぎ” より地域包括ケアシステムを考える	18
6	長崎県北松浦郡佐々町 佐々町地域包括支援センター 無関心をやめて、おせっかいを始めたら・・・まちがひとつになった！！	19

ポスター 番号	カテゴリー A 体制整備状況	頁
------------	-----------------------	---

① 助け合いとSCの役割の見える化

7	岩手県九戸郡軽米町 軽米町健康福祉課 かるまい助け合いすごろく	22
8	長崎県佐世保市 佐世保市エフォートケアシステム株式会社 支え合い活動“見える化”システム「地域包括ケアガイドマップ」	23
9	大阪府河内長野市 河内長野市社会福祉協議会 個々や地域の問題をポジティブに捉えることが問題解決や健康寿命の延伸に繋がっている と確信している SC	24
10	静岡県掛川市 掛川市社会福祉協議会 掛川型地域包括ケアシステムの発展に向けた生活支援コーディネーターの配置	25
11	大阪府枚方市 枚方市明倫校区生活支援コーディネーター 枚方 SC 新聞	26

② 協議体の編成

12	秋田県大館市 大館市社会福祉協議会 30年度以降に限られた時間の中で住民が関わりながら体制づくりを行った事例	27
13	東京都多摩市 多摩市一般社団法人多摩マイライフ包括支援協議会 多摩市まるっと協議会の活動と今後の体制	28
14	福岡県宗像市 宗像市高齢者支援課 協議体立ち上げにつながる講演会	29
15	香川県観音寺市 観音寺市 観音寺市の地域づくりの取組	30
16	石川県羽咋市 羽咋市地域包括ケア推進室 石川県羽咋市の生活支援体制整備 ing	31

17	奈良県御所市 御所市 少しの「できる」が「ええまちごせ」をつくる	32
18	熊本県人吉市 人吉市社会福祉協議会 地域づくりの源は「協議体」に、協議体づくりは地域の納得から !!	33
19	埼玉県朝霞市 朝霞市長寿はつらつ課 朝霞市の地域の助け合いが芽吹く ～つながりづくりの意識醸成から支え合いの活動が始まるまで～	34
20	神奈川県綾瀬市 綾瀬市社会福祉協議会 綾瀬市社協が取り組んできた生活支援体制整備事業	35
21	茨城県石岡市 石岡市社会福祉協議会 地域で助け合うまちづくり	36
22	長崎県対馬市 対馬市社会福祉協議会 協議体の発足について	37
23	長野県上高井郡小布施町 小布施町社会福祉協議会 自分らしく暮らせる日常生活圏域は住民主体で決めよう！	38
24	東京都北区 北区志茂ジェネ協議会 住民主体の助け合い活動創出に向けた協議体の体制整備 ～東京都北区「志茂ジェネ協議会」の事例から～	39
25	高知県高岡郡四万十町 四万十町健康福祉課地域包括支援センター みんな一緒に体制整備	40
26	岩手県大船渡市 大船渡市 NPO 法人おおふなと市民活動センター いきがい・助け合い活動に関する取り組み	41
27	佐賀県三養基郡みやき町 みやき町社会福祉協議会 支え合い推進係 始めよう！支え合いの地域づくり in みやき町	42
③ 協議体の取り組みその他		
28	群馬県高崎市 高崎市長寿社会課 高崎市の支え合いのあゆみ、高崎市の協議体	43
29	群馬県高崎市 高崎市長寿社会課 高崎市の支え合いのあゆみ、高崎市の協議体	44
30	広島県庄原市 庄原市生活福祉部高齢者福祉課 ささやかだけど“キラッ”と輝く 地道な取組を学び合う「実践報告会」	45
31	千葉県市原市 市原市社会福祉協議会地域生活支援グループ 生活支援チーム いつまでも ふだんの 暮らしを しあわせに！「ホッ」とするまち いちはら	46
32	新潟県佐渡市 佐渡市高齢福祉課地域包括ケア推進室 目指すは「ごちゃませ」 オール SADO	47
33	東京都板橋区 板橋区おとしより保健福祉センター 板橋区における協議体の取組 ～18地域18色の支え合いの地域づくり～	48
34	岐阜県各務原市 各務原市 みんなが参加したくなる楽しい場をつくる !!	49
35	徳島県吉野川市 吉野川市地域包括支援センター つなげよう！吉野川市助け合いの会	50
36	愛媛県伊予郡松前町 松前町保健福祉部健康課地域包括支援センター係 愛媛県松前町における助け合い活動創出に向けた取り組み	51

37	高知県宿毛市 宿毛市社会福祉協議会 高知県宿毛市 第2層協議体 毎月開催中 !!	52
38	奈良県生駒郡三郷町 三郷町社会福祉協議会 形だけの協議体から住民参加型の自然なお宝発掘隊へ	53
39	福岡県うきは市 うきは市社会福祉協議会 かたらんね～江南 「こんな事が必要！」と「これだったら出来そう！」から生まれた地域の変化	54
40	宮崎県児湯郡新富町 新富町福祉課 新富町 生活支援体制整備事業	55
41	奈良県北葛城郡河合町 河合町社会福祉協議会 生活支援体制整備事業の推進に欠かせないファクター	56
ポスター 番号	カテゴリー B ニーズ調査と担い手の掘り起こし	頁
42	埼玉県入間郡三芳町 三芳町社会福祉協議会 住民が想いをひとつにし、住民が望む支え合い活動を住民がカタチにする取り組み	58
43	青森県八戸市 八戸市 住民と学生のワークショップから始まる地域包括ケアと共生の街づくり	59
44	大分県竹田市 竹田市社会福祉協議会 高齢者の社会参加で地域を元気に！	60
45	大阪府南河内郡太子町 太子町社会福祉協議会 すみごちのいいマチをめざして	61
46	大阪府南河内郡太子町 太子町社会福祉協議会 すみごちのいいマチをめざして	62
47	長崎県対馬市 対馬市社会福祉協議会 対馬市で小さな声をひろいあげ、かたちにしていく！	63
48	長崎県対馬市 対馬市社会福祉協議会 “住民同士の助け合いによる地域づくり”のために	64
49	長崎県対馬市 対馬市社会福祉協議会 ニーズ調査からワークショップを経て見えてきたこと	65
50	長崎県対馬市 対馬市社会福祉協議会 ニーズの把握から活動へ“貝口地区の取り組み”	66
51	愛知県犬山市 犬山市健康福祉部長寿社会課 協議体での話し合いが形になったきっかけ	67
52	和歌山県和歌山市 和歌山市宇都宮病院 地域づくりアンケートの結果から	68
53	栃木県宇都宮市 宇都宮市保健福祉部高齢福祉課地域包括ケア推進室 宇都宮市の第2層協議体の取組について	69
54	奈良県磯城郡田原本町 田原本町社会福祉協議会 「地域歩き」と「助け合い体験ゲーム」によるニーズの掘り起こし	70
55	大阪府泉大津市 泉大津市社会福祉協議会地域包括支援センター 生活支援隊家事エンジャー実践報告	71
56	島根県出雲市 出雲市社会福祉協議会 協働した担い手づくりと共感を得るための担い手養成	72
57	北海道釧路市 釧路市東部北地域包括支援センター わかば★わくわくキッチンへの歩み ～みんなで食べると美味しいね～	73

58	埼玉県志木市 志木市社会福祉協議会 新たな担い手の掘り起し	74
59	大阪府大阪市平野区 大阪市平野区社会福祉協議会 The 男組	75
60	山口県防府市 防府市 生活支援体制整備事業の「手触り」が感じられる取組み	76

ポスター 番号	カテゴリー C 助け合い活動の創出	頁
------------	-------------------	---

① 居場所・サロン・通いの場

61	新潟県阿賀野市 阿賀野市高齢福祉課 阿賀野市の目指す地域像	78
62	新潟県柏崎市 柏崎市 NPO 法人地域活動サポートセンター柏崎 幸齢未来かわら版 号外！	79
63	徳島県鳴門市 鳴門市 鳴門市版暮らサポ ～開設までにおける SC の役割と活動～	80
64	福井県越前市 越前市 いきいきふれあいのつどいの拡がり	81
65	大阪府大阪市西成区 大阪市西成区社会福祉協議会 みんなで考え、つくる、あたらしい“まち”	82
66	静岡県田方郡函南町 函南町社会福祉協議会 人口約38,000人、高齢化率約31%、居場所38ヶ所… 小さな？町の住民による「おでかけサポート」の取組み	83
67	大阪府藤井寺市 藤井寺市地域包括支援センター 『つながる』を楽しもう♪ NICE!の集い	84
68	福岡県久留米市 久留米市久留米中央地域包括支援センター 地域リハビリテーション活動支援事業を活用した地域課題の解決について	85
69	埼玉県草加市 草加市社会福祉協議会 社協を母体として民家に開設した通所型サービス B と多様な活動が創出された事例	86
70	静岡県袋井市 袋井市浅羽地域包括支援センター 住民主体の通いの場が居場所、移動スーパー導入へ繋がった事例	87
71	東京都昭島市 昭島市保健福祉部介護福祉課 住民参加型の介護予防+専門的アプローチ = 新たな生きがい活動！	88
72	茨城県常陸大宮市 常陸大宮市第1層協議体 専門職がささえる地域サロンのつくりかた ～地域の課題を地域ネットワークを活用しながら解決していく～	89
73	滋賀県蒲生郡日野町 日野町社会福祉協議会 東桜谷地区ささえ愛活動	90
74	宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町 五ヶ瀬町 NPO 法人結ネットたんぽぽ 居場所づくりからの生活支援創出	91
75	京都府京都市 京都市(福) 京都福祉サービス協会 高齢者福祉施設 西院 「誰もが輝ける、人々が出会う交差点」 －要介護高齢者の社会参加活動と多様性を認め合える場づくりの挑戦－	92
76	岩手県盛岡市 盛岡市社会福祉協議会 空き家をミンナの居場所へ	93

77	茨城県つくばみらい市 つくばみらい市社会福祉協議会 住民と共に歩む協議体と助け合い活動	94
78	滋賀県米原市 米原市 地域お茶の間創造事業	95
79	鳥取県東伯郡北栄町 北栄町社会福祉協議会 北栄町の助けあい活動に関する取り組み	96
80	長崎県南島原市 南島原市社会福祉協議会 いいね、いい場所、みんなのつばみ	97
81	長野県長野市 長野市鬼無里地区住民自治協議会 あるものを活かす！ないものを数えない 昔は村だった小さな地区の取り組み	98
82	東京都武蔵村山市 武蔵村山市社会福祉協議会武蔵村山市南部地域包括支援センター 「お互いさま」でつながるまちづくり	99
83	北海道二海郡八雲町 八雲町熊石地域包括支援センター 住民主体の集いの場	100
84	京都府木津川市 木津川市社会福祉協議会 気軽に集って笑顔あふれる地域の居場所（地域のサロンが5倍に増えた）	101
85	新潟県岩船郡関川村 関川村社会福祉協議会 人と人がつながり笑顔あふれる地域へ「つなぐ」	102
86	大阪府大阪市城東区 大阪市城東区社会福祉協議会 赤いベンチプロジェクト	103
87	京都府京都市 京都市伏見・西京区各種の団体+京都大学建築学専攻吉田研究室 おでかけベンチ・とまり木ベンチを地域・高齢者の手で	104
88	大阪府大阪市港区 大阪市港区社会福祉協議会 いきいき百歳体操を通じて高齢者を元気にする取組み	105
89	千葉県香取郡多古町 多古町地域包括支援センター みんなで楽しく地域づくり タコ足ケアシステムの取組	106

② 有償ボランティア

90	鹿児島県鹿屋市 鹿屋市保健福祉部高齢福祉課 町内会主体の有償ボランティアで「地域力」を上げる！支え、助け合う地域づくり	107
91	埼玉県鶴ヶ島市 鶴ヶ島市社会福祉協議会 多様な活動を創出するふれあいサービス	108
92	福岡県うきは市 うきは市社会福祉協議会 「なんかしょうや！」から始まった住民型有償サービス おおし絆クラブ	109
93	福岡県宗像市 宗像市高齢者支援課 たんぼぼの会（生活支援ボランティア）が買い物支援をたちあげるまで	110
94	静岡県磐田市 磐田市社会福祉協議会 磐田市型の地域共生社会の実現	111
95	京都府宮津市 宮津市社会福祉協議会 人と人を結ぶ～かけ橋～ 宮津市社会福祉協議会 流 住民参加型在宅福祉サービス事業 「暮らしのかけ橋」	112
96	長崎県東彼杵郡波佐見町 波佐見町健康推進課 波佐見は続くよ どこまでも！（線路も海もないけれど。）	113
97	山形県西置賜郡白鷹町 白鷹町健康福祉課 有償ボランティア「ほっと しらたか」が出来るまで	114

98	熊本県球磨郡球磨村 球磨村 有償ボランティア『世話やし隊』	115
99	新潟市南区 新潟市南区生活支援コーディネーター 新潟市南区での助け合い活動の創出	116
100	大阪府大阪市東成区 大阪市東成区社会福祉協議会 元気に参加・活躍できる東成区をめざして	117
101	宮城県大崎市 大崎市池月地域づくり委員会 (池月サポートセンター) 池月流“マメ”な地域づくり活動	118
102	三重県桑名市 桑名市社会福祉協議会 地域が主役！人づくり・まちづくりの取り組み ～三重県桑名市の支え合い活動～	119

③ 移動支援

103	佐賀県嬉野市 嬉野市社会福祉法人済昭園 住民ボランティアサポートによる「介護予防」と「買い物支援」の通いの場 ごましお健康くらぶ	120
104	静岡県藤枝市 藤枝市健康福祉部地域包括ケア推進課 未来を見据え支え合うことの大切さを訴えたら地域が動いた！ ～藤枝市の地域づくりへの挑戦～	121
105	福岡県福津市 福津市健康福祉部高齢者サービス課 福岡県福津市ささえ合い協議体	122
106	福岡県みやま市 みやま市包括支援センター 様々な助け合いの輪が生まれ、広がっています。	123
107	宮崎県日向市 日向市社会福祉協議会 助けられたり、助けたり「お互いに支え合う仕組みづくり」を目指して ～日向市東郷町の取り組み～	124
108	富山県氷見市 氷見市社会福祉協議会 個別支援から地域の力をアップするソーシャルワーカーの取り組み	125

④ 地縁の助け合い・交流

109	埼玉県入間市 入間市社会福祉協議会 支えあうぞ！入間	126
110	埼玉県入間市 入間市金子地区地域包括支援センター 金子中央けやき公園から南峯運動場までゆっくり歩く会を立ち上げて見えてきたもの	127
111	和歌山県有田郡広川町 広川町住民生活課 「動いています！広川町 ～輝くあなたがその原動力～」	128
112	埼玉県所沢市 所沢市社会福祉協議会 埼玉県所沢市における金山食堂だれでもランチの取り組み	129
113	岡山県倉敷市 倉敷市社会福祉協議会 倉敷市版の生活支援体制整備事業 ～豪雨二モマケズ～	130
114	静岡県伊豆の国市 伊豆の国市 地域の手による『笑顔の食材市』	131
115	鹿児島県奄美市 奄美市高齢者福祉課 安全・安心見守り隊	132
116	滋賀県長浜市 長浜市社会福祉協議会 身近な地域の支えあい活動 ～かんだサポート会～	133
117	大阪府大阪市生野区 大阪市生野区社会福祉協議会 生野区における「地域のお宝発表会」	134

118	福島県郡山市 郡山市地域包括ケア推進課 郡山市久留米地区地域支援活動	135
119	山梨県南アルプス市 南アルプス市社会福祉協議会 八田ふれあいの会が動き出すまでの経緯	136
120	奈良県葛城市 葛城市社会福祉協議会 ハロウィンで世代が地域がつながった！	137
121	沖縄県国頭郡恩納村 恩納村地域包括支援センター 地元屋号学習と子どもによるゆいまー家庭訪問（ハロウィン編）	138
122	長崎県対馬市 対馬市社会福祉協議会 子どもと高齢者の交流や助け合い	139
123	北海道札幌市 札幌市医療法人社団豊生会 札幌市東区における助け合い活動の概要	140
124	北海道空知郡上砂川町 上砂川町社会福祉協議会 いいんでないかい？ 上砂川町	141

⑤ 特別な切り口

125	兵庫県加東市 加東市高齢介護地域包括支援センター LINE @はじめました	142
126	兵庫県神戸市灘区 神戸市灘区社会福祉協議会 福祉基金の取り崩しによる地域福祉団体への人的支援	143
127	滋賀県近江八幡市 近江八幡市福祉保険部長寿福祉課 商助でつながるお互いさまのまちづくり	144
128	山口県防府市 防府市 介護予防と生活支援を「一体的に提供する」取組	145
129	和歌山県岩出市 岩出市地域福祉課 いわで支えあい協議体取り組み「いわで交流マップ」	146
130	福岡県久留米市 久留米市 NPO 法人くるめ地域支援センター 地域密着型事業所・地域包括支援センターが連携！私たちは校区を守る「津福守るっ隊」	147
131	京都府京都市 京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課 男性の笑顔が地域を支える ～シニア世代の男性の社会参加・仲間づくりを応援！～	148
132	沖縄県宜野湾市 宜野湾市社会福祉協議会 ダンスで繋がるプロジェクト“こんなのあったらな～”を形にする	149

ポスター 番号	カテゴリー D 都道府県の支援	頁
133	大阪府 大阪府福祉部高齢介護室介護支援課 みんなで目指そう 元気、ナンバーワン！ ～介護予防と地域づくりを進める大阪府の市町村支援～	152
134	埼玉県 埼玉県福祉部地域包括ケア課 埼玉県地域包括ケアシステムアニメ	153

■ ポスター問い合わせ先一覧 索引

ポスター問い合わせ先 一覧 (掲載順)	156
索引 (都道府県別)	160

カテゴリー

0

共生の取り組み



わたしたち、たてわりやめました

従来とは違い、今回は敢えて絵のみで作成しました。私たちがこの事業を進める上で、縦割り行政を変えることが最も苦労した点であり、また変わらなければこの事業を進めていくことはできないと自覚したからです。



日本最西端の離島 GOTO 列島 ～行政の部門を超えて連携する～

地域づくり部門の地域協働課『町づくり協議会部会』を生活支援体制整備事業の第2層協議体へ位置付け、助け合いの町づくりの仕掛け作りを行います。

日本最西端の離島 GOTO 列島 ～行政の部門を超えて連携する～

五島市 地域協働課:樋口貴彦★長寿介護課:尾崎美千恵



H30年7月「久賀島の集落」「奈留島の江上集落」の2つの構成資産を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録されました。

五島市は、九州の最西端、長崎県の西方海上約100kmに位置し、大小152の島々からなります。



地域資源を活かした様々な取り組み（椿、海洋エネルギー、マグロの養殖基地化、民泊、離島留学・・・）を展開しています。




地域づくり部門（地域協働課） 地域の絆再生事業

【目的】 住民同士が互いに支え合う「地域の絆」の再生を図るとともに、市民力を結集し、地域の特性を活かしたまちづくりを推進する。

【まちづくり協議会】（組織イメージ）

- 平成27年度～
- 市内13地区で設立
- 集落支援員配置
- 絆交付金（活動資金）
- ※H30決算45,271千円

総会

役員会

福祉部会

〇〇部会

△△部会

○買い物支援



○ふれあい文化祭



独自の事業を実施

【課題】

- ・ニーズ把握
- ・事業の質向上
- ・専門的な支援・・・

○健康講座開催



「地域の声にしかりと対応する組織・活動へと進化する」

- ◆いつも誰かに見守ってもらえて、困っていると助けてもらえる **安心感**
- ◆そこに行けば、仲間がいて話を聞いてくれる **満足感**
- ◆この町で暮らしていけそうな気がする **期待感**

○声かけ・見守り

近隣に住む住民が、気軽に挨拶できる関係づくり



近所の見守りグループ設立

○移動支援

バス停までの移動手段やタクシー会社がない。



「最大の課題」
交通部門との連携

○居場所づくり

高齢者の通いの場の充実



空家や商店空き店舗の活用。常設型へ

○生活支援

日常生活の困りごとを、助け合える関係づくり。



助け合いと有償ボランティアの組織化

まち協
福祉部会



連携

生活支援コー
ディネーター



高齢者福祉部門（長寿介護課） 生活支援体制整備事業

平成31年3月28日 五島市たすけあいの町づくりフォーラム開催
基調講演：公益財団法人 さわやか福祉財団 堀田 力氏
開催目的： 地域協働課との部門を超えた、連携を実現するため。

第2層SCです

堀田会長のトークに会場は釘付け。「やってみよう」と意欲がわき出していました。

参加者約160名

有償ボランティアへ興味深々の会場。やってもいいな？と言う方挙手を！会場の約8割の手が挙がりました。

五島市の社会福祉法人による居場所の紹介。諫早市の有償ボランティアの活動。どれも興味深い内容

令和元年5月28日(火)たすけあいの町づくり勉強会(第1回)参加者70名
体験ゲームで盛り上がりGWでは、地域の助け合い活動について参加者の活発な意見が出されました。第2回目が楽しみ♪

連携に向けて①事業を知る！②他の市町の取組みを知る！③実践に向けて第2層協議体へ丁寧に説明！

まちづくり部局等をはじめとした、さまざまな事業と連動した大崎市流地域包括ケアシステムの深化・推進

様々な部局の行政職員が地域自治組織主催のワークショップにファシリテーターとして協力。生活支援体制整備事業とまちづくり推進課の事業を連動し地域にコーディネーターを配置し課題解決を行っている。

まちづくり部局等をはじめとした、さまざまな事業と連動した大崎市流地域包括ケアシステムの深化・推進

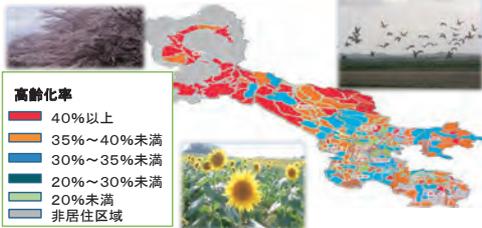


宮城県大崎市



1. 背景

- ・大崎市は1市6町が合併し東西に約80kmあり、その地理的環境から伝統、歴史及び文化が異なっている。また旧市町単位でまちづくり協議会が地域自治の向上・創造を行ってきた。
- ・“まちはみんなで作るもの”をスローガンに「大崎市話し合う協働のまちづくり条例」を制定し地域自治組織の基盤形成と市民協働によるまちづくりに取り組んできた。
- ・昨今、さまざまな課題が存在しており庁内横断的な地域支援が必要になっている。



2. 手法(仕掛け)

①行政による庁内横断的な地域支援

地域自治組織が企画・実施するワークショップ(地域課題把握・課題解決)にて、行政職員が各グループのファシリテーターを担う。住民の意見を引き出し、混在した課題を整理することで解決策をともに創造。

- ファシリテーターを担った部署
- ・社会福祉課: 地域包括ケアシステムの所管
 - ・高齢介護課: 一般介護予防事業等の所管
 - ・健康推進課: 健康増進等の事業を所管
 - ・まちづくり推進課: 地域自治組織の支援を所管
 - ・教育部(中央公民館): 公民館の支援を所管



②まちづくり推進課の地域自治組織支援事業と連動したコーディネーターの配置

地域課題解決のための持続的な取り組み体制を構築する事業(まちづくり推進課)と生活支援体制整備事業を連動することで、生活支援と地域自治支援の機能役割を一体的に推進。コーディネーターを地域雇用し、地域運営している地区公民館などに配置することで地域に密着した活動を展開。

③在宅医療・介護連携推進事業との連動

地域包括ケアシステムを深化・推進するうえで重要となる在宅医療介護連携推進事業と生活支援体制整備事業との連動。地域のニーズに合致した専門職による地域支援を実現。

3. 結果

I)行政職員がファシリテーターを担い、意見を聞き出すことでさまざまな分野の課題把握が可能となった

ワークショップで収集した多岐にわたる意見をもとに、地域自治組織が「地域づくり計画書」(図1)を作成。目指す地域像や方向性が明確となるため、配置されたコーディネーターが、住民ニーズに則した事業活動を進めることが可能となった。

図1: 地域づくり計画書

全3回行程のワークショップ

- 1回目: 地域の魅力・課題を探ろう
- 2回目: 課題の掘り下げをしよう
- 3回目: 解決する手立てを事業化しよう



II) 庁内横断的な支援により地区公民館内に常設サロンをスムーズに設置運営することができた

ワークショップを開催して地域づくり計画書に記載された「公民館内に常設サロンの設置」の実現のためには地区公民館を管理している教育部(中央公民館)との協議を整える必要があった。協議の行程においてワークショップ開催時からファシリテーターとして意見を聞いていたため、住民と行政職員が設置の目的等に共通理解があり、円滑に設置運営できた。

常設サロンオープンセレモニーの様子



III) まちづくり推進課の事業と連動したことにより活動の幅が広がった

まちづくり推進課の地域自治組織支援事業と生活支援体制整備事業を連動させることで、福祉の分野に留まらず、地域課題を解決させるためのコミュニティ・ビジネスを視野に入れた活動を実施することが可能となった。立ち上げ費用等についても、まちづくり推進課の交付金(地域提案型)を複数活用することで地域の事業運営状況や住民力に合わせた財政支援が可能となっている。

IV) 専門職の地域派遣を地域のニーズに合わせて実施することが可能となった

コーディネーターが民生委員・児童委員との定例会を行う中で、「ニーズと担い手の掘り起こしキット」を応用し日ごろ相談を受ける内容を整理。専門職によるアドバイスがあれば解決できる内容について行政が専門職の派遣を行い、意見交換を実施し地域の課題解決力を培うことができた。



4. 今後の展開

地域包括ケアシステムを深化・推進していくためには、さらなる庁内横断的な取り組みが必要になってくる。特に産業や商工などとの連携により創業される、コミュニティ・ビジネスを実践的にアプローチするなど、人口減少社会に対応した持続可能な地域づくりを市民と行政がともに歩みながら地域包括ケアシステムを深化・推進し、ワークショップの開催や解決策実行のプロセスを通して行われてきた人づくり・新たな人材発掘を継続していきたい。

地域包括ケア町内連携会議

～部局横断的に地域づくりをすすめる取り組み～

住民主体の地域づくりや住民サービスが地域包括ケアに向けて一体的に取り組んでいけるよう、部局を超えて話し合う場を設置し、少しずつではありますが内容も充実してきています。

地域包括ケア庁内連携会議

～部局横断的に地域づくりをすすめる取り組み～

吉野町 長寿福祉課



1 経緯

「地域包括ケア」は長寿福祉課だけが担当ではない！

会議では新たな事業化・サービス提供を目標にするのではなく、お互いの業務の中で上がっている地域課題について担当課を超えて考え、得られた気づきについてそれぞれが業務の中で取り組むことを目標として平成28年度に開始した。

背景にあった問題

高齢者の生活実態が反映できているか？

ごみ戸別収集

町営住宅

手続き

交通

活動の機会

同じような取り組み

自治協議会

協議体

2 これまでの経過

H28

- ・地域包括ケアの説明
- ・業務で感じる地域課題について意見交換

H29

- ・協議体の進め方についての説明と意見交換
- ・庁内連携会議の目的や協議内容を整理

自治協議会
1か所

総務、総合政策、環境、住宅、住民窓口、社会教育等の課長で構成



テーマが広すぎる…

地域包括ケア庁内連携会議協議の柱

～会議の目的～

人生の最期まで吉野町で幸せに暮らせるための役割庁内と関係機関の連携

3 現状

長寿福祉課からの働きかけ

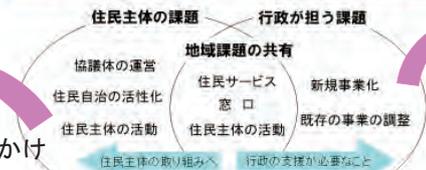
H30

- ・課内で自治協と協議体の関連を整理
- ・自治協担当課との情報交換

H31

- ・定期的な情報交換と共通課題の協議(2か月に1回)

担当者間で協議体と自治協の理解が一致しているか、自治協の動きが見えない、自治協担当者に協議体が理解されているか、などの疑問から、課内協議を経て自治協担当者や社協との協議、さらに交通の課題の協議へと発展。



ごみ収集現場からの課題がきっかけ。

ごみ戸別収集担当課と

- ・認知症の方の分別支援
- ・見守りの充実

サービス担当者会議への参加へ。

自治協議会
4か所

自治協議会担当課
社協と

自治協議会4か所
準備団体2か所

公共交通担当課
社協と

- ・移動手段の整備

地域づくりと交通の一体的検討へ。

4 考察

会議で課題や疑問を提示することで他課で共通の課題が上がっていることや、長寿福祉課の動きを踏まえた対応をとってくれていることが見えてきた。

当初は効果的な協議ができなかった全体での会議も、庁内連携の役割整理によって会議の役割が明確になり、連携が必要な課題別協議へと転換することができたと考えられる。

〔今後の課題〕

- 地域ケア会議個別事例検討で得られた地域課題と自治協議会や協議体との連動
- 限られた人材資源の中で効果的に地域づくりを推進していけるよう、既存の事業や活動、ひとが自治協議会や協議体とつながっていくための具体的働きかけ



発祥の地・“みつぎ” より地域包括ケアシステムを考える

地域包括ケアシステムを考える3つの側面

- ①場所（ハード）、②役割（ソフト）、③協働（ハート）

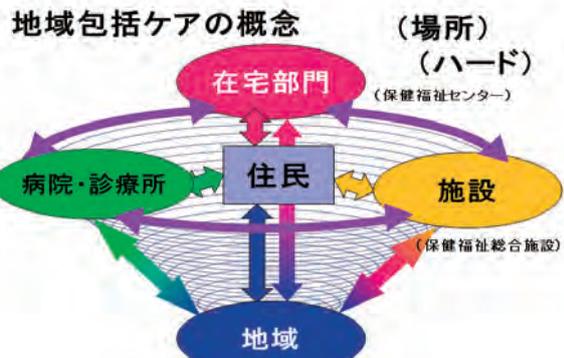
発祥の地・“みつぎ” より地域包括ケアシステムを考える

地域包括ケアシステムとは、本人（乳幼児～高齢者）がどんな状態（健康増進・保健、医療、介護、福祉）であろうが、どこ（在宅、施設、病院・診療所）におられようが、本人や家族のニーズ（人生・生活）に専門職（共助）、行政（公助）、地域住民（互助）が連携して継続的に応えていくシステム

地域包括ケアシステムを考える3つの側面（①ハード・②ソフト・③ハート）

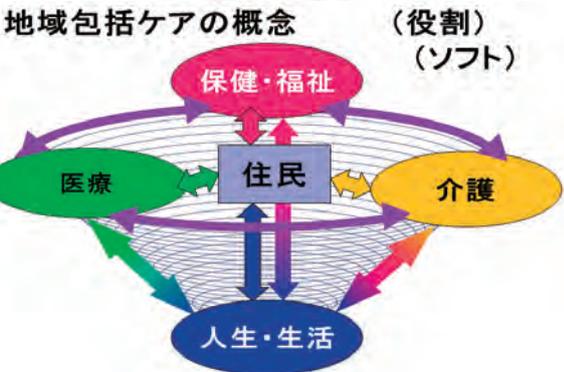
（1）場所（ハード）

- ①在宅
 - ②病院
 - ③（介護）施設
- ⇒ 地域



（2）役割（ソフト）

- ①保健
(疾病予防・介護予防・健診)
 - ②医療
(急性・回復・慢性・緩和)
 - ③介護・福祉
- ⇒人生・生活



（3）協働（ハート）

- ①専門職の多職種・多部署連携（共助）
 - ②行政内の連携（公助）
 - ③地域住民のつながり（互助）
- そして、 共助・公助・互助間のネットワーク

地域包括ケアシステムのネットワーク
— 地域連携システム、点から線へ、線から面へ —



地域包括ケアの概念

(多職種協働・多部署連携)

②専門職として課題に取り組む (ハート)



無関心をやめて、おせっかいを始めたら・・・ まちがひとつになった!!

支え合い活動を通して、まちがひとつになることを教えてくれたのは住民さんでした。豊かな自然の中で、先人たちが築いてくれた「地域の中で暮らすことが当たり前」の精神が、この町の誇りです。



老いも若きも笑顔で集まるその場所は
誰もが役割を持っている。
柔らかな小さな手は、みなぎる生命力と未来への可能性を語り
歴史を刻んだ丸い背中が、生きることのすばらしさを伝えていく。
誰もが誰かのために生きている。



佐々町

この町の人は、隣の人がどしているのか
気になってしかたがない。
この町の人は、支えられる人も支える人
であることを知っている。
ありがたいことに、この町の子育て世代の
9割がこの町で子どもを育てたいと思っている。

平等に、あまたの命を育む川が、この土地で
寄り添って暮らすことを教えてくれた。

この町が好きだ。



カテゴリー

A

体制整備状況

- ①助け合いとS Cの役割の見える化
- ②協議体の編成
- ③協議体の取り組みその他



かるまい助け合いすごろく

生活支援体制整備事業の経過を「すごろく」で作成しました。サイコロの面のように進んだり、進まなかったり様々な壁にぶつかりつつ、助け合い活動に向けて進んでいます。アピールポイントは協議体の選出です。

A 体制整備状況

① 助け合いとSCCの役割の見える化

岩手県軽米町 ~美しい花風景と雑穀文化のまち~

かるまい助け合いすごろく



~軽米町の生活支援体制整備事業の裏話~

- 講演会の人集めに苦労
- 第2層協議体のメンバーにふさわしい人を協議体会議で話し合い、講演会の案内をしたり、口コミで広げたり、声をかけて参加者を集めた。結果、78名もの参加者に!
- 協議体の内容や役割が良く分からず混乱
- 協議体メンバーのほとんどが混乱したが、さわやか福祉財団 山氏の説明や協議体全員で何度も確認して克服!
- 協議体の主体性がなく、事務局(行政)主体になりがちに。
- 協議体主体の移行に向けて、話し合いで意欲(やる気)を引き出したり、活発な意見を出せるような雰囲気づくりで改善!

町のニーズを把握して、具体的な活動に向けてこれからも頑張るぞ!!

<今後の計画>

- 町内2会場で「助け合いの地域づくり講演会」の開催(第2層協議体3か所の立ち上げへ)
- 助け合い活動の周知
- ニーズ把握と具体的な助け合い活動の展開へ

★ 手探りでもやってみないと分からないし、進まない!じっくり丁寧に一歩ずつ進めていくことが大切! ★

支え合い活動「見える化」システム 「地域包括ケアガイドマップ」

地域の①居場所②訪問型支え合い③支え合い協力団体（企業、NPO等）が一目でわかる「地域包括ケアガイドマップ」を作成。他地域の活動を知ることによって気づきをもたらし、自発的な支え合いの推進を行う事となった。

佐世保市生活支援コーディネーター 支え合い活動「見える化」システム

①公式サイト内でWeb学習

何度も学べていいね👍

わからないところは
随時追加しています。

基礎研修会と補足講義を第二層SCが動画でいつでも学べる環境を整備。

②地域で楽しく協議体

初めてでも13地区の計画ができました！

地域で話すことやワークショップは「基本の流れ」があるので初心者SCも安心。

③地域活動の情報収集

地域の通いの場を調べた後はシートにまとめ、地図で「見える化」。※通いの場〇ヶ所

④生活支援サポーターの養成

動画解説付きのメインテキストを活用しSCのみで自立した養成講座の運営を実施。※受講者200人

⑤支え合い活動協力者を募集

場所貸すよ！ 出張します！ 送迎するよ！

社会福祉法人、民間企業をはじめ、50団体が登録。

佐世保市は総人口約25万人、高齢者人口約7.6万人の中核都市で、平成30年7月から体制整備事業が本格的に実施するようになりました。

人口規模から第二層SCと地域住民の意識や地域づくりの進み方に大きな差が出ない仕組みはできないか、という課題から「見える化」を図るようにしました。

今はまだ完成形とはいえない「地域包括ケアガイドマップ」ですが、それぞれの地区で充実を目指し、切磋琢磨し、支え合いの輪を広げていきたいと思ひます。

⑥地域包括ケアガイドマップ

③～⑤の活動を「見える化」したホームページを作成。
→ <https://sasebo-care.com/> ※誰でも見れます。

◆さらに「見える化」で連携を深めています◆

SC、包括、社協がそれぞれ同じような目的で別々に会議や勉強会をする！という地域からの苦情解決に向け、月の行事をクラウド上で共有するようになりました。共催できるものは共催することで、地域からも、負担が減ったと喜ばれています。

<お問い合わせ>

佐世保市第一層生活支援コーディネーター
(担当: 成富 努)

電話: 0956-37-6441

E-mail: info@houkatu.com

ホームページ: <https://sasebo-sc.com/>

お気軽にご連絡ください。繋がりますように！



個々や地域の問題をポジティブに捉えることが問題解決 や健康寿命の延伸に繋がっていると確信しているSC

社会生活を営む上で自己決定し自己実現が全て叶うとは限らないが、様々なシーンで助け合いの気持ちや個々の幸福感が醸成し安心安全に社会生活が営めるよう地域住民と共に構築するSCの役割を表現しました。

地域から未来を創ろうよ

ボランティア 連携 対等 福祉
助けられ上手 運動 買い物支援 助け上手
医療 SC 移動支援 隣人
受容 笑い 庭掃除 居場所
ミニサロン お金 話し相手

ポジティブ変換

喪失感 認知症 不登校 うつ病 転倒
8050 フレイル いじめ 障がい 孤独 欠食
個食 引きこもり 要介護 買い物難民 難病 介護疲れ
他人事 貧困

掛川型地域包括ケアシステムの発展に向けた生活支援コーディネーターの配置

掛川型全世帯型地域包括ケアシステムの核となる掛川市地域健康医療支援センター「ふくしあ」にコミュニティソーシャルワーカーと兼務する形でSCを配置し、あらゆる人たちと協働しながら活動を展開している。



掛川型地域包括ケアシステムの発展に向けた生活支援コーディネーターの配置

目的 人生100年時代を迎え、満足感のある人生を送ることが求められる中、個人と社会を支える地域福祉の重要性がますます高まっている。市民生活の充実に向けて地域福祉をさらに発展させるため、ふくしあ配置のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）に生活支援コーディネーター（SC）を兼務させ、地域を重視した掛川型地域包括ケアシステムの発展を図る。

背景 全国的にも地域包括ケアシステムの構築が必要とされる中、掛川市では2010年から掛川型地域包括ケアシステムの核として掛川市地域健康医療支援センター「ふくしあ」を市内5カ所に設置してきた。年齢や状態による垣根のない総合支援を目指す中で、当初から医療や介護の連携だけでなく、地域福祉や生活支援が重要視されたことから、行政、地域包括支援センター、訪問看護ステーションとともに掛川市社会福祉協議会のCSWを配置してきた。



CSWがSC兼務する意義 「ふくしあ」に配置したCSWが、世代を問わず制度の狭間にある課題や複雑な課題をもった個別世帯に対しても、関係機関はもとより地域住民とのネットワークを活かして対応している。既に地域とともに活動するCSWが目的を同じくする生活支援コーディネーターを兼務していくことは掛川市にとっては至極自然な展開であり、これを契機として、新たな活動主体の支援やネットワーク構築へ取り組んでいる。

今後の方向性 一部のボランティアや市民活動家だけが地域の福祉を考える時代は終わりを迎えています。市民一人一人が、自らの健康を意識し、自身や家族、近隣者、知人に、介護・医療・福祉が必要になったとき、どのように生きていくか考えていくことが求められる時代です。けれど、それは一人で抱えることではありません。地域の中にいるあらゆる人たちと協働して解決していけばよいのです。そしてシステムには柔軟性が必要です。掛川市は、「生活の中で困ったことは『ふくしあ』へ」を合言葉に、市民とともに活動していきます。

30年度以降に限られた時間の中で 住民が関わりながら体制づくりを行った事例

平成30年4月の人事異動でSCとなり、限られた時間の中で焦っていましたが、さわやか福祉財団の鶴山理事に助けていただき、住民が選出した第1層協議体を立ち上げることができました。



“30年度以降に限られた時間の中で、 住民が関わりながら体制づくりを行った事例”



秋田県大館市社会福祉協議会
第1層生活支援コーディネーター 戸澤 真澄



《要旨》

平成30年4月に市から社協へ第1層の事業が委託され、SCは法人内の地域包括支援センターからの人事異動により配置されました。5月から、さわやか福祉財団・鶴山理事にアドバイザーとして関わっていただき、住民向けの勉強会を3回重ね、住民による第1層協議体構成員の選出を行い、平成30年11月に“大館市支え合い推進会議(第1層協議体)”を立ち上げることができました。

1. はじめに

大館市は、秋田犬や忠犬ハチ公、比内地鶏、きりたんぼ、鶏めしなどで有名な、秋田県北部の中核となる都市です。広大な面積を持ち、地域の大部分は山間部ですが、大館盆地を中心に発展してきた歴史あるまちであり、米代川とその支流の流域に添って集落が点在しています。農業も盛んで、自然の豊かな住みやすい環境が自慢です。

人口は、平成31年4月1日現在、71,944人。うち65歳以上は27,588人。高齢化率は38.34%。平成30年度からの介護保険料は、基準月額が6,771円となっています。

2. 生活支援体制整備事業の経過について

大館市では、平成29年4月から体制づくりが始まり、第2層生活支援コーディネーターが6つの生活圏域(地域包括支援センターの区域ごと)に配置されたことにより、協議体の立ち上げに向けた取組みが始まりました。

平成30年度からは、第1層生活支援コーディネーターが市社会福祉協議会に配置され、第1層協議体の立ち上げに向けた動きが始まりました。そして、平成30年11月21日に第1層協議体が誕生しています。

平成31年度からは、地域包括支援センターの地区が細分化され、7つの生活圏域となり、生活支援コーディネーターも1名増員となりました。第2層の協議体は、各地で続々と立ち上げられています。

3. 第1層協議体立上げまでの過程

①『第1回地域支え合い勉強会in大館』開催 (H30.6.29)

内容: 行政説明、基調講演(さわやか福祉財団鶴山理事)、ワークショップ
“目指す大館市像について”
参加者: 約80名



②『第2回地域支え合い勉強会in大館』開催 (H30.8.8)

内容: 助け合い体験ゲーム、基調講演(さわやか福祉財団鶴山理事)、ワークショップ“第1層協議体委員選出”
参加者: 約60名



③『第3回地域支え合い勉強会in大館』と『第1回大館市支え合い推進会議』同時開催 (H30.11.21)

内容: 第1層協議体委員への委嘱状交付、SCの活動報告、基調講演(さわやか福祉財団鶴山理事) 参加者: 約80名



4. その他の取組みについて

●大館市福祉員大会 (H30.7.23)
さわやか福祉財団 丹理事による講演



●新潟『実家の茶の間・紫竹』視察研修会 (H31.2.18)



●小坂町視察研修会 (H31.3.26)



●大館市さわやかサポーター養成研修会 (H31.3.26)



●支え合い推進会議 第2回 (H31.1.17)



第3回 (H31.3.7)



《まとめ》

初めは、社協で選出した委員に委嘱状交付を行って早めに協議体を立ち上げようと考えていましたが、鶴山理事に相談し、勉強会を重ねたことによって、SCや協議体に関する他の、支え合いの効果や面白い取組み事例なども知ることができました。回を重ねるごとに参加してくださった住民のみなさんの意識が変わっていき、市全域にこの事業の理解者が増えたと感じています。当初の計画よりも時間はかかりましたが、住民の意向を尊重して丁寧に進めていくことの重要性と効果を知ることができました。

SCと大館市の担当者



今年度も
ますますパワーアップして
がんばります!!



大館市社会福祉協議会

〒017-0836 秋田県大館市池内字大出135番地(大館市立上川沿公民館内)
TEL: 0186-42-8101 FAX: 0186-42-8104

E-mail: chiiki@oodate-shakyo.or.jp (担当: 生活支援コーディネーター 戸澤)

いきがい・助け合いサミットin大阪 2019

*事業の推進に多大なるご協力をいただきました、さわやか福祉財団のみなさま、本当にありがとうございました! 今後どうぞよろしくお願いいたします。



多摩市まるっと協議会の活動と今後の体制

多摩市では、2017年度より民間団体に第1層コーディネーターを委託し活動をリードしてきたが、今後第2層との連携を強化しより地域住民の課題解決につながる取組みを展開する体制整備と地域活動を報告する。

多摩市まるっと協議体（第1層協議体）の活動と成果、今後の展開 生活支援体制整備事業（第1層SC）受託団体 一般社団法人多摩マイライフ包括支援協議会



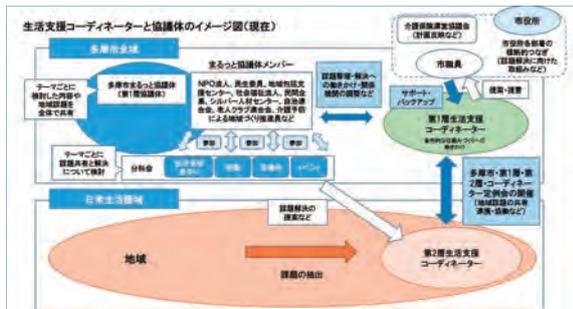
東京都多摩市（2019年5月1日現在）
 ◆人口：148,964人 ◆高齢化率：28.2%
 ◆要介護認定率：13.5%
 多摩ニュータウンのまち。高齢化が急速に進行中。

◆経過

2015年度 生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体設置
 2017年度 「多摩市まるっと協議体」に名称変更

●構成メンバー：社協、シルバー人材センター、老人クラブ、自治会連合、
 社会福祉法人、地域包括、民生委員代表、
 医師会、一般企業等 ※18団体で構成

◆まるっと協議体の位置付け



◆地域懇談会で抽出した地域課題から分科会方式で解決方法を検討

- ①居場所、②移動、③生活支援・見守り
④イベント（啓発）

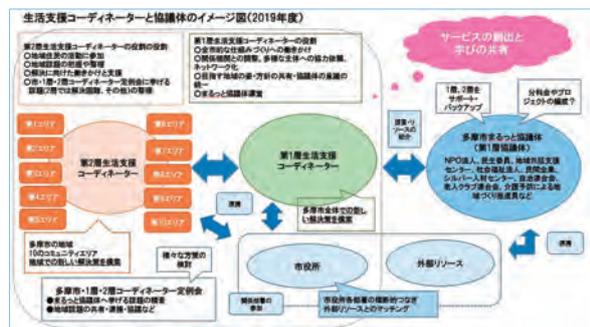
開催状況	2017年	2018年	成果
まるっと協議体（全体会）	4回	3回	分科会の取組みを共有
居場所分科会	6回	7回	モデル事業実施
移動分科会	7回	10回	地域選定し懇談会開催
生活支援・見守り分科会	5回	7回	生活サポーター養成講座実施
イベント分科会	8回	9回	健幸・支えあいフォーラム開催

第1層協議体で
地域課題を解決
できる？
↓
検討から実践へ
展開しよう！

◆地域課題解決へ向けた合意と課題の再整理へ⇒第1層・2層・地域のリーダーを集めた研修会開催



参加者約100名
 地域ごと（10カ所）に
 課題を共有し、解決の
 方向性を検討・合意



◆2019年度

まるっと協議体は、全市的な検討をする全体会と分科会に加え、地域課題解決へ向けて第2層の支援活動の強化を目的に課題解決プロジェクトチーム方式を導入
 ◇地域を限定した移動の仕組み開発を推進
 ◇住民主体による訪問型サービスの担い手の拡大
 全市的募集から地域を限定して発掘
 ◇地域住民啓発活動の推進・・・など
サービスの創出と学びの共有へステップアップ！

協議体立ち上げにつながる講演会

協議体を立ち上げるきっかけとして、開催した講演会のプログラムを紹介。財団の講師の協力のもと、当市は、12生活圏域中11地区で立ち上がりました。これから検討されるSCさんのヒントになれば幸いです。

協議体立ち上げにつながる講演会

協議体の立ち上げを目的に開催した住民向けの地域包括ケアシステム講演会を開催しました
(小学校区域:全12地区)

プログラム

① 地域包括ケアシステムとは？

講演会の主旨を説明
「誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからは、住民だけでなく、専門職も一緒にみんなで支えあう地域をめざす」



② 地域の頼りになる味方を紹介

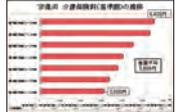
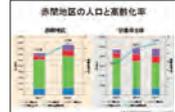
地域の味方

一緒に地域づくりを考えてくれる地元の専門職(交番・介護保険事業所・在宅医療・障害者施設・葬儀屋など)に協力を依頼し、講演会の中で地域に対してどんな貢献ができるのか発表してもらいました。



③ データから見える地域の現状

高齢化率や世帯構成・介護保険料など地域の現状と、宗像市の第7期介護保険事業計画を紹介しました。



地域の支えあい活動は、実際に活動している住民の代表者が紹介しました。



④ 地域の社会資源の紹介

地域の社会資源として、今すでにある地域の支えあい活動(居場所づくり・買い物支援・お助け隊など)を会場のみなさんに紹介しました。



さわやか福祉財団による講話

地域の未来を考えるためにはどうする？



講演会の様子は、お便りで紹介しました

地域の特性や活動を踏まえ、笑いを交えながら、地域づくりのヒントを講話くださいました。講話の最後は「協議体」の名前決めを行い、協議体の導入をスムーズに行うことができました。

協議体が立ち上がっています



<お問い合わせ>
福岡県宗像市高齢者支援課
地域包括ケア推進係
TEL 0940-36-1285
koureisya@city.munakata.fukuoka.jp



観音寺市の地域づくりの取組

コーディネーター・協議体メンバーは地域住民自身が希望し、決定している。毎月開催する話し合いも、コーディネーターを中心とし、活発にアイデアを出し合っている。『住民主体で』

協議体メンバー・コーディネーターは地域住民で「選出・運営」

香川県観音寺市の地域づくりの取組

『住民主体で』

まちづくり支援隊（第1層協議体）



協議体の後方支援

【役割】 第2層協議体の立上げ支援

『ほっこり劇団』 各地区とも3回の勉強会を実施 グループワーク
 (第1層協議体) による寸劇 『助け合い体験ゲーム』 『目指す地域像』



地域づくり支援隊（第2層協議体）

各地区の第2層協議体 毎月1回話し合う

地域の事を話し合うので楽しい！

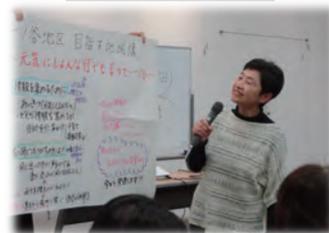
協議体は「やらされ感」がない

いまいまとよた



第2層協議体全体交流会の様子

あったかーノ谷



ぼちぼちとよはま



たりたりときわ



石川県羽咋市の生活支援体制整備 ing

「次世代につながる、助け合いのある地域に」H28年にキックオフ、きっかけづくり・理解することからはじめ、現在3地区で第2層生活支援協議体が発足。リーダー全員男性 行動力あり！女性の情報力・ネットワークに納得！これからの展開が、楽しみです。



はくい 石川県羽咋市の生活支援体制整備 ing

平成31年4月1日現在
人口 21,561人
高齢化率 38.8%
介護認定率18.1%(暫定値)

平成29年3月
支えあいのまちづくり講演会・活動報告会
・行政説明 ・住民主体活動発表
「みんなでつくろう 助けあいのある羽咋市」
講師：堀田力氏



平成30年6月～3月
「〇〇地区の支えあいを考える懇談会」
「勢いあるな」
ワークショップ



町会役員、民生委員、議員、看護師、地縁活動者、主婦、事業者、店主、派出所警官、老人会長、元ヘルパー、元保育士、ボランティア、市職員...

令和元年 第2層の月例会実施中



第2層生活支援協議体設置プロセスと職員をつぶやき
「助け合いのある住みよい羽咋に」

山辺市長
H28年度
「地域に働きかけよう」
集い新設・拡充進行
・第1層生活支援協議体設置
・公民館単位地域懇談会

H29年度
「第2層の立ち上げよう」
「きっかけ欲しいね」
「理解から始めよう」
「押し付けたくない」
「支えあいのまちづくりを考える」
・現状と将来理解
・助け合い体験

H30年度
「新しい顔の人いたね」
「この地区、勢いあるね」
「即、活動開始？」
「賛同者少ないけど」
「最も必要だと
思う活動」
・具体化
・ニーズ把握
「支えあいのまちづくりを
考える」
・現況と将来理解
・助け合い体験

「ハードルはあるけど
できるところから」

第2層生活支援協議体発足
・定例開催
・行政、社会福祉協議会協働
・担い手発掘
・自分発見
・協議体参加意欲確認

**3地区発足
11地区中**

⇄⇄⇄ 3ステップ懇談会×4地区で開催 ⇄⇄⇄

さわやか福祉財団の継続支援
地域懇談会⇒協議体準備打合せ⇒発足式⇒定例会

2018年11月28日発足 一/宮ささえ愛隊



2018年12月14日発足 柴垣で愛会隊



2019年3月27日発足 スマイル千里



「次世代につながる、助け合いのある地域に」

- ・困りごと調査を自分たちで...集計分析中
- ・元焼肉屋借りれるぞ、集いの場にしんか
- ・毎日どっか行けるとこ作らんか
- ・気軽に相談できるカフェを公民館で
- ・粗大ごみ運搬支援は有償
- ・可燃ごみは無料ませんか
- ・買物支援は御用聞きから などなど

フラニンギ

住民さん、力ありますね！」「すぐ動きそう！」「これからの展開が、楽しみですわね！」

A 体制整備状況

② 協議体の編成

少しの「できる」が「ええまちごせ」をつくる

「協議体」が発足するまでの御所市の生活体制整備事業（平成30年度～現在）の経過を示しています。



2018年8月4日、「みんなでつくる助け合いのまちづくり『ごせあったかフォーラム』」を御所市中央公民館で開催し、120人を超える市民が参加しました。

第1部では、公益財団法人さわやか福祉財団戦略アドバイザーの土屋幸己さんが、今後わが国の社会保障制度に生じるさまざまな課題について説明され、地域での「助け合い・支え合い」活動の重要性を強調されました。

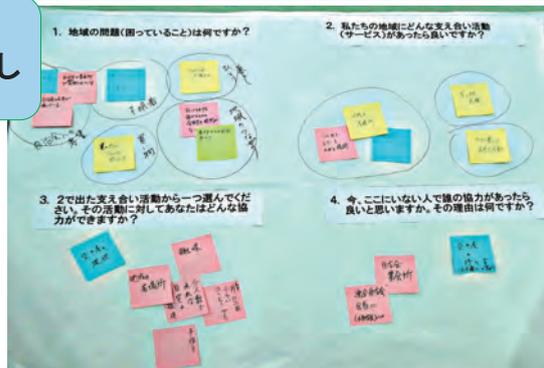


第2部では、市内で「助け合い・支え合い」活動がされているみなさんが、生きがいづくりや介護予防運動、サロン活動、見守り、有償ボランティアなどの活動内容を報告し、参加者はさまざまな事例に熱心に耳を傾けていました。「ええまちごせ」をめざし、地域で助け合い、支え合うために、一人ひとりができることは何かを考える最初の一步となりました。

「ごせあったかフォーラム」を経て、市民対象で『助け合いのまちづくり勉強会(全3回)』を開催しました。

- ① 地域のつながりの希薄化
- ② 情報不足
- ③ 交通難民
- ④ 日常生活の不安
- ⑤ ひとり暮らしの方の安全・見守り
- ⑥ 災害時の不安
- ⑦ 空き家・空き地問題

人口減少や少子高齢化が進み、地域のつながりの希薄化や高齢者の孤立化など、さまざまな課題が浮き彫りになりました。

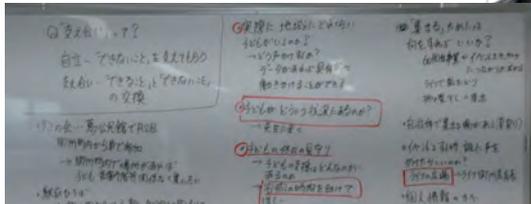


「協議体」の立ち上げ 平成31年4月23日

【目指す地域づくりの効果】

1. 地域(居場所)の活性化
2. 地域・活動者の把握
3. つながりの再現＝見守り
4. シニアの生きがい＝生活支援

課題と向き合うために、市民13名で「協議体」を発足しました。今後、地域の情報を共有し、御所市ならではの支え合いの仕組みを協議し、活動を進めて行く予定です。



御所市役所

地域づくりの源は「協議体」に、 協議体づくりは地域の納得から !!

地域の強力な組織力と実践力を底力に、地域の特色にある弱みを強みで補完することで、将来につながる安全、安心の校区社会の実現を目標に、校区一丸となり、その原動力となる「協議体」の設置に全力を傾注した。

「とことん話し合うバイ “地域のこだわり”」

地域づくりの源は「協議体」に、協議体づくりは地域の納得から !!



ひとよし おこぼ
— 熊本県人吉市大畑校区 —

100年の歴史を経た大畑駅で
毎週、地域の高齢者が出迎え
おもてなしを行っている。



大畑駅に連結するループと
スイッチバックを走るななつ星

目的：校区の自主性尊重による、目指す第2層（小学校区）協議体の創造と土台にある構成町内の体力強化

【校区の状況】

概要	<p>中山間地に位置し坂道が縦横無尽に走る。病院もスーパーもなく。人口1,521人、高齢化率44.5%の限界集落が目前。などの多種多様な地域課題（生活環境）が潜在。ただ、そこには歴史が刻んだ産業遺産群が連なる文化的価値や住民、地域間の強固な連携意識が宿り、他校区に誇れる自然環境、人的資源が地域土壌に存在する。</p>	
窮状	<p>（昔は） ・各町内に商店があった。 ・路線バスが走っていた。 ・診療所があった。</p> <p>（今は） ・何もかもなくなり、人は減り、高齢者と一人暮らし世帯が増加</p> <p>（共通の嘆き） ・買い物、病院受診等が大変、せめて公共交通の整備でも…</p> <p>・免許証返納にフレキ ・タクシー代だけでも大変</p>	

【協議体設置までの道程】

主眼	<p>『協議体』という新たな枠組みで、校区のピンチを切り開く！ その母体を「大畑校区社会福祉協議会」とすることで発車</p> <p>「住民主体」とは？ から始まり、以後は地域主導で進捗！</p>	
背景	<p><入口（難問）> ・現活動充実の自負（限界、負担感） ・担い手人材の不足</p> <p><打破（実践）> ・校区住民の相互理解 ・10回超の役員等協議 ・地区別座談会の実施</p>	<p><協議体設置・SC配置> ・設立発会式の開催 ・住民主体、地域主導の合意形成（気運醸成）</p> <p>基調講演を挟み盛大に行われた協議体発会式 ※活動拠点をコミセンに併設</p>

【取組みの方向（推進体制の強化）】

主眼	<p>最大の強み『現活動基盤』を活かした持続可能な体制づくりの措置！ 町内単位の『小地域ネットワーク活動（地縁組織等の集合体）』の機能強化</p> <p>町内毎の小地域ネットワークネットワーク推進会議の様子</p>	
背景	<p><潜在する課題> ・役員のなり手がいない ・役員の高齢化 ・情報共有の希薄</p> <p><体力強化措置> ・担い手の安定確保 ・世代交代の円滑化 ・組織運営の健全化</p> <p>校区ならではの視点</p>	<p>実践①（役員の安定確保） ■各地縁団体役員任期の1年間重複の導入 役員交代後の1年は、旧・新役員と一緒に活動し、負担軽減（安心感）と、組織活動の安定強化を図る</p> <p>実践②（事業の円滑推進） ■協議体支援体制の充実に向けた組織再編 小地域ネットワークを土台に「町内別地域支援合い推進会」をおき、事業の後押しと町内活動の拡充を図る</p>

【目指す事業推進の基本成果】

着地点	<p>* 住民主体、地域主導の確立による自主機能の発揮 * 結果を急がず、今ある体制での持てる機能の最大発揮 * 町内自治活動の安定充実による協議体活動との相乗効果</p> <p>協議体の充実 = 元気な活動</p>
-----	--

ポイント：「身の丈に合った協議体の設置」を踏まえた「住民の知恵と工夫」による負担のない事業推進 !!



朝霞市の地域の助け合いが芽吹く～つながりづくりの意識醸成から支え合いの活動がはじまるまで～

人口の流入が激しい地域であり、住民のつながりが希薄化が進んでいる首都圏にも関わらず、皆さんが力を合わせ、自分たちの力で“地域をよくしたい”、“つながりを広めたい”との思いが強く、潜在的な地域力がある市です。

朝霞市の地域の助け合いが芽吹く

～つながりづくりの意識醸成から支え合いの活動がはじまるまで～

平成30年10月9日

地域のつながりを考える市民フォーラムを開催



地域のつながりや支え合いの仕組みを市全体で学び、共有



自分たちでどんな取組ができるか、助け合いを広める仕組みを学んだ



平成30年11月14日～平成31年1月17日
地域のつながりを考える学習会を開催



市内5つの日常生活圏域

に第2層協議体が発足！

助け合いの芽が少しずつ育ち始めました



その後・・・

ある地域では、地域の資源を把握し、新たな集いの場の立ち上げの検討が始まりました。



自分たちの地域だからこそ自分たちで助け合う。
大切なのは和気あいあいと楽しくね！



また別の地域では、協議体の立ち上げを地域に広め、より多くの仲間を集めつつ、地域全体を巻き込んだ助け合い運動に着手しようとしています。

埼玉県朝霞市長寿はつらつ課

地域包括ケア推進係

電話 048-483-4520

メール tyoju_haturautu@city.asaka.lg.jp

◎むさしのフロントあさか



綾瀬市社協が取り組んできた生活支援体制整備事業

- ①第二層協議体を市内全地区に設置することを旨とし、まずどのようなことを決めてきたか。
- ②現在の市内の状況（第二層協議体）③綾瀬市社協が考えた「生活支援体制整備事業神輿の法則」を紹介

綾瀬市社協が取り組んできた生活支援体制整備事業

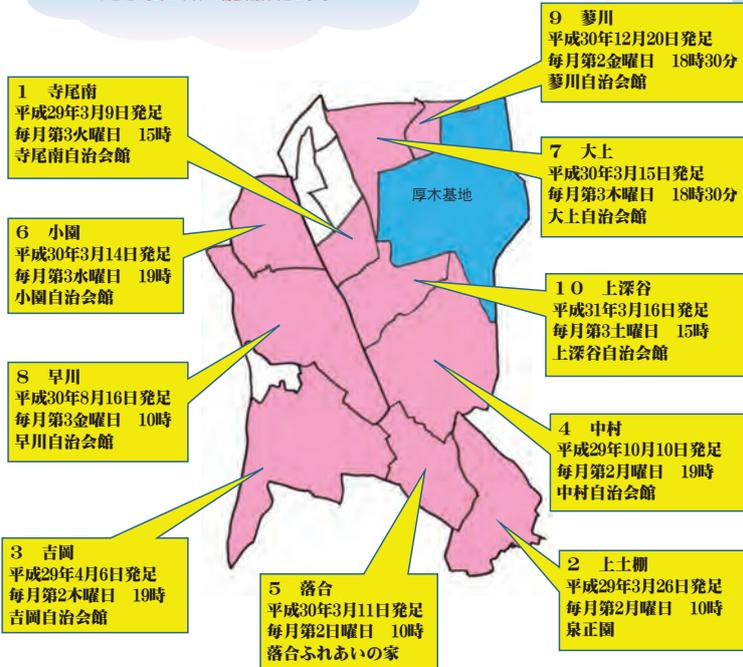
神奈川県綾瀬市(令和元年5月1日現在)
人口 84,423人
世帯 34,843世帯
高齢化率 27.01%
面積の18%強が在日米軍と海上自衛隊の厚木基地になっている。
2020年に東名高速綾瀬IC(スマートインターチェンジ)開設予定
工業地帯が4つあり、中心産業となっている。
緑豊かな田園風景も多く有り、ホタルも飛び交う地域がある。
電車の乗り入れがなく、神奈川県で唯一の「駅のない市」とである。

市社協 VS 地区社協
→ この状況は避けなかった
委託者の丸投げ、地域包括の無関心
→ そんな状況を作りたくなかった
→プロジェクトチームの編成
リーダーは行政！社協は事務局(裏方に徹する)

第二層協議体？よくわからない名前だ・・・
親しみやすく、活動をイメージしやすい名称がいい
→「ささえあい井戸端会議」にしよう！

平成28年5月に
綾瀬市社協が受託

圏域設定をどうする？
第二層協議体の想定圏域
→中学校区
綾瀬の中学校区5校
民生委員エリア6地区
地域包括エリア4地区
綾瀬の日常生活圏域は14地区の自治会が主導している。
お殿様(自治会長)が14人→隣接する地域で同盟は組めない
→14地区のささえあい井戸端会議を設置しよう



ささえあい井戸端会議の話題

- ・地区内の社会資源の把握が必要
- ・免許返納後、買い物や通院手段が無くなることへの懸念
- ・ひきこもり高齢者の発掘と集いの場の必要性
- ・通学路の見守りをお願いできないか(学校より)
- ・引きこもり高齢者の外出のきっかけ作り
- ・高齢者のゴミ捨て問題

こんな活動に発展しました。

- ・買い物支援活動の試行運行の実施
- ・通学時見守り活動の実施
- ・ニーズ調査を実施
- ・ひとり暮らし高齢者を自治会運動会に招待

1 従来の神輿(活動)

今までの神輿は、国が設計し、行政や社協が制作して、担ぎ手(地域住民や団体、施設)を募ってきました。しかしそれは、神輿(活動)の大きさや重さ、担ぎ手の人数や実情、デザインが必ずしも釣り合っていないため、上手く担げない状況がありました。

2 地域には地域にあった神輿(活動)が必要

行政や社協が作った神輿(活動)を担ぎましょう(やりましょう)。と言われても大きさや重さが釣り合っていないと担ぎ難い。また、地域には神輿(活動)の材料(社会資源)が豊富に有り、担ぎ手(地域住民や団体、施設)が大勢いるものの、地域に合った神輿(活動)の設計図が描けていない。担ぎたいけど、どこに行けば良いかわからないという状況があります。

3 神輿(活動)には魂(ニーズ)が必要

立派な神輿(活動)があっても魂(困りごとや思い。これを「ニーズ」と呼びます。)が宿っていないと神輿(活動)とは言えません。地域には様々な魂(ニーズ)があります。神輿(活動)に乗せる魂(ニーズ)を探しましょう。

4 神輿(活動)を設計し、材料を集め、組み立てる

神輿(活動)の設計図(目指す地域の理想像)を作りましょう。それができたら材料(社会資源)を集め、神輿(活動)を作ります。この作業が「ささえあい井戸端会議」なのです。

5 神輿(活動)を担ぐ(行う)

誰が担げばうまく動きますか？神輿(活動)は一人では担げません。担ぎ手(地域住民や団体、施設)は地域にたくさんいませんか？それを振り起こすのも「ささえあい井戸端会議」の役割です。

6 神輿(活動)は地域実情で速度(時間)が違う

神輿(活動)をゆっくり進める場合もあれば、街を駆け抜ける山車(活動)もあります。魂(ニーズ)を送り届ける速度(解決の時間)の違いはあっても、担ぐ目的は祭りを盛り上げよう(解決に向けて取り組んでいこう)とするものには変わりありません。

7 魂(ニーズ)の数だけ神輿がある

魂(ニーズ)が違えば、神輿(活動)も変わります。担ぎ手(地域住民や団体、施設)が子供の子供神輿であったり、車輪がついた山車であったりするかもしれません。障害がある人も担ぎたい。車いすの人も山車を引いてみたいと言えば、それによって神輿(活動)や山車の形も変わります。

8 祭り(生活支援体制整備事業)が開催される

たくさんの神輿(活動)が練り歩き(行われ)活気ある声がかんえれば、住民もたくさん集まってきます。地域に無関心だった人が喚起されるかもしれませんし、自分も担いでみたいと思う人も出てくるでしょう。地域では設計が困難であったり、材料費が高額になる神輿があるかもしれません。そのときは、やはり行政が大きな神輿を作り、時には住民の力を借りて担がなければならないかもしれません。「こんな神輿が必要だよ」という声をあげるのは住民の皆さんで、その声を受け止めるのが行政であり、設計図を描き、神輿を作るのが「第1層協議体」なのです。さあ、祭りを盛り上げましょう！

綾瀬市社協作成
生活支援体制整備事業
「神輿」の法則



地域で助け合うまちづくり

まだ始まったばかりで住民の皆さんと試行錯誤しながら進めていますが、地域を良くしようという意識は高く、今回初めてのキックオフミーティングを切っ掛けに大きく進展をしようとしています。

地域で助け合うまちづくり

茨城県石岡市第2層協議体

八郷北・南地区は、キックオフを切っ掛けに第2層協議体が出来上がりました。今後の活動に注目してください！！



平成31年4月23日、石岡市第2層協議体6圏域共同のキックオフミーティングを開催。それぞれの協議体で悩んでいることを共有し、改めて「助け合うまちづくり」をイメージしました。



石岡地区の第2層協議体は、誰もが親しみやすく『ほほえみネットワーク会議』と名前をつけました。



府中地区の第2層協議体は、いつも笑顔が溢れるように『スマイルネットワーク会議』と名前をつけました。



城南地区の第2層協議体は、地域みんなで支え合おうと『ささえあいネットワーク会議』と名前をつけました。



国府地区の第2層協議体は、空の様に繋がりを広める意味で『あおぞらネットワーク会議』と名前をつけました。



協議体の発足について

大づかみ方式勉強会による、住民のための協議体委員を選出した方法とニーズ調査から担い手を選び選出した2方法を紹介

協議体の発足について

対馬市第2層 S C 桐谷有貴

豊玉町第2層協議体発足まで...

協議体選出勉強会を実施！
全3回

○呼びかけ：豊玉町管内区長・民生委員児童委員・老人クラブ会長

フォーラム参加者（賛同者）・学校・郵便局・銀行・スーパー・商工会

○内容

説明

第1回 H29.7.27

- ・行政説明「介護保険制度とこれからの対馬」
- ・基調講演「助け合いの地域づくりを今、皆で考える時」
- ・ワーク 「目指す地域像を考えよう！」



イメージ

第2回 H29.8.23

- ・振り返り「目指す地域像の共有」
- ・ワーク 「助け合い体験ゲーム」
- ・講演 「生活支援コーディネーターと協議体の役割」

+α 参加者の意見から
学校・郵便局・銀行・商工会
スーパーにも呼びかけ！！



選出

第3回 H29.9.9

- ◎ どういう“人”を協議体のメンバーに...
- ・振り返り
- ・ワーク 「目指す地域像にするために、どういう人をメンバーにしたらいいか」



勉強会ごとに、アンケートを実施！

・助け合い活動にご賛同いただけますか？

・目指す地域像の実現のために、自ら活動したいと思いますか？

・お住まいの地域（第3層）における助け合い活動の推進に、自ら活動したいと思いますか？

・豊玉町（第2層）における助け合い活動の推進に協議体メンバーとして活動していただけますか？



アンケートやワークの意見を基に、メンバーを選出！！

H29.10.16 ほのぼの隊（豊玉町第2層協議体）が発足 ☆



峰町第2層協議体発足まで...

★峰町の各地区への介入

・地域のニーズを把握するために、島内の75歳以上の高齢者宅を訪問しアンケート調査を実施！
⇒住民ワークショップを開催！（ニーズ調査の結果を住民の方へお知らせ）

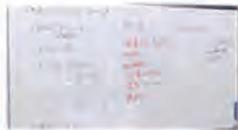
◎ニーズ調査

内容

- ・生活上のお困りごと
- ・利用したい有償 V o
- ・参加したい有償 V o
- ・参加したい居場所 等

◎民生委員児童委員さん・区長さんの協力

- ・ニーズ調査時：調査対象者宅への同行訪問
- ・ワークショップ開催時：住民の方への周知（地区内放送やチラシの配布）



活動に協力的な人・前向きな人・活発な人・新たな担い手が発見できる！

ニーズ調査の対象者でも、「困っているから助けてほしい！」だけでなく「自分にできることはしたい！」と“助ける側”に回れる人も！！

たくさんの人と関わりを持ち、協力者・担い手の発見へ繋がった ☆

ニーズ調査、ワークショップ、地域住民からの信頼等を踏まえ検討。

協議体メンバーを選出 ☆ H31.3.25 峰町（第2層）協議体が発足 ☆

豊玉町・峰町協議体発足後...

地域の声を反映させるため、住民にとって身近に感じる範囲（校区ごと）にグループ分けをし、打ち合わせを実施！
S Cが中心となり協議体と一緒に助け合いの取り組みを広めます！



自分らしく暮らせる日常生活圏域は住民主体で決めよう！

山も谷もなく、病院もスーパーも駅もある4km四方の穏やかな町は、危機感の少ない、体制整備事業の落ちこぼれの町でした。そんな町に、住民が主人公になった支え合いの芽が出た！原動力はやっぱり「自分ごと」。

A 体制整備状況

② 協議体の編成

「身近」は、自分たちが知っている！



【長野県小布施町】
人口 / 10,999人(4/1現在)
高齢化率 33.8%
・半径2km四方におさまる
長野県で一番小さな面積の町
・扇状地の地形に、27の地区
・小中学校は各1校ずつ

主人公は私たち！

長野県小布施町
松村地区協議体（第2層）

「ハッピーライフまつぼっくり」の皆さん

1 H29年度末、生活支援コーディネーターは追い詰められていた

H27年度から、第1層協議体の立上げに向けて、11回もの協議体準備会を開催したのに、形にならない…

こんな小さな町なのに、支え合いの仕組みが作れないのは、なぜ…？

さわやか福祉財団 SOS!

住民目線で、仕組みを考えていますか？

大切なのは、支え合いが続く仕組み！

2 行政が使う「日常生活圏域」を、考え直してみた

「お役所用語」は、実態に合っていないからではないか？

そもそも、行政がいう「中学校区」というくりは、住民の皆さんの日常生活圏域のイメージと合致しないのでは！？

さわやか福祉財団 高橋望さん

小布施町の皆さんにとっての「身近な支え合い」が生まれるにはどうしたら良いだろう？

役場・社協・生活支援コーディネーターは、スタート地点から再検討…

3 方向転換！住民主体を考えて、まず、**第2層**から。町域レベルではなく、小さな地区単位でコツコツ勉強会をスタート

え！役場がなんとかしてくれるんじゃないの！？

自分の暮らしを支える仕組みなんだ！

顔が見えるつながりが、大切なんだね！

自分ごとなんだね。支え合いって。

4 自分たちの暮らしを考える「協議体」が誕生！ → しかし、「おらち(自分たち)に、できるんかい？」「無理だよ」と、不安を口にする皆さん…

一番大切なのは、私たち住民の想いだね！

皆さんは、どうしたいですか？

住民主体の協議体が機能するまで、生活支援コーディネーターは、とにかく伴走！行政の考えではなく、住民の想いを大切に、仕組みづくりをお手伝い

7ヶ月後

5 支え合いを目的とした仕組みと活動が、ザクザク出てきた！スタートした！

だれでも食事会、認知症の勉強会、雪かき、見守り などなど

映画会、健康教室

「松村地区に暮らす子どもも大人も、だれもお互いを尊重して生活していくために、居場所づくりと支え合いを進めよう！」

そして、これから

小布施町はようやく第2層協議体が1つ。でも、松村地区の住民の皆さんの活動は「強い」「行動力」「団結力」を教えてくださいました。

大切なのは、協議体をつくることではありません。その先に、**住民主体の支え合いが機能すること。**

丁寧な仕組みづくりが、実を結ぶ。プレず、あきらめず、進めていきます。

松村地区に続け！

小布施町第1層生活支援コーディネーター
(長瀬 大樹・伊藤 由花)
電話:026-242-6680

住民主体の助け合い活動創出に向けた協議体の体制整備 ～東京都北区「志茂ジェネ協議会」の事例から～

綿密な戦略構築に基づくマネジメントと継続的な会議運営を通じ、子育て世代と中高年者が世代を超えて助け合える多世代型地域包括ケアシステムの構築に取り組む事例として、東京都北区志茂地区の協議体を紹介します。

住民主体の助け合い活動創出に向けた協議体の体制整備 ～東京都北区「志茂ジェネ協議会」の事例から～

村山幸子※1・村井義子※2・若松由香※3・酒井史子※4

※1 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム（協議体構成員）、※2 みずべの苑 高齢者あんしんセンター（第二層コーディネーター）、※3 北区社会福祉協議会（第一層コーディネーター）、※4 東京都北区役所 健康福祉部 長寿支援課（生活支援体制整備事業担当）

東京都北区志茂地区では、**子育て世代と中高年者が世代を超えて助け合える多世代型地域包括ケアシステムの構築**に取り組んでいる。

地域包括支援センター所属の「見守り／生活支援コーディネーター」は、自治体および第一層コーディネーター（社協）による後方支援のもと、第二層協議体（通称：志茂ジェネ協議会）を運営している。協議体の主な取り組みは

①多世代交流・助け合いの拠点づくり、②助け合いの基盤となる住民同士のつながり構築に向けた「多世代あいさつ運動」の実装である。

本発表では、コーディネーターの綿密な戦略構築に基づくマネジメントと、柔軟な体制からなる継続的な会議運営を通じ、住民主体の助け合い活動創出に取り組む事例として、志茂ジェネ協議会を紹介する。

後方支援

- 自治体：地域アセスメントのためのデータ提供、アドバイス等
- 第一層コーディネーター（社協）：戦略構築のサポート等

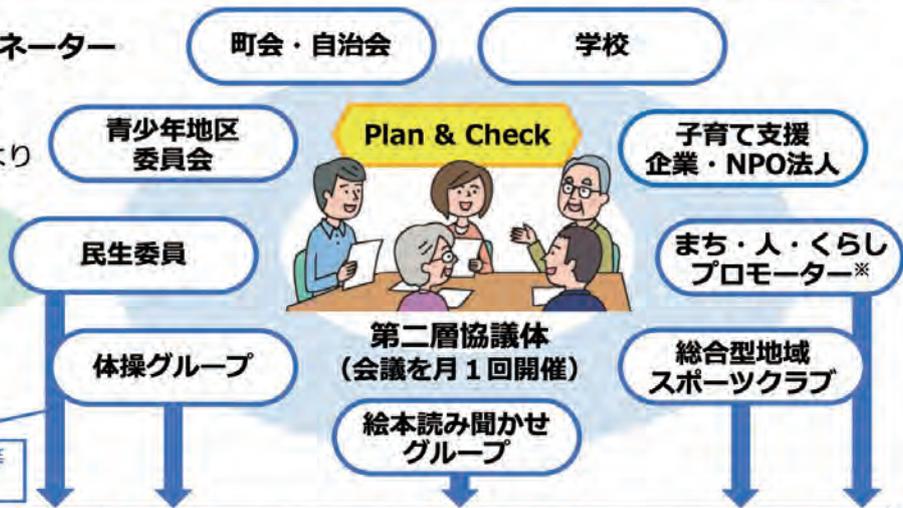


第二層コーディネーター（包括）

以下①～③により協議体を統括

- ① 地域アセスメント
- ② 目的の階層化
- ③ ロジックモデルを用いた活動・事業のマネジメントと評価

拠点でカフェ・サロン等を運営している団体



Do & Action



▲ 建物外観

北社協 志茂地区小地域活動拠点（愛称：しもぞうハウス）

- 協議体に参画する住民の協力により、空き家を活用した多世代交流・助け合いの拠点を2018年にオープン。
- **第二層協議体を通じて「多世代共生」「互助」という理念を共有**した複数の地域活動団体がそれぞれの持ち味を活かしたプログラムを展開。
- 各団体は、自身の活動を通じて気付いた**課題や住民のニーズを第二層協議体に持ち帰り**、他団体に支援を求めたり、団体間の連携を通じた解決策を検討することができる。



◀ 活動の一例：カフェ はなみずき

まち・人・暮らしプロモーター*がカフェを運営。月替わりのプログラムの他、ボタン付けや裾上げの手助けをする取り組み（ちょこっとお手伝い）を開始。
※第二層協議体が独自に養成した住民ボランティア



みんな一緒に体制整備

担当だけでなく、たくさんの人に助けてもらい体制整備に取り組んでいます。



四万十町（高知県）
面積642.28km²高知県第1位
全国でも38位の広い町です
人口は17,040人
高齢化率は43.5%
(H31.3.31現在)

四万十町は、みんなと一緒に体制整備をしゅがやき！

Pick up 生活支援体制整備 行政勉強会（H29.7）

住民から第2層協議体メンバーを募る前に、行政が知らないでは話にならない!!と行政勉強会を実施。町長の呼びかけで各課の課長級に参加を求め、一般職を含め79名で生活支援体制整備を学びました。副町長曰く「行政勉強会で最高の参加人数だった。それだけ関心が強い」とのこと。



【第2層協議体】

第1層協議体はH28年6月に設置。第2層協議体設置に向けてさわやか福祉財団の長瀬氏に協力していただき、

3回の大づかみ勉強会を開催（H29.9～H29.10）

第1回目の勉強会は2圏域で開催。第1層メンバーの口コミ宣伝効果もあり参加者135人と、会場が満杯でした。

第2回、第3回の勉強会を経て2圏域でメンバーが決定。

H29年11月より月1回協議体会議を開催。年に数回2圏域の協議体が情報共有し、より良くするために意見交換をしています。



行政、包括支援センター（以下包括）、社協、福祉事業所、老人クラブ、ボランティア団体等で構成されていた第1層協議体も第2層協議体の安定と共に見直し、福祉事業所、老人クラブ、ボランティア団体等は第2層へ。行政・包括・社協が第1層として第2層をバックアップをする形に変更しました。

第2層協議体は一年半活動していく中で出たアイデアを単発ながら形に出来ていて、助け合いベンチ作り、移動販売の拡大、食べきれない農作物の無料配布など小さな実績を重ねています。

更に**住民目線の情報を聞きに町長、副町長等が参加**する時もあります。



生活支援コーディネーター（以下SC）は2圏域で一人ずつ配置し、住民が欲しい情報を提供し、住民の声を行政に伝え、住民同士も繋げていくよう頑張っています。なお、SCの2名は包括に所属しており、SC同士の情報共有や行政への報告、相談等細目に行えているため、協議体は2圏域に分かれています。町全体で生活支援体制整備を進めています。



Pick up 移動サービス勉強会（H30.6）

協議体の困りごと話で毎回出てきていた移動問題。悩み事ピラミッドの一番上（行政対応）の問題でしたが、「自分たちで何か出来ないか?」「住民主体で小さな移動サービスが出来ないか?」

「やっている所に話を聞きたい!!」という意見から移動サービス勉強会が実現。

その結果、公共交通改善等を担当課だけでなく、他課や地域住民が協力し、バス停まで来れない方のサポートなども話し合い、住みよい町づくりに取り組んでいます。

これから目指すもの

行政の集落担当職員制度を活用し、集落と行政の結びつきと住民活動のバックアップ。集落単位で座談会を開き、より細かい地域情報の吸い上げと、他集落の活動情報の提供等。集落単位で助け合い活動が出来るよう、手助けが出来たらと考えています。

いきがい・助け合い活動に関する取り組み

大船渡市では、第2層の生活支援コーディネーターを住民が担っています。そのため、地域での人間関係が最初から構築されており、地域の資源や住民をよく理解しているため、地域に合わせた活動となっています。



いきがい・助け合い活動に関する取り組み

【第2層協議体について】

● 第2層協議体の設置状況

大船渡市は11の地区に分けられており、2015年12月、蛸ノ浦地区で最初に助け合い協議会が設立されました。そこから約3年半後の2019年4月には、越喜来地区の協議体が設立され、**全ての地区に第2層協議体が設立**されました。



綾里地区助け合い協議会設立の様子

	蛸ノ浦	吉浜	盛	赤崎	日頃市	大船渡	末崎	猪川	綾里	立根	越喜来
設立	H27 12月	H28 6月	H28 8月	H28 10月	H28 12月	H29 2月	H30 8月	H30 8月	H30 8月	H30 12月	H31 4月
SC	女性 2名	男女 各1名	男性 2名	男女 各1名	男女 各1名	男女 各1名	男女 各1名	男性 2名	女性 2名	男性 2名	女性 1名

● 第2層協議体の運営

(1) 大船渡市では、**各地区の住民が主体となり運営**しています。協議体の構成は各地区ごとに差はありますが、地区内にある自治組織の長や介護事業所、民生児童委員、警察、消防団、サロン運営者などの多様な人材が参加しています。

他地区のSCを招いての勉強会の様子（綾里地区）



(2) また、**SCについても地域性や人的資源を把握している地域住民が担って**おり、介護保険制度等の理解を深めながら事業に取り組んでいます。



末崎地区の役員会議の様子

● 第2層協議体の活動

(1) 基本的にはどの地区もアンケート調査をすることで地域内の高齢者の現状把握をし、その結果に対応した活動や資源開発に取り組んでいます。設立時期によって活動内容の多寡に差異はありますが、**サロンなどの居場所づくりをメインとした活動が多くなります。**

(2) 現在、各協議体自身が感じる課題感としては、**「担い手不足」「サロン参加者不足」「サロンへの男性の参加不足」「サロン実施場所の確保」**といったことが挙げられます。地域の課題としては、**「移動手段の確保」「被災者の移転先でのコミュニティ形成」**など、震災前からある課題と被災地特有の課題がある地域があります。

(3) 今後、地域を良く知るSCを中心とした会議体において、**「軽微な作業の支え合い」「支え合いマップづくり」「ジブント化するための勉強会」**などを進めていく地区が多く、アンケート調査を活かしてこれから進めていくという状況です。

【地区活動ピックアップ】

地区	内容	地区	内容
吉浜	・地域資源の調査と周知。地区内の小売店8店の配達等の状況について広報にて周知 ・地区内サロンの活動状況確認、座談会実施	盛	・緊急時の連絡網作成（サロン参加者） ・高齢者「なやみごと相談所」を開設 ・広報紙「てんじんやま」発行 ・認知症サポーター養成研修会実施
赤崎	・赤崎地区助け合い通信の発行 ・東北電力、社協と連携した高齢者の見守り活動（電気器具清掃活動）の実施	日頃市	・開設しているサロンの活動状況確認 ・住民支え合いマップづくり研修会実施 ・地域内介護事業所を招いての勉強会
大船渡	・サロン活動の立ち上げ支援 ・地域毎の「おはなし会」を開催 ・介護事業所の運営会議への参加	綾里	・他地区の実践内容について学ぶ情報交換会を開催 ・地区内の各地域への生活支援推進員設置



始めよう！支え合いの地域づくり in みやき町

みやき町では平成30年4月より生活支援体制整備事業がスタート。始まったばかりですが、参加者一同地域への熱い思いで取り組んでいます。これからが楽しみなみやき町の取り組みのはじめの一歩をご紹介します。

始めよう！支え合いの地域づくり in みやき町



協議体発足にむけての取り組み

H30年1月～3月準備期間

生活支援体制整備事業の進め方を町と検討。ボトムアップを意識し第2層から協議体を立ち上げる事を決定。支え合いの実践者養成のため、生活支援サポーター養成講座を実施。2月に3中学校校区で勉強会を行う。

H30年4月より生活支援体制整備事業がスタート

中原、北茂安、三根の3つの中学校校区を2層、町全体を1層とし、2層にSC3名、1層にSC1名配置。県のアドバイザー派遣事業を活用し、1年間さわやかインストラクターの江口陽介氏に伴走してもらえることに！

5回の準備会では、3校区とも同じテーマについて検討。

協議体への理解を深めてもらうため、民生委員協議会(民協)と老人クラブとの意見交換会を実施。大きな協力が得られるように！

9月には民協の協力でニーズ調査も実施。

H30年11月30日フォーラム開催

準備会での各校区の取り組みと目指す地域像を報告。第2層協議体の発足式とする。

H31年3月第1層協議体発足

協議体発足後の取り組み(第2層協議体)

みやき町の紹介

佐賀県の東部に位置し北は筑紫山脈、南は筑後平野に面している。

人口 25,669人
9,871世帯

高齢化率 33.8%

日常生活圏域 3中学校校区
(H31年4月現在)



準備会参加の呼びかけは、町報での案内、生活支援サポーターをはじめ、民生委員などの地縁組織に。だんだん参加者が...

	テーマ	中原	北茂安	三根
第1回	行政説明「助け合い支え合いの地域づくりに向けて」講演「協議体について」江口陽介氏	43人	61人	49人
第2回	目指す地域像①(こんなまちにしたいな...)	41人	57人	41人
第3回	目指す地域像②まとめ協議体の構成員を考える	27人	45人	27人
第4回	協議体の名前を考える①協議体について・町の要綱説明	23人	39人	35人
第5回	協議体の名前を考える②これまでの振り返り・発表準備	17人	31人	26人
フォーラム	講演「始めよう！支え合いの地域づくり」阿部かおり氏 校区報告(目指す地域像等)・協議体発足式	155人参加		



フォーラムで校区の取り組みを報告された方を中心に協議体の世話人さんになっていただき、一緒に協議の場について打ち合わせをして協議の場を運営する事にしました。

中原校区 第2層協議体 「風のまちなかばる」 ～あいさつから始まる交流の輪～	北茂安校区 第2層協議体 「よっていかんね北茂安」 ～人に優しく支え合いができる町～	三根校区 第2層協議体 「よかよか三根」 ～気軽に集える場所から始めよう～
第1回 民協のニーズ調査の結果から移動の問題を考える事に。 世話人会でコミュニティーバス試乗。その気づきを参加者に報告	第1回 民協のニーズ調査の結果から社会資源の把握から取り組む事に。 食べる事は大事。まず食事からだね 知っていたら困りごとを減らせるよね	第1回 目指す地域像から気軽に集える場所作りに取り組む事に。 持丸区の古民家を始め、居場所になりそうな所を探す... そもそも居場所って場所？人？ ふれあいサロンの違いは？
第3回 いろんな気づきをもとに、町とも意見交換。町作成の運行ダイヤ表を使いやすくアレンジする事に 要望が多くなるのは困ってるからだよ	第3回 アンケート作成・対象店選出 第4回 配達などに関するアンケートを食料品店舗等に依頼 名付けて買い物お助け手帳	第3回 坂口区をモデルに生活支援の仕組みづくりを検討。区の協力で全戸にニーズ調査実施。 第4回 アンケート結果より検討 区へのお礼と報告会
第4回 アレンジした試作品で検討。活用方法も... 完成後サロン代表者会で紹介	第5回 集まった情報から必要な情報を抽出 第6回 社会資源パンフの校正と今後の取り組みの検討。 通院などの外出に困る人の対策を考えて行こう！	第5回 ニーズの検討の続き 第6回 MAGOボタンと連携した生活支援の仕組みづくりをしていこう！ こんな仕組みを作りたい

高崎市の支え合いのあゆみ、高崎市の協議体

A：高崎市としての事業開始からの経緯、地域の特性を踏まえた2層協議体発足の手法や第1層協議体の位置づけを説明している。B・C：協議体が行ってきたい機能や創出された活動を写真を踏まえて紹介している。

A 体制整備状況

③協議体の取り組みその他



高崎市の支え合いのあゆみ

－ みんなでつなごう支え合いの輪！ －



事業に対する理念

- 住民主体の支え合い活動を体制整備により生み出す
自分ごととしてとらえる意識へ主体的・自律的な基盤づくり
地域人材と社会資源を掘り起こし
できること・できること探し
- 地域・市民の提言を施策へつなげる仕組みをつくる

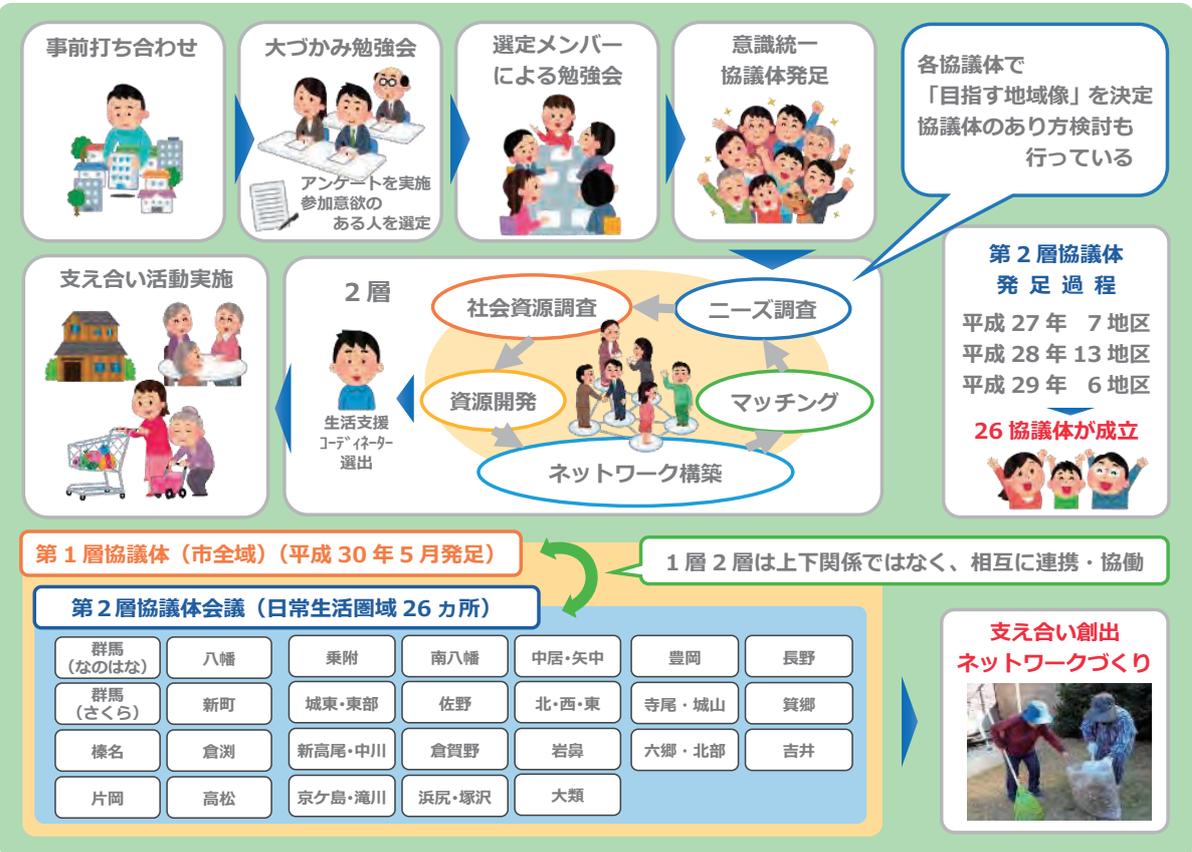
高崎市概要

人口	374,361人
世帯数	164,404世帯
高齢者人口	102,407人
高齢化率	27.36%
要介護等認定率	16.3%

平成30年7月末現在



体制整備事業のあゆみ



高崎市は地域住民が自分の住む地域が「こうなったらいいよね」という思いで話し合い、その実現に向けてみんなで頑張っています！！



高崎市の支え合いのあゆみ、高崎市の協議体

A：高崎市としての事業開始からの経緯、地域の特性を踏まえた2層協議体発足の手法や第1層協議体の位置づけを説明している。B・C：協議体が行ってきたい機能や創出された活動を写真を踏まえて紹介している。

A
体制整備状況

③協議体の取り組みその他



高崎市の協議体活動紹介

－ みんなでつなごう支え合いの輪！ －



①アンケート調査

データを収集し
傾向を分析
YES・NOで聞ける
内容を中心に！

②個別聞き取り調査

できるだけ答えて
いただけるような
方法で対面で聞取る
本当のニーズが聞ける

ニーズ調査

③皆さんが集まる場所
(集会所・公民館等)で聞き取り
気軽に回答できる
個別の聴き取りと
傾向の把握が可能！

④サービス提供者に
当事者ではない、聞き取り
第三者の目線から
困りごとの
把握が可能

佐野地区協議体作成
買い物・食事処マップ 2018年8月

社会資源把握

周知活動

住み慣れた我が家で
暮らし続けるために
協議体が発足しました

協議体が発足

協議体会議

地域住民が自分の住む地域が
「こうなったらいいよね」
という思いで話し合い、
その実現に向けての
取り組みをみんなで考える場

担い手養成

地域支え合い
サポーター
- HANDBOOK -

地域支え合い
サポーター
養成講座を実施

生活支援

地域支え合い
サポーター活躍中！

資源開発

買い物支援

移動販売車
をよんで、
買い物の
サポート！

社会参加・介護予防

高齢者の居場所補助事業（一般介護予防）毎週開催中

高崎市では多種多様な支え合いの活動が、市内に広がることを大切にしています。

ささやかだけど“キラッ”と輝く 地道な取組を学び合う「実践報告会」

近畿以西で最大の面積を持つ庄原市。先進地ではなく市内の取り組みから、派手ではなくても大切なポイントが見える事例を取り上げ、互いに学び合った報告会についてご紹介します。

ささやかだけど “キラッ”と輝く

地道な取組を学び合う 「実践報告会」

協議体（2層 20 圏域）を通じた地域の取り組みが進み始めたことから、それぞれの活動の大切さを再確認し、新たな活動につながる場となることをめざして開催しました。

ポイント

- 市内の事例にこだわり、身近に共感できる会にする。
- 取り組みの途上で良いので、“キラッ”と輝くような大切なポイントが見える事例を取り上げる。
- 「自分たちにもできる」と前向きな気持ちになれる。



【広島県庄原市】

■市面積	: 1,246.49 km ²
■総人口	: 35,241 人
■高齢者人口(率)	: 14,946 人 (42.4%)
■後期高齢者人口(率)	: 8,850 人 (25.1%)

<H31.3.31 住民基本台帳より>

**人口減少・高齢化が進む一方、
地域のつながりが強く、住民自治組織を
中心としたまちづくりが進む地域です！**

面積 ≧ 東京 23 区 または 琵琶湖の 2 倍
人口 ≧ 神宮球場の収容人数

※神宮球場：35,000人（マツダスタジアムの33,000人よりちょっと多い）

高齢化率は日本全国の50年先より上を行く

※国立社会保障・人口問題研究所の平成29年推計では2069年の日本は3.8%

地域の実践報告

キーワードは、「生活感」「手づくり感」「地元感」

地域の実践者と生活支援 Co. が一緒に登壇。会場から質疑・応援コメントを受ける時間もしっかり取りました！



マップ作りの作業中。日頃のつながりや災害時の声かけについて確認できました。

おぬか
小奴可地区

「防災と見守りのマップ」

防災をきっかけに、地域包括ケアや自助、互助について学習。みんなで「見守りマップ」づくりをすることで、地域のつながりが見える化。気になる世帯も確認し合うことで、普段の気かけ合いが広がった。平成 30 年 7 月豪雨の際には避難に役立った！

質疑・応援コメント

Q: 「つながりが無い人」はどうやって分かった？

A: 回覧板が回らない等、普段から皆が感じていたことだった。

【応援コメント】自分の地域が目指している事を形にされていて勇気をもらった！



協議体の会議。膝を突き合わせて色々な話をします。

そうりょう
総領地区

「協議体の立ち上がり」

自治会（3層）の取り組みを進める中で、より広い地域（2層）で課題を考える場が必要という声。そこから立ち上がった協議体は、言いたいことが言えるさくばらんな会に。「わいわい・がやがや」から課題解決の取り組みが進行中！

質疑・応援コメント

Q: ひとり暮らしの方の身内の連絡先はどのように把握する？

A: まずは隣家に聞く。会議で話題が出たら個人情報の扱いに注意する。

【応援コメント】地域の先々のことを考えて取り組まれていることが素晴らしい！



住民ワークショップの様子。ここから取り組みが広がりました。

みわた
峰田地区

「地域の声を集めて広がる輪」

住民自治組織が行ったワークショップの意見から、地域のよいところを生かすための住民アンケートを実施し、地域の現状を把握。協議体の取り組みでは横のつながりが意識されるようになり、「自分ごと」から「自分たちごと」に、地域の意識が変わってきた！

質疑・応援コメント

Q: アンケートを詳しく書いてもらうために工夫したことは？

A: 今取り組んでいることも掲載し、イメージしやすくした。

【応援コメント】地域の声を大切にする貴地区の後姿を見ながら、自分たちも頑張りたい！

充実した質疑と他地域からの応援コメントで、学び合いが深まり、やる気もアップしました！

展示コーナー

活動報告のポスターや、地域資源をまとめた冊子等の成果物を展示するコーナーを設け、7 地域 8 件の出展がありました。



この会を受けて、発表をした地域に問い合わせや講師依頼があるなど、地域同士で高め合う動きにつながっています！

広島県庄原市生活福祉部高齢者福祉課
第1層生活支援コーディネーター 上田 正之
生活支援体制整備事業担当 今村 俊洋

A 体制整備状況

③協議体の取り組みその他



いきがい
助け合い

いつまでも ふだんの 暮らしを しあわせに！ 「ホッ」とするまち いちはら

必見！もう悩まない！生活支援体制整備事業はこれで！！市原市での成功事例を教えます！地域で頑張ってくれている方々と一緒につくりませんか？元気な地域を・・・

A 体制整備状況

③ 協議体の取り組みその他

必見！

協議体・コーディネーター奮闘中

いつまでも

前に進めるためのヒント

1人で悩まない！

① だんの ② らしを ③ あわせに！

「ホッ」とするまち いちはら

～千葉県市原市生活支援体制整備事業の取り組み～



包括ケアシステムの構築～いちはらの基本コンセプト～

介護保険制度

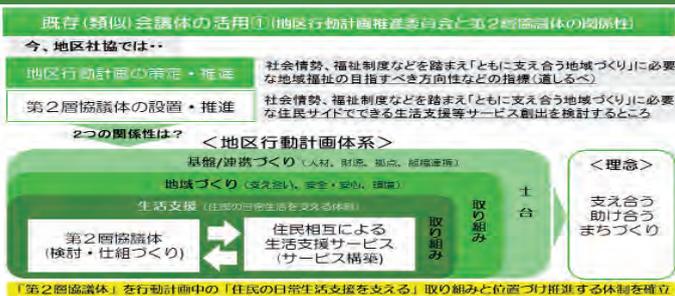
地域福祉

市原市では、高齢者を支える仕組みづくりのツールである「生活支援体制整備事業」を活用し介護保険と地域福祉を絡めた、地域全体で支え合う仕組み「地域包括ケア（生活を支える仕組み）」の構築を進めています。市内全域（11地区）で策定した「地区行動計画（地域福祉の羅針盤）」では、協議体・SCを活用した「生活支援の体制づくり」を位置付け、全協議体（11地区）で地域一丸となった取り組みを目指しています。

成功秘訣 1 「地区行動計画推進委員会」の活用



住民の思いで策定した 11 の計画！



成功秘訣 2 「協議体の体験勉強会」規範的統合

3ヶ所3日間9回の修行 430名が熱い議論！！



ゴミ出し支援

生活支援有償サービス



【話しを聞きたい方はここ！！】(千葉県)市原市社会福祉協議会 第1層SC

目指すはごちゃませ オールSADO

第1層協議体は、佐渡市全域の課題を抽出し、4つの部会に分かれ検討する体制づくりを行いました。第2層は、それぞれの圏域で確立した「目指す地域像」を掲げ議論を始めています。



目指すはごちゃませ オールSADO

1. 佐渡はこんなところ

東京23区の1.4倍！
ひろ～い佐渡



2. 現状と課題

○現状 【H31.3.31現在（ ）は前年同期比】

- 人口 54,656人（-1,203人）
- 65歳以上人口 22,497人（-315人）
- 高齢化率 41.2%（+0.4%）
- 限界行政区 703行政区中248行政区

○課題

- 免許返納後の買い物や通院
- 独居世帯、高齢者のみ世帯の見守り
- 集落運営、地域コミュニティの弱体化
- 世代間のつながりの希薄化

3.体制と目指す地域像

第1層協議体では、佐渡市全域での課題を抽出し、4つの部会（食、見守り、社会参加、移動）に分かれて検討する体制づくりを行いました。事業所によるサービスの創出やネットワークの構築、支え合い活動を応援する仕組みなどをメインに検討を進めています。

第2層協議体は、さわやか福祉財団の協力を得て、体制づくりを行いました。それぞれの圏域で確立した「目指す地域像」を掲げ、SCと共に地域の実情に応じた助け合いの地域づくりに向けて議論を始めています。



4.今後の展望

「孤立を防ぎ、高齢になっても元気に活躍できる地域づくり」

佐渡市内にはサロンや茶の間など240箇所ほどの居場所があります。SCが活動と活動をつなげる橋渡し役を担い、世代間で交流がしやすいよう、まずは“顔見知り”の関係を築き、高齢者だけでなく、子供や障がいのある方など、みんなが役割をもって活躍できる地域づくりを目指します。

できることから少しずつ、地域の思いを形に「佐渡愛」を持って、第1層2層、行政、企業、団体、住民等がごちゃませとなった「オール佐渡」での取り組みを推進していきます。



板橋区における協議体の取組 ～18地域18色の支え合いの地域づくり～

板橋区では住民主体で協議体を立ち上げて、住民の方も生活支援コーディネーターになっています。情報共有を行いながら、地域で「お互いさまのつながりづくり」が作れるように応援しています。

板橋区における協議体の取組 ～18地域18色の支え合いの地域づくり～

協議体の周知・PR

地域へ新しい取組みが始まったことを知らせるために作成しています。



協議体の継続開催

テーマにあわせて小グループに分かれて話し合う地域もあり、どの地域も「ワイワイガヤガヤ」と茶話会のような楽しい雰囲気でお話し合いをしています。



アンケート等による地域ニーズの把握

地域の困り事等を把握するために、地域のイベント等に併せてアンケートを実施しています。



協議体の紹介PR

- 協力者の増加
- 各活動への参加者増加
- 活動空白地域の判明



協議体連絡会の開催

協議体同士の活動紹介・情報交換を通じて、他の地域の取組からヒントを得たり、お互いの活動を参考にする等、相互にモチベーションアップを図る目的で開催しています。



地域への働きかけ・企画

高齢者の社会参加等を促すために、町会や老人クラブ等と協力して、支え合い活動の体験やPRを行うイベントや企画の開催やお手伝いを行っています。



▲多世代型食堂のお手伝い

東京都 板橋区 おとしより保健福祉センター 地域ケア推進係

☎03-5970-1114 メールアドレス: ki-oto-care@city.itabashi.tokyo.jp

板橋区

みんなが参加したくなる楽しい場をつくる！！

各務原市では2018年度に全域で第2層協議体の設置が完了しました。多様な方が自ら参加している場を追求し、「知らなかった地域情報を知ることができる」、「様々な人と出会うことができる」協議体を目指しています。

みんなが参加したくなる楽しい場をつくる！！

かかみがはらの協議体

各務原市の第2層協議体設置の取組

「生活支援等サービスの体制整備には多様な主体の参画が効果的な取組につながる。」
各務原市ではそこを軸に第2層協議体の設置に取り組みました。

取組の始めとして、各地域で支え合い活動の実例や協議体の意義を伝える講座を開催。各地域の支え合い活動実践者のお話や、さわやかインストラクターによるたすけあいゲームを通じ、支え合い活動に興味関心を持っていただくことに努めました。

続いて、協議体の参画者集め。講座参加者や地域で活躍する方々に広く声かけを行い、自ら参加を希望された方々とともに協議体を立ち上げました。

2018年度には各務原市の全域で第2層協議体の設置が完了。第2層協議体の数は11、通算回数は53回(2019年3月末時点)。2019年度は第1層協議体を開催し、各第2層協議体の情報を交換・共有できる場づくりを進めていきます。

今後も多様な方々が自ら参加している場を追求し、「今まで知らなかった地域情報を知ることができる」、「様々な人と出会うことができる」から楽しい！そんな協議体を作っていきます。



【生活支援コーディネーター】末永達也・田中新樹

■共に各務原市社会福祉協議会地域福祉課 職員

わがまち茶話会の回数を重ねる中で、参加者から、「実は私も思っていた・気になっていた」等の声を聞きました。地域への思いを個々の胸の内に留めている方がいらっしやると感じています。

「わがまち茶話会」を運営していく中では、参加者の潜在意識に「人が集まる場＝会議」のイメージが根強く残っていて、戸惑うこともありました。

今後は、地域の方々の「わがまち茶話会」に対する理解を一層深めて、多様な参加者が増えることで地域の支え合い活動にプラスに働くといった好循環を目指していきます。

各務原市の第2層協議体の特長

- 誰でもいつでも参加OK 参加しないといけない人は誰もいない
- 協議体の名称はみんなで決める わがまち茶話会 etc
- 次の開催日はみんなで決める 開催ペースは様々
- 終了時間はみんなで決める 盛り上がるから目安の時間を超えることも

各務原市役所 健康福祉部 高齢福祉課

2018年度第2層協議体の様子



「生活支援活動の話をごきょうで始めて聞きました。自分の地域でも必要なものだと思います。地域の集いで今日の話を話してみます。」



「所属している団体が買い物支援の取組を考えていて、アンケート調査を行っています。」
↓
「私は高齢者の通いの場を毎月開催しています。そこでアンケート調査に協力できますよ。」



つなげよう！吉野川市助け合いの会

「できること探し」、「協力者探し」、「実践」へとつながる協議体活動を目指し頑張っています！！



吉野川市の概要

つなげよう！吉野川市の助け合い

吉野川市は徳島県北部のほぼ中央、吉野川の中流域南岸にあります。市の南部は四国山地の北部にあたる山地で、高越山を始め急峻な山々が連なっています。
人口 41,094人 高齢化率36%(H31.4.30現在)



協議体は、各圏域とも月1回の頻度で公民館等を利用して開催しています。メンバーは、民生委員・地縁組織・ボランティアなどで構成されており、必ずしも各組織の会長などの役職がある方ではありません。話し合いでは、テーマが決まっていないことに対してメンバーからの不安や、地域情報の出し方がわからずに沈黙になったり、急いだり、ハードルの高い問題もできます。今後は「まずは自分たちで出来ることから」という観点に戻りながら話し合い、上手に地域情報をアイデアや活動につなげていきます。

《協議体紹介・活動紹介》

第1層協議体

吉野川市支え合いたすけ合いの会



情報共有の工夫
白地図活用！！

第2層協議体 5圏域(中学校区)

1. 鴨島東中学校区

花咲くおせっかいの会

① 公園の麓で毎日集まっている高齢者がいる。インタビューしてみよう！！

② 座るところがない

③ 地域のボランティアさんに声をかけてみよう！

④ ★ベンチ設置★



良かった！！この椅子がきたから、楽に集まれる！！

2. 川島中学校区 手をつなごう川島



① どの団体もリーダーの不足・活動の広がりが難しい！

ここに座っていた…おしりが痛い…

② 若い人達に意見を聞いてみたい

③ 協議体メンバーが若い団体と調整

④ 座談会開催

30代・40代が参加してくれました！！私達には地域情報がない！

3. 鴨島第一中学校区 鴨一支え愛の会 絆



広い地域だから、不安

地域によって工夫がちがう

いろいろな地域で同じ名前だけど活動内容が違う！！

4. 美郷中学校区 世話やき待 ほたる



H31.3月設立
高齢化率56% 人がいない！困ったどうしていいの？

5. 山川中学校区

山川地区福祉活動実行委員会



民生委員さんの協力でアンケート実施！やっぱり移動が問題

《コーディネーター》

協議体メンバーのお話は、地域情報の宝庫うまく話を掘り下げられない…毎回反省しながら楽しく頑張っています！！

愛媛県松前町における助け合い活動創出に向けた取り組み

愛媛県松前町では、平成27年度当初から松前町社協の協力のもと生活支援体制整備事業において、多様な主体の助け合い活動創出に向けて取り組んでいる。紆余曲折の段階を経て今年度に至っているが、3つの第2層協議体の特色ある取り組み経過を写真付きで報告する。

A 体制整備状況

③協議体の取り組みその他

愛媛県松前町における助け合い活動創出に向けた取り組み



○平井栄理子¹⁾、門屋隆文²⁾、奥村栞²⁾

- 1) 愛媛県松前町保健福祉部健康課地域包括支援センター係
- 2) 社会福祉法人松前町社会福祉協議会地域支援課地域福祉係



要旨

当町では平成27年度から生活支援体制整備事業において、住民主体の助け合い創出に向けた取り組みを開始した。現在までの展開について、第2層協議体の活動を中心に報告する。

年度別の展開

年度	主な展開
平成27(2015)年度	「松前町助け合い隊養成講座」開設；地域課題を考え、出来る活動を考え、実践する人材（担い手）育成
平成28(2016)年度	制度理解と目指す地域像のイメージ統一；大づかみ勉強会の開催、岡田校区第2層協議体スタート
平成29(2017)年度	地域情報共有の土台作り；松前校区第2層協議体スタート、第2層協議体連絡会の開催、北伊予校区第2層・第1層協議体スタート
平成30(2018)年度	第2層協議体ごとの助け合い活動に向けた準備期；地域情報の「見える化（白地図の活用）」、困りごとやできそうなことのマッチングとフィールドワーク
平成31 (令和元；2019)年度	各校区の特徴ある取り組みの本格的な地域への展開と、「担い手」や「応援隊」を地域に増やす取り組みへ（予定）

第2層協議体の助け合い活動創出に向けた取り組み

①岡田校区

地域情報の共有を茶話会形式で開始 → 地域情報を可視化する、白地図にシールを貼る等社会資源をマッピング → 買い物支援のため移動スーパーのメーカーとの話し合い → 1行政区での**互助による助け合い活動「ちょこっとお助け隊」**チラシ作成、サロンでの二ードの聞き取り

②松前校区

社会資源のマッピングによる校区の見える化から開始。子供の登下校見守り支援や買い物支援を検討。 → 浸水被害を機に、**一人ひとりができる減災対策**アプローチへ。減災対策を普及啓発するため、対策を検討・デモストし、媒体を作成。サロン等への啓発へ。

④第2層連絡会

【目的】それぞれの取り組みの情報共有や**相互助言・協同、活性化を促す**
 【効果】町内**ネットワークの基盤固め**、人材発掘、各協議体活動の活性化

③北伊予校区

地域情報マッピング、見える化 → **コミュニティバスを有効な移動ツールとして活用**するために現地調査。バス停から始まる**魅力発見・発信へ【町民課による新ふるさとづくり総合支援事業との連携】**

高知県宿毛市 第2層協議体 毎月開催中!!

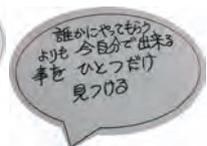
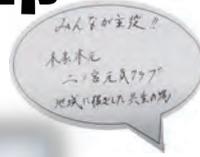
自然豊かな宿毛市で和気あいあいと楽しい定例会を開いて活動しています。

第2層協議体
毎月開催中!!

こうちけん 高知県
すくもし 宿毛市

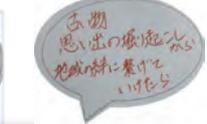
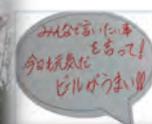


ほうばいくらぶ



お花見会 (メンバー宅)

二ノ宮地区 元気クラブ



ふれあい食堂 (愛生福祉会)



2圏域の協議体メンバーで開催する連絡会では、回を重ねるごとに意見もアイデアも親睦も深まっています。

さわやか協議体



沖須賀地区 おまつり

いっちきちもんちきち

避難訓練



水路探検ツアー



めざせ!! 「みんな主役」の地域

A 体制整備状況

③協議体の取り組みその他

形だけの協議体から住民参加型の自然なお宝発掘隊へ

形だけの協議体（当て職協議体）からの脱却と既存の事業や活動から元気高齢者を社会参加へ繋げ住民参加型の協議の場と住民主体の地域づくりの構築に向けての取り組みについて



かたらんね～江南 「こんな事が必要！」と 「これだったら出来そう！」から生まれた地域の変化

協議の場で住民・企業・社福などが一緒に話し合うことで、それぞれが出来ること考え、社福の地域貢献や体操教室、地域食堂、移送サービス等新たな活動の他、既存活動の充実にもつながっている。

江南地区協議の場 かたらんね～江南

地域に関わる皆さんの「こんな事が必要！」と 「これだったら出来そう！」から生まれた地域の変化



平成29年1月より勉強会を開催し、協議の場へ移行。協議の場には、地域にお住いの方をはじめ、社会福祉法人、タクシー会社、介護事業所等の方も参加しています。協議の場では、勉強会の段階から出ていた、地域の課題でもある「移動手段の確保」について話し合っています。その中では地域に関わる皆さんの「こんな事が必要！」と「これだったら出来そう」から、地域の中が少しずつ変化しています。

①「地域での介護予防の取り組みも必要！」

↓
コミュニティセンターでの体操教室
「若返り健康教室」が始まる。(平成29年4月～)



地域の皆さんが付けた名前「かたらんね～」はうきはの方言「かたらんね～」この言葉には
①話ませんか?②参加しませんか?
ふたつの意味が込められています。

②社会福祉法人の 地域貢献活動

退院時の 移送サービス

退院時の福祉移送サービス

Let's join us

お母さんのつらさを

ご高齢・ご高齢 (99歳～107歳) 特別介護老人ホーム水月荘併

● 退院時の移送サービス
● 介護保険の申請
● 介護サービスの利用
● 介護保険の申請
● 介護サービスの利用



③「困っている人の声を集めんと！」 アンケート調査を実施。

調査の目的
外出や生活における現状や困りごとを把握し、江南地区で安心して暮らし続けるための取り組みに活かす。

調査対象：75歳以上の地区住民（572名）
※回収率 = 81%
調査方法：各行政区の福祉委員による聴き取り調査



④移動手段の確保+みんなで支え合う仕組み

アンケートの結果をもとに、小委員会での検討、先進地視察などを行い、平成30年度途中より実際に、軽自動車を活用しての移動支援を試行実施。本格実施に向け、現在準備を進めています。
より具体的な内容を検討していく際は、協議の場にて広く意見を聞いています！



他にもかたらんね～江南の中ではこんなことが・・・
Aさん「うちの区はゴミ捨て場が遠いのよ。」
Bさん「うちの区はゴミ捨て場が2つあるよ！」

後日・・・「この前聞いた話でゴミ捨て場を新たに増やすことが出来た！！」という声

他にもサロンのことなど、意見・情報交換によって、それぞれの地域（行政区等）が変化しています。

「移動も大事だけど、行く場所も大事！」
「地域の孤食をなくしたい！！」

⑤地域食堂「かたらんね食堂」 の開催



新富町 生活支援体制整備事業

隣接する大きな市や町に依存し、他力本願的な町民性で自町での発展が進まない町でしたが、住民の勉強会（ワークショップ）を地道にすることで主体的な広がりが少しずつ出てきている。



新富町 生活支援体制整備事業



- H26.3 「新しい地域支援のあり方を考えるフォーラム」に参加
さわやか福祉財団・NPO法人みんなのくらしターミナルとの出会い
- H26.10 住民ワークショップ「みんなで考える会」の発足 勉強会スタート
- H28.4 「みんなで考える会」で発掘した生活支援コーディネーター配置
- H28.11 キラリ輝くまちづくりフォーラムinしんとみ 開催
堀田会長 新富町にて「たすけあい」を熱弁！
- H28.12 「みんなで考える会」常連による
任意団体「みんなの幸せねっとからふる」発足
- H29.1 からふる・NPO法人みんなのくらしターミナル・弁護士会共同運営
「新富ふれあいの居場所」 開所



- H29.8 「新富ふれあいの居場所」から必要な支援の声があがり
「有償ボランティアたすけあい蓮」発足



- H29.8 新富町とNPO法人みんなのくらしターミナル 包括連携協定締結

- H30.3 新田地区での住民ワークショップ開催



- H31.4 生活支援コーディネーターがNPO法人立ち上げ
町の生活支援体制整備事業をNPO法人へ委託

- H31.4 宮崎で活動しているNPO法人が複数で創った
「みんなのくらし支え合い協議会」と新富町が
協働パートナー協定の締結



- H31.5 新田地区 住民主体による居場所「はれる家」 開所



生活支援体制整備事業の推進に欠かせないファクター

委託元である行政との規範的統合が円滑に行うことができ、事業への理解が得られていることは、事業を推進していく上で非常に心強い点である。

作成：社会福祉法人河合町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 松尾

§ 生活支援体制整備事業の推進に欠かせないファクター §

奈良県北葛城郡河合町	平成31年4月末調べ
総人口 17,738人	高齢者数 6,643人
世帯数 7,822人	高齢化率 37.4%
※生活支援コーディネーター1名 事務員1名を配置	

◆ファクター（Ⅰ） 「仲間づくり」

生活支援体制整備事業において、重要となるのは、「仲間」の存在です。「仲間」＝助け合う人、つまり自身の所属する団体や委託元の担当者等です。まずは、そこから、規範的統合の為の話し合いを行い、仲間づくりが第一歩です。

◆ファクター（Ⅱ） 「味方づくり」

本事業のターゲットは、「住民及び地域」であるため、所属団体や担当者間だけでは限界があり、様々な分野でのつながりが必要になります。

「仲間」と関係課等へ規範的統合を行い、味方＝助けてくれる人、を増やしていくことが重要です。

◆ファクター（Ⅲ） 「SCのファシリテーション力」

話し合いの場で、集まった「仲間」や「味方」の声を如何に引き出すことができるかが最大のポイントですので、その為のファシリテーション力も持っておく必要があります。（私自身まだまだですが…）

※「仲間づくり」と「味方づくり」のために

生活支援体制整備事業における関係課との連携強化を目的に職員間連携会議を開催、協議体の設置に向け、候補者とも協議を行いました。



カテゴリー

B

ニーズ調査と 担い手の 掘り起こし



住民が想いをひとつにし、住民が望む支え合い活動を 住民がカタチにする取り組み

住民に身近な地域で支え合い活動を広めるため、行政区ごとに住民ワークショップを開催。住民が地域の支え合いの必要性を我が事として捉え、活動を創出。今までとは違う三芳町民のパワーを感じています。

させえあい・みよし

住民が **想い** をひとつにし、
住民が **望む** 支え合い活動を
住民が **カタチ** にする取り組み



～ 身近な地域で行う住民ワークショップ (現在3カ所で開催) ～

1 生活不安・困りごとを共有 自分達でほしい支え合い活動を話し合う

- (1) 現在の生活の困り事、10年後の不安(身体・認知の低下・独居になった時)が共有される。
- (2) 共有された困り事や不安を解消する為にどんな取り組みが必要かを話し合ったところ、共通の答えが…



2 地域で支え合い活動をすすめる『居場所』づくりが始まる



北冨井第3区集会所を
開放します!

支え合いは知り合うことから!!
集会所を自由に使えるように
月に1回開放日を設ける。



支え合い活動ができる
居場所『ながよし』

皆で集まり、困り事を支え合おう!!
月に1回の集いを開催し、困り事
の話があれば支え合い活動を行う。



集いだけではない活動を!!
要支援者も参加し、困り事を
助け合う活動を検討中。

3 『居場所』から広がるつながり・支え合い活動



長期休暇中は子どもも
楽しめる集いを開催!

高齢者だけでなく、子どもも一緒に!!
現在、子どもや独居高齢者も集える
コミュニティ食堂の開催を検討中。



ひとりでは片付けられない…
倉庫の整理

集いで聞いた困り事を支え合い活動で!!
集いで寄せられた困り事を**参加者
同士**で支え合う活動を開始。

三芳町で少しずつ、
支え合いの花が
咲きだしています



住民と学生のワークショップから始まる 地域包括ケアと共生の街づくり

八戸市では地域の意見を吸い上げるために住民と学生が参加するワークショップを実施し、そこでの意見を社会福祉法人や障がい者の力を生かす形で実現してきました。

住民と学生のワークショップから始まる地域包括ケアと共生の街づくり

八戸市(高齢福祉課)、生活支援体制整備推進協議会(会長:小柳達也、副会長:豊山信子)

【概要】八戸市(人口約23万人)では、平成27年度に生活支援体制整備研究会(現、生活支援体制整備推進協議会)を設置して、八戸らしい地域のあり方を模索してきた。「既存資源の活用」という方針を掲げ、地域の意見を吸い上げるために住民と学生が参加するワークショップを実施。そこでの意見を、社会福祉法人や障がい者等の力を生かす形で実現してきた。

平成28年度高齢者の生活支援体制の整備に向けた質問紙調査

事業の方向性を検討する資料を得るため、平成28年度に有料老人ホーム等に入居している自立した高齢者等に在宅生活を阻む要因と社会資源の認知度を問うアンケート調査を実施。

主な在宅生活断念理由

- ・ 体調管理が難しくなったら
- ・ 食事の準備が大変になったら
- ・ 買い物が大変になったら

対応する資源(宅配・通販・配食・外出・見守り)の認知率は5%以下が過半数。

八戸の課題は既存資源の活用!

企画:八戸市 報告書作成:小柳達也(八戸学院大学)

住み慣れた地域での生活を考えるワークショップ

調査で明らかになった八戸固有の課題の周知と地域課題について検討する場としてワークショップを開催することとした(年4回)。広く住民が参加できるようにすると同時に、学生(八戸学院大学・同大学短期大学部)を加えることで場の活性化を図った。

実績と評価

- ・ 平成29年度～30年度で7回実施
- ・ 住民80%、学生95%が「継続すべき」と評価
- ・ 住民「地域について話し合うよいきっかけ」「学生がいると暗い話題で終わらずに済む」「次世代育成になる」
- ・ 学生「地域への関心が強まった」「機会があれば地域の活動に協力したい」「WSなら少数意見も尊重できる」

WSで挙げた主なニーズ

- ・ ごみ捨てが大変
- ・ 集まれるところが欲しい
- ・ 情報の伝え方に工夫が必要
- ・ 高齢者が自身で情報収集できるような支援が必要

実践へ

社会福祉法人・障がい者によるごみ捨て支援

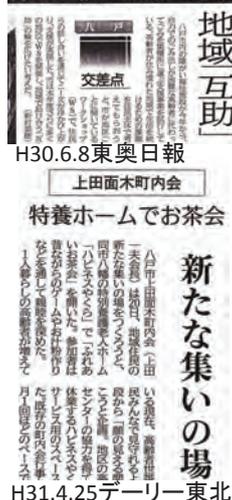
法人職員や利用者(障がい者)が地域の高齢者宅を訪問してゴミ捨てを支援。平成29年度スタート。

実施法人

- ・ 社会福祉法人ぶさん会
- ・ 社会福祉法人東幸会
- (その他、支援実績はないが対象者発見次第対応予定の法人あり)

既存資源を活用しつつ、共生社会の実現につながる

障がい福祉施設が代行



高齢者の社会的居場所づくり(介護予防も兼ねる)

町内会、民生員、社会福祉法人、株式会社等が協働した活動が増えている。

実施例

- ・ 地域交流スペースそよ風(社福法人白銀会・ボランティア)
- ・ まんまるファクトリー(集会所・榊池田介護研究所)
- ・ ふれあいお茶会(町内会・社福法人ファミリー)

地域公益的取組を視野に入れた実践



高齢者の社会参加で地域を元気に！

高齢化率が46%を超える竹田市では、元気な高齢者の知恵と経験を活かせる社会参加の場を作ろうと、人材育成と個別訪問による生活課題実態調査を実施し、暮らしのサポートセンターを市内全域に設立しました。

超高齢社会 大分県竹田市 の挑戦！！

社会参加で ますます元気に！！

目指すは
生涯現役！！

人材育成と生活課題実態調査



竹田市の高齢者の概況 (H31.3.31)

- ・人口: 21,644人
- ・世帯数: 10,204世帯
- ・高齢化率: 46%
- (65~74歳: 4,022人、75歳以上: 5,885人、100歳以上48人)

大自然に囲まれた、農業畜産業が盛んな地域で、元気な高齢者がたくさん。



高齢化率が高いのは良いこと！
高齢者の知恵と経験を活かせる
社会参加の場を作ろう！！

① 人材育成

福祉に興味を持ってもらいたい。こころを動かす！

- ・チラシ配布だけでは人は集まりません。ありとあらゆるツテを頼りに、生活支援コーディネーターが直接家を訪ねて、ボランティア講座の参加者を募ります。
- ・10~15回ほどの講座で、福祉・介護の基礎知識やボランティアの心得などを学ぶ座学に加え、福祉機器の体験や先進地研修等を行い、“気持ち”を育てます。



NEXT STEP!

買物や掃除はどうするん？

腰が痛くて重たい物は持てんのやわ



高齢者の暮らしの様子を体感してもらいたい

- ・75歳以上を対象とする、約40項目の個別聞き取り訪問調査を実施します。
- ・調査協力者は地域住民、高齢者が主です。ボランティア講座受講者を中心に、自治会長、民生委員、福祉委員、愛育保健推進員など、地域で活躍している方にも声かけをしながら調査協力者を募ります。
- ・暮らしの様子やちょっと困りの詳細が分かり、自分でもできる支え合い活動が具体的にイメージできます。
- ・調査対象者の経験や興味をお聞きし、「やってみたい」を叶えるお手伝いができます。

② 生活課題実態調査

③ 実践!! やるで!!

勉強もした、ちょっと困りの実際も分かった。やるしかない！

- ・直接話を聞いてしまったら、もう他人事ではありません。できることから始めてみよう！
- ・ボランティア講座と実態調査で一緒に汗を流した仲間がいる！
- ・調査結果を基に、自分達が暮らす地域のニーズに沿った、自分達でできる活動を検討します。

⇒住民主体の「有償ボランティアによる生活支援」と「集いの場」を実施する『暮らしのサポートセンター』を市全域に7つ設立!!

家庭菜園の手入れは一緒に



高い位置の窓拭きは代行で



NEXT STEP!

④ 2巡目の実態調査

- ・市内全域での実態調査とらサポ設立を終え、2巡目の実態調査を実施しています。5年前と比較し、社会参加の有無による健康状態の変化などを個別に追って分析する予定です。

社会福祉法人 竹田市社会福祉協議会
地域連携課 0974-62-2122

すみごこちのいいマチをめざして

太子町に「いま」何が必要？これからどんなマチにしたい？を住民さんと一緒に考え、つくりだしました。
ミライにチャレンジ!!



住民+行政+SC(社協)の取り組み 住民主体への道のり

H28.3

地域包括ケアシステムの構築に向けた **職員向け説明会**

町議会、区長会、町会長・自治会長会議等で説明

住民ひとりひとりが太子町を考え、学び、みつける

もちろん職員も!!

H28.6

地域づくりからの **支え合い勉強会** を開始

行政、包括、社協がタックを組み、町会、自治会を訪問して助け合い体験ゲーム開催
38町会、自治会のべ730住民が参加 (町長・副町長も体験)

KEYWORD



H28.8

地域包括ケアシステム検討会議設置要綱の制定、**第1回会議開催**

庁内の横断的な**連携・情報共有**を強化 (2ヶ月に1度、1時間の会議で**テンポよく**庁内の全ての部長と地域づくりに関わる担当課長、社協職員、SCの15人で構成)

H28.9

第1回地域づくりからの **支え合いフォーラム** を開催

テーマ 住みなれた地域で自分らしく暮らすには？～既にある太子町実践事例から学ぶ～

みつける つなげる つくりあげる

H28.12

地域づくりからの **支え合い研究会** を開催 (全3回)

第1回 意欲ある住民と共に支えあい研究会立ち上げ地域の「あったらいいな」をみつける
第2回 第1回での意見整理。具現化するワークショップ (担い手さがし)
第3回 興味のある分科会でプラン作り

KEYWORD



↳ SASAE 愛太子 4大テーマのプラットフォーム

H29.4

SASAE 愛太子 の設置 (協議体)

第1層生活支援コーディネーター の配置

SASAE 愛太子が考える 4大テーマ (・町会、自治会活性化・集いの場、・買い物支援・移動・外出支援) に沿い、円卓会議の設置



H30.4

運転協力者講習 (2日間) ⇒移動支援を行うボランティア活動の創出

(高齢者生きがい活動促進事業を活用したボランティア養成) **生きがい活動作りと担い手養成を同時に**

H30.2

介護・家事身辺援助等サービス一体型を**有償のボランティア活動**という形で

スタート[桜草クラブ・寿喜菜の会・プラスワンサービス 3団体が実施]

訪問型サービスDがスタート



H31.1

介護予防パートナー養成講座(全5回)

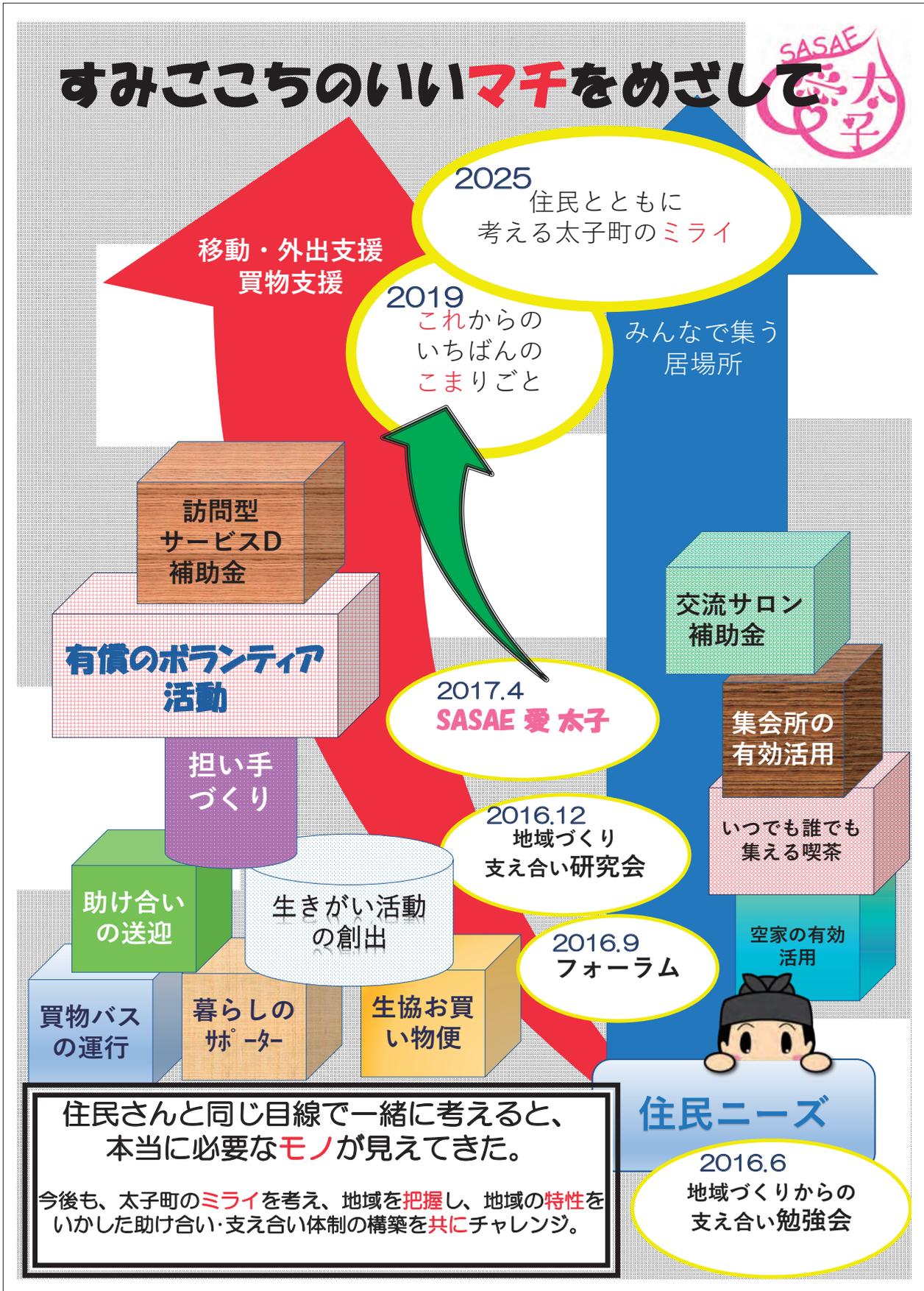
⇒交流サロンでリズム体操、ステップ体操を行う健康増進のお手伝いパートナーを養成

太子町の**ミライ**を考え、地域を**把握**し、地域の**特性**をいかした助け合い・支え合い体制の構築を**共に**チャレンジ



すみごこちのいいマチをめざして

太子町に「いま」何が必要？これからどんなマチにしたい？を住民さんと一緒に考え、つくりだしました。ミライにチャレンジ!!

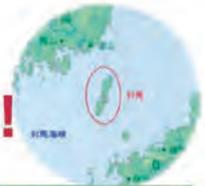


対馬市で小さな声をひろいあげ、かたちにしていく！

ニーズ調査を丁寧に行い、その声を基に説明会やWSを実施しながら、助け合い活動の創出に向けて活動を行った一連の流れを紹介



対馬市で 小さな声をひろいあげ、かたちにしていく！



75歳以上の高齢者のお宅を
1軒1軒訪問し 全戸をニーズ調査！
外出できない方々等の小さな声を
歩いてあるいて 拾い上げる



困りごと・利用したい有償ボランティア・お助けできる有償ボランティア・居場所ニーズ等を調査

厳原町43地区 ・ 美津島町36地区
区長さん・民生委員さん・地域の方に協力いただきながら調査を進める
2,872人

いつまでも
住み慣れた地域で
いつまでも安心し
楽しく過ごしたい！

6月から10月の4か月間。1日20～30人を調査。
不在宅は5回訪問。

回答率75%以上

お宅を訪問し、対象者の顔をみながらニーズを聞いていく。
訪問時小さな変化があれば包括につないだ。

福祉サービスが
利用できない状態だ

区長・民生委員・老人クラブを対象とした
事業説明会を5回開催！



困りごとについて考えてもらう機会をつくった

事業説明会にて助け合い活動について賛同
いただいた区長・民生委員さん等と日程調整
ワークショップを16行政区で開催！



ニーズ調査の結果を住民の方へお知らせ
調査の結果をもとにいろんな意見が飛び交う

みんながつながり
助け合う機会づくり

自分たちの事を自分たちで
助け合いを進めていく
笑顔いっぱいの居場所をつくる♪

支援が必要な方などの
情報収集と共有の
仕組みづくり

困りごとの共有
助け合いの下地づくり



地域福祉の担い手づくり
福祉情報の発信

人と知りあい、ふれあえる土台づくり

自分が望むところで 心ゆたかに 笑顔で暮らすために

介護予防として ニーズ調査時の声をもとに地域にあった居場所の基盤をつくり
困りごとの解決につながるよう 進めていく



対馬市第2層SC 辻林実早紀



“住民同士の助け合いによる地域づくり” のために

ニーズ調査を丁寧に行い、その声を基に説明会やWSを実施しながら、助け合い活動の創出に向けて活動を行った一連の流れを紹介

“住民同士の助け合いによる地域づくり” のために

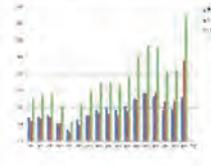
📢 求められる助け合い活動を創出するために地域の課題やニーズを把握する



対馬市では 75 歳以上の方を対象に日常の過ごし方など 個別訪問ヒアリングを実施！



アンケート内容



【基本情報・通院服薬状況・買い物状況・交流状況・暮らし生活について・訪問系生活支援・居場所・その他】

📢 調査結果により高齢者の困りごと地域の課題が明確になった！！

困りごと→移動交通 助けて欲しいこと→病院の送迎 活躍→見守り、草とり 居場所→体力づくり

📢 調査結果をもとに説明会を開催！

📢 ニーズ結果をもとにWSを開催！



地域を知る！
暮らしの中の資源の価値に
気づくことで地域づくりの
原動力に！！



「放っておけない」「気にかかる」というやさしい気持ちは、誰もが心の中にもっている。そんなやさしい気持ちを出し合って、気にかけてくれる人が地域に溢れ「困ったときはお互いさま」のつながりへ！！

📢 さまざまな情報を集める

- ・高齢者が参加する活動で
- ・交流の場で
- ・地域に伺って
- ・地域ケア会議から情報を

居場所づくり

- ・引きこもり予防
- ・介護予防
- ・認知症予防
- ・高齢者の自立いきがい
- ・困りごとを声に出せる環境

助け合いの創出

- *身近な地域の中で助け合える仕組みづくりを！



高齢者の暮らしの場の変化

- ◎介護保険制度前は、わずかな「介護サービス」しかなかったが、本人と支え合うつながりがあった。
- ◎気がつけば、制度やサービスは整ったけれど、支え合いが見えなくなった。
- ◎介護保険制度改正……住民も専門職もみんなで支え合う地域に ♡～♡～♡



居場所から生まれるつながりと助け合い

共に生き、共に支え合う地域づくりを旨ざして・・・

ニーズ調査からワークショップを経て見えてきたこと

ニーズ調査を実施後、ワークショップを行い、居場所（サロン）活動を展開。住民の声を聞き、サロンという形で声を反映させると同時に、サロンで、困りごとを相談できる環境整備を進めている。

ニーズ調査からワークショップを経て 見えてきたこと

上対馬町・上県町の取り組み

【ニーズ調査】

★調査期間：平成30年6月～8月までの3か月

★調査対象：地域にお住いの75歳以上の方
・上対馬 ⇒817名・地区21地区
・上県 ⇒652名・地区28地区

★調査方法：1件1件訪問、聞き取り調査

○区長さん、民生委員さんへの地区訪問の連絡

○訪問時民生委員さんの訪問同行協力あり

○不在先は1件/5回訪問（日にち、時間帯を考えながら訪問した）

【調査集計】

○困りごと・居場所・生活支援等についての意見

交通の便が悪い
(買い物・病院) 人と集まる場所がない
みんなと話す場所必要
困りごとを相談できる場所がほしい
ちょっとしたことが頼みづらい

困りごとはないですか？

(調査内容)

- ①基本情報 ②通院・服薬 ③買物状況
- ④交流状況 ⑤暮らし・生活 ⑥訪問系生活支援
- ⑦居場所 ⑧その他



【ワークショップ】

★目的：ニーズ調査の結果を住民の方へお知らせする。

★対象：①区長・民生委員 ②地域住民の方

★方法：チラシの地区配布や地区内放送にて周知した。

ワークショップの意見から

- ・地域に集まる場所がほしい
- ・楽しみがほしい

【サロン活動】

サロン活動を通して、地域助け合い活動へ

上対馬町

- ・芦見地区（でこぼこ学園）参加者12名（66歳～81歳）
いつも笑いの絶えない場所である。
- ・舟志地区参加者9名（最高年齢90歳参加）
- ・小鹿地区参加者9名 調理・会食・レクリエーション

上県町

- ・仁田ノ内地区（コスモス会）参加者8名：民生委員参加あり
- ・御園地区（楽しもう会）参加者10名：食改さんが中心に献立を決め、家にあるものを持ち寄り調理をし、会食後レクリエーションを楽しむ。（男性の参加あり）
- ・犬ヶ浦地区参加者6名：始まったばかりです。

これからの取り組み

ワークショップから数か所のサロンができました。

サロンは、生活支援・助け合い活動の足掛かりです。まずは、自然と集まれる居場所（環境）づくりから、困りごとが言える環境・基盤を整備し、そこで、解決できること、特に、生活支援へとつながる輪（和）が広がることを願いながら、取り組みます。



ニーズの把握から活動へ “貝口地区の取り組み”

ニーズ調査・WSを経て、助け合い活動を創出。高齢化率65%を超える地区から元気を発信していく様を紹介。

ニーズの把握から活動へ “貝口地区の取り組み”

※長崎県対馬市豊玉町貝口 人口：29人 65歳以上：20人 高齢化率：68.9%

① 75歳以上の高齢者宅を訪問しニーズ調査を実施！

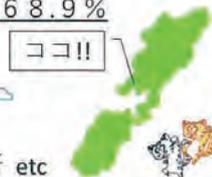
調査対象者：14人 / 回答：13人 (回答率：92.8%)

調査内容：通院、買い物状況・交流状況・困りごと

利用したい有償V o ・お助けできる有償V o ・参加したい居場所 etc

調査結果☆彡

	困りごと	利用したい有償V o	お助けできる有償V o	参加したい居場所
1位	交通	見守り	-	趣味の講座
2位	移動	食事の提供	-	体力づくり
3位	-	買い物(送迎)	-	食事会



② 住民ワークショップを実施！！

◎ 3つのグループに分かれてワーク

内容
・地域の強み・困りごとや課題・目指す地域像について
・グループごとに出た意見を発表

16名参加！



地域の強み

助け合いの心

働き者！

明るい！

近所の繋がりの強さ

困りごと
課題

人口減少

高齢化

空き家

1人暮らしが多い

目指す
地域像

元気な高齢者地域！

集まる機会

場所がほしい！

見守りシステム

③ 住民の声を形にする！！

貝口女子会♥

食事会がしたい！
集まりの場が欲しい！

皆で食べると
おいしい！！

スクエアステップ♪

健康で元気に長生きしたい！
体力づくりがしたい！

良い運動に
なるね♪

地域のお世話役さんが活躍！！
⇒材料持ち寄りで食事会♪
足を運びやすい場とするために
訪問呼びかけ・送迎を実施◎



活動の自主化に向けて...
区長さん自ら指導資格取得☆
チラシを配布し周知！
指導もバッチリで楽しく体操♪



“100歳まで生きる、元気な高齢者地域”を目指して★ 貝口ピアパーク★

◎ 遊休農地を活用した「そばづくり」

...住民の生きがいづくり、コミュニティの強化
“年度末には住民全員で年越しそばを食べる！！”



Not!
Beer

プロジェクト

浜辺「ビーチ」
農業「アグリー」
子どもから高齢者まで
気軽に寄れる
公園「パーク」

(1) 打ち合わせ・準備

- ・遊休農地利用の確認・作業日程調整・作業内容確認
- ・アドバイザー派遣・ボランティア参加周知 etc



(2) H30.6.17～作業開始！！

◎ 作業内容

木の伐採、伐根・草刈り・ゴミ拾い・フェンスの設置 etc

◎ 座談会

楽しく意見交換会をしながら、より良いピアパークへ☆彡
地域女性手作りの美味しい賄いもあり◎！！

※ たくさんの協力者が！

- ・地元住民・町内有志・中学生・大学教授・大学・対馬振興局
- ・市役所職員・元市長・県民V o活動支援センター・社協役員

プロジェクトの実現に向けて皆で楽しく活動しています！！



頑張った後の
お楽しみ☆彡

協議体での話し合いが形になったきっかけ

住民ニーズを把握するために実施した住民アンケートは、住民の気づきを促すきっかけにもなりました。

協議体での話し合いが形になったきっかけ！

犬山市
第2層生活支援
コーディネーター

生活支援コーディネーターと協議体

犬山市では平成29年4月から市内5圏域の地域包括支援センターに各1人、第2層生活支援コーディネーター(2SC)を配置し、地域の支えあいの体制づくりのための話し合い(協議体)を重ねてきました。



【犬山北地区の場合・・・

- ◆ 課題として感じていたこと
- ◇ 協議体では地域の話が出てくるだけで、その先へ話が進まない。
- ◇ 「生活支援」「声かけ」「介護予防」教科書に書いてあるような地域課題は本当に住民のニーズとしてあるの？
- ◇ 協議体の参加者は住民の一部。多くの人はどんなことに困っているのだろう？

アンケートをやってみるか！

天神町地域づくりに関するアンケート (平成30年7月実施)



- 2SCと包括が取りまとめ
- 天神町369世帯に配付 (1世帯に1枚)
- 郵送にて回収

例) ご近所付き合いはありますか？
どんなことを助けてほしいですか？

アンケートから見えてきたこと(回収率43.1%)

Q:手伝ってほしいことはありますか？



アンケート報告会の実施

平成30年10月27日(土) 午後1時30分～
参加者43人



「この先こんな事に困るんだ！」
「自分たちの問題だよね！」

- ◆ 多くの意見を吸い上げる手段としてだけでなく、住民が地域の問題に気づき、動き出すきっかけづくりとして、「アンケート配付」というプロセス自体がとても効果的に作用した。
- ◆ 町内会だけでアンケートを実施したことで「我が事」としての考えが住民に芽生えた。
- ◆ 地域の支え合いについて関心を持ち始めた天神町は、2SCや包括のサポートを受けつつ、3か月に1回の支え合い会議を行っている。
- ◆ 支え合い会議は、毎回、白熱した意見が飛び交い、助け合いや担い手の発掘に繋がる体制づくりを進めている。

今は形にならないことも多々あるけど、継続していくことが大切



地域づくりアンケートの結果から

840人のアンケート結果から地域で何が困っており、何ができることなのかを把握し、これからの地域づくりには何が必要なのかを考察した。

地域づくりアンケートの結果から

<目的>

和歌山市のある地区における将来への不安、近所との交流、助け合いへの意識を把握し、今後どのような地域づくりを行っていけばよいかを考察する

宇都宮病院 事務長

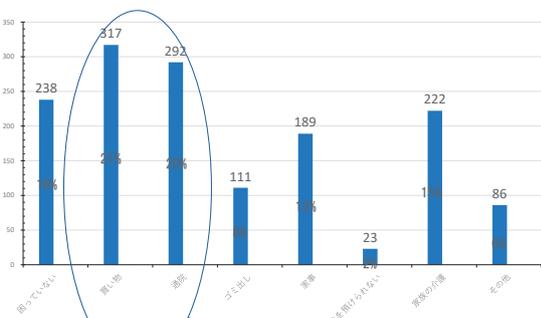
第2層生活支援コーディネーター江川栄輔

<方法>

自治会の協力を得て、全世帯8,500枚のアンケートを回覧にて配布し、郵送により840枚を回収(回収率10%)

<結果>

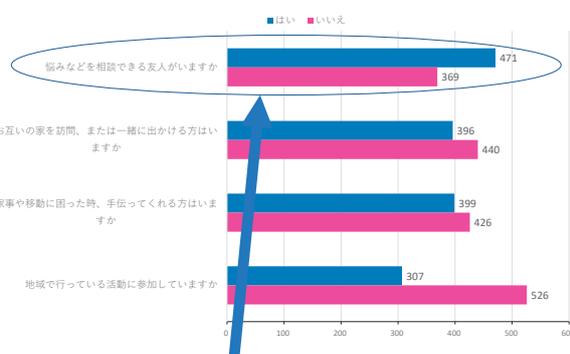
問1. 5年・10年後、日常生活の中でどういったことに困っていると思いますか



問1では将来の困りごとを質問し、買い物に317名、送迎に292名が困ると回答した。

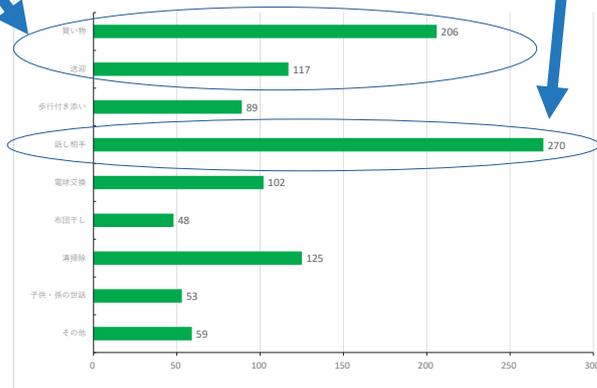
一方、問3でお手伝いについて質問し、買い物は206名、送迎は117名、お手伝いできると思っている人がいる。この方々が出会うことができれば、多くの困り事が解消するのでは。

問2. ご近所との交流について教えてください



問2ではご近所との交流を質問した。悩みなどを相談できる友人がいる人は471名であった。一方、友人がいない人が369名となった。問3のお手伝いについての質問では、話し相手のお手伝いのできる人が270名であった。この方々が出会い話し相手になることで解消するのでは。

問3. もしお手伝いできる、または手伝いたいものはありますか



<考察>

このアンケート結果から、地域の困り事(需要)とお手伝いしたいという気持ち(供給)があるが、マッチしていないことが推測される。これを解消するためには、需要と供給が出会う時・場所が必要となる。それには地域の居場所が最適と考える。体操でもサロンでも、なんでも良い。そこに行けば誰かがいる。そこで需要と供給が出会う居場所作りがこれからの地域づくりに必要なことだと、このアンケートから考えられた。



このアンケートで約120人の方がボランティア等に参加したいと回答くれました。その方々が集まって、助け合い体験カードを使ってワークショップをしました。

宇都宮市の第2層協議体の取組について

宇都宮市で初めて設置された第2層協議体の取組事例を紹介します !!

宇都宮市の第2層協議体の取組

【宇都宮市全体の取組】

- ポイント①：地区連合自治会単位で協議体を設置（現在14 / 39設置）
- ポイント②：新規設置のほか、既存会議の活用により協議体の設置を促進
- ポイント③：協議体設置促進のための『手引書』を作成、配布
- ポイント④：協議体間の情報共有のため、協議体意見交換会を開催



■：第2層協議体の設置地区

【協議体の取組例(清原地区)】 ~オール清原の助け合いのあるまちづくりを目指して~

- ・清原地区は、自発的に「福祉のまちづくりを考える会」を発足し勉強会を開催するなど、福祉への関心が高い地域であり、本市で初の協議体が設置された地区（H29.8）
- ・協議体は、民生委員、福祉協力員、福祉に関心がある住民、地域包括支援センターなどをメンバーとし、現在は毎月1回、助け合い活動の担い手として多くの方が参加できるような仕組みについて検討している。

ポイント①：地区内の全世帯を対象にアンケート調査を実施 (6,400世帯配付)

- ⇒ 高齢者が希望する支援内容や担い手として支援可能な項目を把握
- ⇒ 地域の支援を希望する人や、支援に協力できる人が予想より多いことが判明

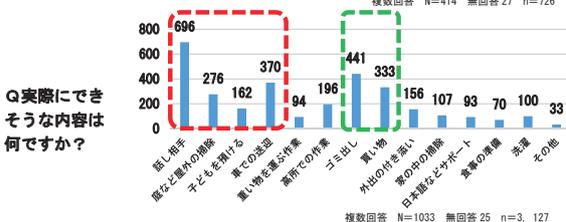
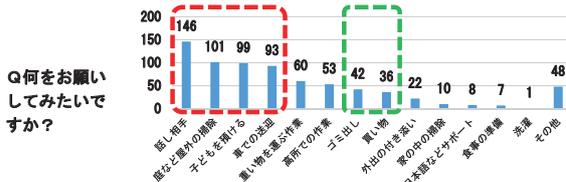
ポイント②：地域住民向けにアンケート報告会を開催し、協議体の取組を広く周知するとともに担い手の候補者を発掘！！

- ⇒ 今後アンケート結果を踏まえ、地域助け合いの具体的な活動を開始！！



<アンケート報告会のチラシ>

<アンケート結果(抜粋)>



<アンケート報告会の様子>



「地域歩き」と「助け合い体験ゲーム」による ニーズの掘り起こし

住民グループと生活支援コーディネーターが、協働しながら、地域の課題を把握・整理しました。自分達が住んでいる地域を歩き、「5年先、10年先、困りそうなこと」について意見を出し、グループ間で共有しました。

「地域歩き」と「助け合い体験ゲーム」によるニーズの掘り起こし

～●●ワイワイくらぶとの協働～

自分達が住んでいる地域を歩き、5年先、10年先、自分が困りそうなことについて意見を出し、メンバー間で共有しました。地域課題を基にカードを作成し、どのような困りごとなのかを視覚化し、カテゴリに分けました。それらの課題をさらに掘り下げるために、地域のサロンに出向き、助け合い体験ゲームを実施することで、課題の発見・整理に努めました。

1. 田原本町の特徴

- 人口：31,962人
 高齢化率：30.8%
 (令和元年7月1日現在)
 面積 20.09 km²
 地域の特徴
- ・奈良盆地の中央に位置
 - ・豊かな田園風景
 - ・夏は暑く、冬は寒い
 - ・典型的な盆地型気候
 - ・周辺の山地に比べて雨が少ない



2. 『●●ワイワイくらぶ』結成の流れ

H30.7.12	・平成30年度に、さわやか福祉財団の土屋幸巳先生をお招きし、地域づくりフォーラムを開催し、278名が参加する。
H30.8.11	・フォーラム参加者を対象に、住民型ワークショップ「暮らしいきいき助け合い講座」を実施する(計3回)。
H30.11.21	・校区単位で、住民組織「●●ワイワイくらぶ」が結成する。目指すべき地域像として、「人生の最後まで安心して住み慣れた●●で暮らしていくために」と決まる。

3. 方法

地域の課題を把握するために、以下の2つの方法を用いた。

①地域歩き

日時：平成31年2月27日・3月13日
 場所：A自治会、B自治会、C自治会
 課題：「80歳の私」を想像し、●●地域に住んでいたら困りそうなことはなにかを見つけてください。
 備考：福祉体験の用具を利用することで、80歳の自分自身をイメージしやすくなるように工夫した。



②助け合い体験ゲーム

日時：令和元年5月21日
 対象：Aサロン21名(男性1名・女性20名)
 場所：A公民館
 内容：さわやか福祉財団の助け合い体験ゲームを実施する。
 進行および記録：グループ内の進行は、●●ワイワイくらぶメンバーが実施する。記録は、長寿介護課、地域包括支援センター、社会福祉協議会の職員が担当した。



4. 結果

①地域あるき(1部抜粋)

エリア	地域課題	必要な助け合い
南8	道が狭いのに交通量が多く、外出しづらい。	外出時の見守り・介助
西4	物騒な雰囲気があり、歩くのが怖い。 (空き地が多く、管理されていない)。	空き地の整備
北5	雨の日はサロンに参加しにくい。	雨の日の外出見守り・介助
南1	耳の不自由な人は、横断歩道を渡れない。	横断歩道の移動介助
南7	ATMが遠いので、お金を出金できない。	お金の出金
北3	買物できる場所が近くにない。	買物
南10	水路にゴミが流れており、子供の教育に悪い。	近所のゴミ拾い
南2	道が舗装されていないので、車椅子での移動が困難である。	車椅子の介助
南3	柵がなく、水路に落ちた子供がいる。	子どもの見守り

②助け合い体験ゲーム(1部抜粋)

a. 選ばれたカード

NO	内容	G=グループ			
		G1	G2	G3	合計
45	通院・買い物などの送迎	2	3	1	6
5	食事づくり・片付け・買い物	2	3		5
13	入浴介助	3	1		4
1	ゴミ出し	3			3
12	ついででの買い物		2	1	3
16	草むしり・樹木や花壇の手入れ	2		1	3
18	話し相手	2	1		3
20	役所関係書類の説明やアドバイス		2	1	3
50	仕事・介護・健康などでの悩み相談	2		1	3
3	季節の衣替え	1	1		2
6	掃除	1	1	1	2
8	電化製品のアドバイス		2		2
11	包丁研ぎ	1		1	2
24	家具などの重い物の移動		1	1	2

b. 残ったカード

NO	内容	G=グループ			
		G1	G2	G3	合計
13	入浴介助	1	1		2
51	認知症者の病院のつきそい	1		1	2
45	通院・買い物などの送迎		1		1
5	食事づくり・片付け・買い物		1		1
1	ゴミ出し	1			1
18	話し相手		1		1
20	役所関係書類の説明やアドバイス			1	1
8	電化製品のアドバイス	1			1
24	家具などの重い物の移動	1			1
60	食事の配達		1		1
2	洗濯		1		1
23	部屋の模様替えの手伝い		1		1
34	簡単な外国語会話	1			1
72	災害時の避難介助	1			1

5. 今後の展開

掘り起こしたニーズを、他の住民と共有するために、皆でチラシを作成し、助け合いの大切さを訴えていく予定である。

生活支援隊家事エンジャー実践報告

受講生獲得の工夫や修了者へのフォローアップに力を入れています。また、イメージキャラクターを設けることで、訪問型サービスAの認知度が上がっています。

泉大津市社会福祉協議会地域包括支援センター
生活支援コーディネーター（泉大津市訪問型サービスA従事者担当）

生活支援隊家事エンジャー実践報告

家事エンジャーとは…

全12時間の養成研修を修了すると
高齢者等が自力で行うことが難しい
家事を仕事として行うことができます
職能として家事を行うことで
自分が要介護状態になることを
遅らせる効果が期待されます
(市内最高齢77歳)



開催の工夫

- ・開催日時の調整 (より多くの人に参加できるように日数や曜日、時間を調整)
- ・申込方法の見直し(FAX、メールを追加し24時間受付を可能に)
- ・求職者への啓発目的でハローワーク会議室で講座を開催
- ・サービス提供責任者や講師と連携し、講義内容を見直し(具体的な家事エンジャーの仕事内容を伝える場を設ける等)



広報の工夫

- ・チラシやポスターの仕様を変更し、ポスター掲示場所を検討(より多くの人が集まる場所にポスターを掲示(スポーツジム、喫茶店、商業施設等))
- ・地域の集まりで説明会を開催
- ・教育委員会や自治会に啓発や協力を依頼(学校・幼稚園等にチラシを配布、回覧板の活用等)
- ・チラシ配布先の調整(受講生に講座開催をどこで知ったか確認し、配布先を都度調整)



開催当初



変更後

開催後の工夫

①大学との連携

桃山学院大学、大阪保健医療大学大学院と共に地域在住の高齢者が就業できる要因の調査研究を実施



②交流会の開催



研修会修了者を対象に、交流会(同窓会)を開催。講師によるミニ講座やとろみ食の試食会を実施

③就職情報フォーラムの開催

研修会終了後、就労に繋がっている人が少ないことが発覚！
市や協議体と連携し、就職情報フォーラムを開催。雇用事業所だけでなく社協ボランティアセンターやシルバー人材センターにも参加を要請し、就労以外の活動の場の提供を行った



生活支援コーディネーターの関わり

【一例】

- ・CSWと連携し、ひきこもりの方が受講。就労支援の第一歩となった
- ・NPO法人、自治会、民生委員、包括、社協等と相互に協力を図っている
- ・定期的にサービス提供責任者と連携し就業率の確認を行っている
- ・講座を契機に、生活支援コーディネーターが周知され、受講生から困りごとの相談を受けることができた

*家事エンジャーの声

年長的に外に出て仕事はできないと思っていたが、少しだけでも役に立つことができている。何事にも意欲的になったような気がする(70代女性)

*利用者の声

介護保険を使うことに抵抗があったが、困っていたので使えるサービスがあって助かった



協働した担い手づくりと共感を得るための担い手養成

たすけあい活動団体の意見を活かして担い手養成や啓発活動に取り組んでいます。顔の見える関係を築いていったことで協働による取り組みが進んでいます。

協働した担い手づくりと 共感を得るための担い手養成

島根県出雲市 作成：社会福祉法人 出雲市社会福祉協議会



きっかけは、たすけあい活動団体からの声！

出雲市には、住民主体のたすけあい活動団体が10団体もあるんです。

その特徴を活かし、顔と顔の見える関係をつくるための連絡会を開催しています。

団体の実態調査をしたところ「こんなつぶやきが・・・」

「住民の多くは、わたしたちの団体のことや活動を知らない。PRする場が欲しい！」
「高齢化して、担い手が少なくなっている」



確認



行政・さわやかインストラクターと定例会

毎月、行政、さわやかインストラクター、包括、保健所などと定例会を開催。

どのようにすれば、担い手が増えるかね～

「ホームページに掲載したら」
「住民に直接プレゼンできる場があったらいいね！」
「団体の活動を掲載したパンフレットはどうだろう」
「社会福祉協議会で、担い手の勉強会をしたらどうか」



たすけあい活動団体と協働した地域での支え合いの体制づくり



各地域に支え合いの必要性を啓発する「地域支え合い研修会」にたすけあい活動団体とともに働きかけ、直接団体の活動をPR

POINT！ 「直接団体が住民へPR」
私たちの活動を「知ってください！」
困っている人があれば「紹介してください！」
私たちと一緒に「活動しませんか！」

利用者の声・体験型・さわやかインストラクター参加型の「勉強会」



POINT！

- ①さわやかインストラクターによる基礎知識の学習
- ②「みんなでやってみよう！訪問助け合い活動」
公益財団法人さわやか福祉財団テキストの活用
- ③家事を意識した高齢者の困りごとあるある体験
- ④たすけあい活動の利用者・協力者が思いを語る
- ⑤活動の場の紹介（たすけあい活動団体パンフレット）



「困ったときに助けてもらい、ありがたかったわ。」

わかば★わくわくキッチンへの歩み～みんなで食べると美味しいね～

地域で支え合いを進めていくことが役割であるSCとして、地域の方達との関わりを通して地域が主体的な取り組みとして「わかば★わくわくキッチン」を継続していけるよう支援しているところである。

わかば★わくわくキッチンへの歩み ～みんなと食べると美味しいね～



丹頂鶴・夕日が有名！

◆北海道釧路市について◆

総人口	168,730人	高齢化率33.2%
東部北地区人口	32,433人	高齢化率36.7%
65歳以上人口	11,890人	
75歳以上人口	6,133人	
介護認定者数	3,079人	

生活支援コーディネーターとしての活動～釧路市東部北地域包括支援センターの第2層SCとして～
第2層SCとして、地域に出向くことをモットーに活動しています。

地域全体が顔みしりになり、困り事等を言える関係づくりの構築の一端を担うべく、毎月の民児協の例会、サークル、サロン、老人福祉センターの介護予防教室、ボランティア養成等、担い手の発掘を行っています。年数回行っている第2層協議体の構成員の中での地域活動の発信になるべく、把握したニーズと人材を結び付け、地域に複数町内会の合同お食事会「わかば★わくわくキッチン」の社会資源を創出した。まだまだ未発達なキッチンではあるが、新しい風が地域に吹いていると感じている。

➤地域ニーズ（第2層協議体 ～支え合いのまちづくり連絡会より～）

- ・気軽に集える場所があれば良い
- ・地域にどのような資源があるのか？
- ・町内会や老人クラブの役員のなり手がなく人材不足が悩みである。
- ・地域でのつながり方が具体的にわからない。



～地域の課題～

- * 人口減少
- * 地域の関係の希薄化
- * 町内会、老人クラブの担い手不足
- * 単身世帯の増加及び日中独居

～具体的な声…(武佐地区)～

- # 隣の人は何するひとぞ…
- # 昔は郵便局やお店があったね。集える場所が無くなったね。
- # 歩いていけるスーパーも遠いし坂もある。

～実行委員会にて相談～

- # 有志にてメンバーを構成し打ち合わせ開始。(シニア栄養士さんの協力を得)
- # 取り組みの目的、問題意識の共有。
- # 調整すること⇒場所、日時、献立、必要物品、衛生面、周知活動

- # 不安なこと⇒調理は時間までできるのか？
- 食数は？地域の人は来てくれるだろうか？

～目的(キッチンの土台作り)～

- * 食事をするだけでなく「交流」してみよう！
- * 若い人も入ってくれるといいね！
- * 運動やカラオケができればいいね！
- * まずはやろう！！！！満場一致。

実行委員長による口腔体操！
笑いが絶えません♪



町内会会館を会場に♪

美味しいですか？



～自助・互助に向けて～

現在まで、5回開催をしています。当初はモデル的に行うことが実行委員の気持ちの負担を軽くするねらいが(義務感にとらわれない)ありましたが、実行委員会で「キッチンを継続しよう！」「2か月に一度開催しよう！」「いつ誰が手伝えなくなってもいいようにサブ委員に手伝ってもらおう！」等...自ら担い手発掘をしています。運営には課題(会場費捻出等)もありますが、補助金の申請も行い、軌道に乗っています。

地域の中での関わりが増えたことで色々な意見を多方面より頂戴し、よりよいキッチンを目指していきたいと思っています。



新たな担い手の掘り起し

若い世代を巻き込む方法として、小学生に「将来どのような市になると良いか」アイデアを募集。第1層で助けあいの視点で選出し、フォーラムで表彰。今後の目指す地域像とした。

埼玉県
志木市

住民ニーズの把握・ 新たな担い手の掘り起こし



お寺で



空き店舗で



隣接市と合同で



第2層協議体で協議し、多様な居場所を創出！

→でも出てくる人はいつも同じ人（共通課題）

若い世代



閉じこもり
高齢者

「地域活動への参加が少ない人」に「関心」を

もってもらえる方法を第1層で検討

「将来どのような市になると良いか」を
小学生からアイデアを募集し表彰しよう！

ほく・私の未来デザインコンテスト開催！



主催者賞（95作品から選出。受賞者は1年生！）

困り事を抱えた人が「困った」を
発信できる地域 → **目指す地域像**に！

The 男組

「男の手打ちうどん講座」を受講した、プラチナ世代の男性を中心に「The 男組」を立ちあげた。「楽しみながらできる範囲で地域社会へ貢献すること」を理念とし、世代間交流や買い物のお手伝いなど各所で活躍中。

わたしたち参加者ひとりひとりの夢を叶え、できることをできる範囲で楽しみながら、地域社会に貢献します

ざ おとこ ぐみ The 男組

The 男組とは、大阪市平野区の60歳以上のプラチナ世代の男性を対象とした定年退職後のいきいきと輝くセカンドライフを応援するグループです。

きっかけ (平成30年10月~11月)
「男の手打ちうどん講座」



初めてでもおいしい
うどんができましたん

グループの発足 (平成30年12月)
「これからの活動を考える会」

- 気軽につながれる場が大切！
役員や出欠などのしぼりがない、自由に参加できる「ゆるいつながりの場」があればいいね。
- 夢を語りあえる場
・ 料理を「誰かにふるまう」機会もつっていきたいね。
・ 災害時にうどんを提供してあげたい。
・ 目的をもって社会に貢献していきたい！

挑戦したいことが
たくさんありまんねん

定例会の開催 (平成31年1月~)
「毎月第4木曜日 10時~12時」



テーマソングをつくったり
毎回賑やかにやってまっせ

世代間交流 (平成31年4月)
「写真入り缶バッジ」のプレゼント」



喜んでくれる子どもたちの笑顔
で疲れもふっとびますわ

野菜の移動販売 (令和元年5月)
「買い物のお手伝い」



荷物運ぶのは大変やったけど、
困ったときはお互いさまやで

The 男組の約束ごと

- 1 誰でも来はったらいいねん (出入り自由)
- 2 めんどくさい会則はつくらへん
- 3 ここではみんな、とんとんの関係やで
- 4 がんばって広報して活動を拡げていこまっせ
- 5 いらんことはしゃべりません (プライバシーなど)
- 6 「The 男組」はみんなで運営しまんねん

ルールも男組らしく
みんなで決めましてん

問い合わせ

事務局 社会福祉法人 大阪市平野区社会福祉協議会 (平野区居場所づくりプロジェクトチーム会議：協議体)
所在地 大阪市平野区平野東2-1-30 ☎ 06-6795-2525



いきがい
助け合い

生活支援体制整備事業の「手触り」が感じられる取組み

厚生労働省「これからの地域づくり戦略」に掲載された「ほうふ・てごネっと」は、高齢者の自立支援に資する困りごとを媒介に、SCが介護専門職と地域を繋いでいくもので、生活支援体制整備事業の「手触り」が感じられる取組みです。

防府市の



生活支援体制整備事業の 「手触り」が感じられる取組み



厚生労働省

「これからの地域づくり戦略」掲載
～ほうふ・てごネっと～

市が介護専門職から高齢者の困りごとを集め、地域や住民が解決する仕組み。

地域と介護事業所が繋がらなければ、地域包括ケアシステムは成り立たない、という発想から生まれた取組みです。



ケアマネ・ヘルパー

依頼



依頼



地域団体



SC

依頼する困りごとは「自立支援に資するもの」で次のものに限定

- ・今はヘルパーがやっている手助け
- ・サービスとして実施できないが困っていること

SCが地域に依頼。
地域ができないことは
個人ボランティアへ！



個別課題を媒介に、介護の現場と地域を繋ぎ、社会資源を創出または解決するという生活支援体制整備事業の原点を「いきなりやってしまう」手法です。

成果が出ないと悩んでいる間も困っている人はいる、ということをお忘れいませんか？

お問い合わせ

山口県防府市高齢福祉課（担当：中村）

TEL: 0835-25-2527



助け合い活動の創出

- ①居場所・サロン・通いの場
- ②有償ボランティア
- ③移動支援
- ④地縁の助け合い・交流
- ⑤特別な切り口

阿賀野市の目指す地域像

生活支援協議体を第2層から立ち上げ、地区ごとに困りごとの把握を実施。困りごとの解決のため市の目指す姿を提示し、生活支援協議体とコーディネーターが中心となり各地区の拠点の居場所の開設に向けて取り組みを開始した。

市の概要

人口：約4万2千人
高齢者人口：32.5%
要介護認定率：17.5%

新潟県 阿賀野市



1. 目指す地域像の取り組み経過

- 生活支援協議体の立ち上げのため庁内連携推進会議、学習会を開催！
- 第2層からの生活支援協議体立ち上げとキャッチフレーズ（スローガン）を決定
- 地区ごとに困りごとのアンケート調査や事例検討の実施
- 市民フォーラム、地域座談会の開催

市民フォーラム
第2層協議体委員による寸劇

2. 高齢者の困りごと

- 居場所やサロン（気軽に集まれる場所）
- 移動支援（買い物や受診支援）
- 除雪支援
- 生活支援（ごみ出し、掃除、灯油入れ、高所の作業など）
- 見守り、地域のつながり
- 「助けて」と言えない



地域座談会の様子

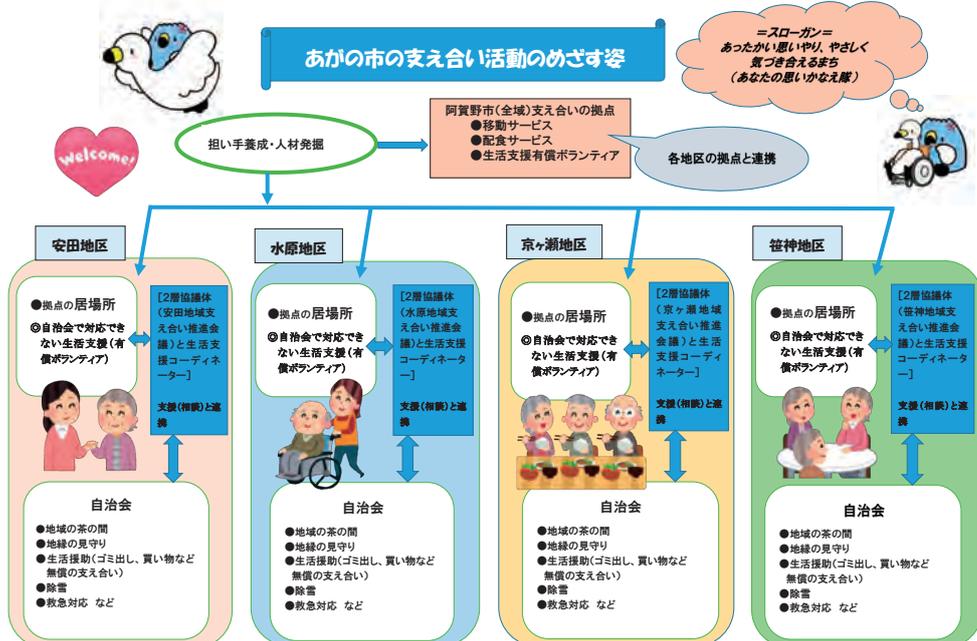
3. 拠点の居場所の開設

- 地域の人々が交流を目的として集まる場所
- 人々が気兼ねなくつろげる場所
- 誰からも認められる場所
- いつ来てもいつ帰ってもよい場所



ふれあい広場やすだ(拠点の居場所)

人同士のつながりから共感を育み、助け合いを生み出す!!



幸齢未来かわら版 号外！

生活圏ごとに配置された5名の生活支援コーディネーター（1層2層兼務）は、地域の宝を「つなげる」「まきこむ」「まじわる」をモットーに地域でのささえ愛の仕組み作りのお手伝いで、日々楽しく活動しています。

地域資源マップの活用



【北条地区】

コミュニティセンターの活動とも協働

くらしのサポートセンター
20地区/26地区

介護予防の場



新潟県柏崎市（人口 84,671人 高齢化率 32.7%）

こうれい

幸齢未来かわら版

号外

2019年9月9日

**社会福祉協議会の
ふれあいサロン**
117か所

地域の居場所、支え合いの場



社協との協働による研修会

**ボランティア（高齢者運動サポーター）が
支援するコツコツ貯筋体操**
187団体 約3,700人が参加



「お互いさま」のまちづくりの
土台組み

地域の宝を

つなげる

まきこむ

まじわる

くらしのサポートセンターの機能強化で生まれた 【くらしのサポートセンター利用者の買い物支援とお茶の間活動（上条地区）】

【有償ボランティアによるちよこっとサービス（荒浜地区）】



草刈支援



サポーター会議





地域ケア会議で将来の危機感を共有することで生まれた



ぐるりの会





地域ケア会議



クローバーの会

① 助け合い活動の創出

① 居場所・サロン・通いの場



鳴門市版暮らサポ ～開設までにおけるSCの役割と活動～

鳴門市では、SC選出からわずか10か月で鳴門市版暮らサポが3か所も開設された。そこにはSCが果たしてきた役割が大きい。SCが住民にどう関わり、どのような役割を果たしてきたのかを簡潔にまとめた。

鳴門市版 暮らサポ ～開設までにおけるSCの役割と活動～

徳島県鳴門市

■鳴門市の概要■

人口:57,394人
世帯数:26,337世帯
高齢化率:33.8%



2019.4.30現在

県下で最初に基幹型包括支援センター、鳴門市版ネウボラ(子育て世代包括支援センター)を開設。市内57か所でPT・OTと連携し「いきいき百歳体操」を取り入れたサロンを展開。



■鳴門市版暮らサポ開設までの鳴門市の流れ■

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 2017.5 第1回地域づくりフォーラム開催 | 2018.2 第1層協議体設置 |
| 2017.8 第1回大づかみ方式勉強会 | 2018.7 第2層協議体設置 |
| 2017.9 第2回大づかみ方式勉強会 | 2018.10 暮らサポ「みんなの家Asa居」開設 |
| 2018.1 生活支援コーディネーター(SC)選出 | 2018.11 暮らサポ「むや」 暮らサポ「縁どころ」開設 |

SC選出からわずか10か月で3か所の暮らサポ開設に!

鳴門市生活支援コーディネーター(SC)

フォーラムや勉強会に継続して参加!

意欲あり! フットワークが軽い!

ケアマネ・サロン世話人
高齢者・障がい者総合相談
経験あり



助け合い・支えあい活動に理解・経験あり!

NPOで助け合い・生活支援サービス活動経験あり

介護予防事業運営・多世代交流活動経験あり

目指す地域の姿の意識の統一

人脈を生かし地縁組織などへの働きかけ

関係者のネットワーク化

地域ニーズと資源の見える化・課題抽出・政策提案

足で情報を集め、人と人、思いと仕組みをつなぐ

勉強会のアンケートをもとに地域のニーズを聞き取り調査し、地域課題を抽出
いきいきサロンや地元商店街、地域活動を行っている方に直接お会いし、情報収集
助け合いサービスの拠点探しに、空き家や空き店舗等をまわり説明・交渉
サロンに困りごと相談や介護保険外の生活支援サービス(食事提供など)を備えた
第1層・2層協議体と暮らサポでの連絡調整

第2層協議体設置

第2層協議体設置

第2層協議体設置

共生型常設型居場所「鳴門市版 暮らサポ」開設に!

みんなの家Asa居

むや

縁どころ



中庭の広い
空き家の1階を利用

商店街の
空き店舗を利用



四国88か所
1番札所
お接待処
第九の故郷
有形文化財



■今後のSCの活動■

- ・集めた情報が見える化し、市民に提供する
- ・地域特性に応じた生活支援サービスを創出しマッチングする
- ・生活支援の担い手を発掘し、組織化を行う

★目指す姿★

生きがいつくり 介護予防
地域に応じた生活支援サービス
多世代交流

①居場所・サロン・通いの場

いきいきふれあいのつどいの拡がり

高齢者のつどいの場が身近な地域でより多く拡がってきています。

いきいきふれあいのつどいの拡がり

福井県越前市



約20年前から一部の自主的な町内で、高齢者の「つどい」を町内の公民館で実施
高齡者の居場所・介護予防に重要！ → この「つどい」を
もっと拡げていきたい

拡充に向けた取り組み①

次年度計画会（お見合い会）

つどいの
代表者
（世話役）

次は何をしようか？
色んな事してみんなに喜んでもらいたいけど、
講師との日程調整が大変！

つどいの代表者と
つどいの支え手（ボランティア・講師）が一同に会し、
年間計画作成に向け 予約会を実施



つどいのリーダー
（代表者）の負担軽減

拡充に向けた取り組み②

第2層 地域支え合い推進員による つどいの立ち上げ・拡充支援

- ・ 区長、自治振興会の福祉部会、老人クラブとの協力
- ・ いきいきふれあいのつどい代表者の意見交換会を
地区単位の開催に

つどいの
代表者
（世話役）

女の人ばかりで男の人がいない。
決まった人ばかりで、新しい人が来てくれない。
世話役は大変！ 代わってくれる人がいない。

交付金制度

実施回数・内容に応じ、
自治会（町内）に交付

- ①年間12回以上 6万円
- ②年間24回以上で 6万円加算
- ③子どもとの共生で 6万円加算

内容

- ・ 健康講話
- ・ 介護予防教室
（運動・栄養・口腔・薬の話・音楽療法）
- ・ 子どもとの合同活動

地域で認められた
活動に発展

17年間で約80団体増加！

高齢者の約32%（7,600人）が登録！



子ども達とのふれあい



ボランティアによる
芸能や紙芝居



みんなで考え、つくる、あたらしい“まち”

施設やボランティア、住民組織、関係機関などとの協働で生まれた居場所です。
現在も主体的に運営されており、多世代交流の場ともなっています。

①居場所・サロン・通いの場



住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるため、生活支援コーディネーターが西成区の実情に応じた「地域包括ケアシステム」を作り上げるうえでのお手伝いをしています。

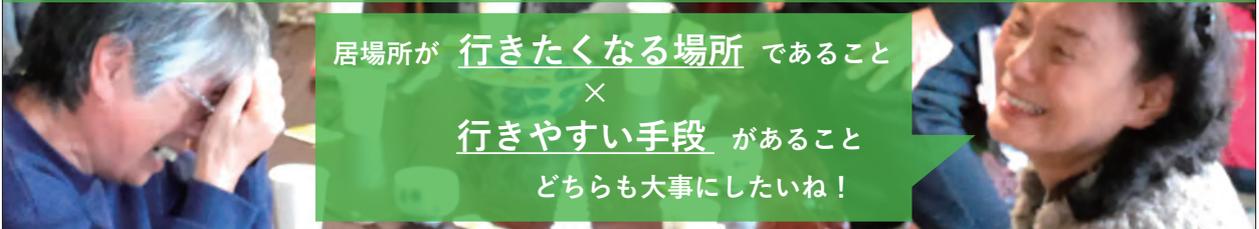
社会福祉法人 大阪市西成区社会福祉協議会 [生活支援体制整備事業]
〒557-0041 大阪市西成区岸里1-5-20 西成区合同庁舎8階 TEL.06-6656-0080

人口約38,000人、高齢化率約31%、居場所38ヶ所… 小さな？町の住民による「おでかけサポート」の取組み

ニーズが高い移動支援。訪問型サービスD対象事業、買い物支援といった側面も併せ持つ居場所送迎「かなみおでかけサポート」を一つの方法としてご紹介しました。

2019/9/9・10 いきがい・助け合いサミットin大阪

人口約38,000人、高齢化率約31%、居場所38か所… 小さな？町の住民による「おでかけサポート」の取組み (静岡県 函南町：かなみちょう) 中村 美那子



目的：支えあい活動を連動させ、気持ちのある方が生きる場をつくる



背景 / 支えあい活動の行く手に“移動が困難”な状況が待ち受ける
外出自体がニーズ!?

平成28年度住民向けニーズ調査
世帯構成とニーズの関係性を見たところ…
「外に出る必要がある」ニーズが上位4/10件
(通院、買い物、ゴミ出し、外出そのもの)

介護保険、総合事業から自立になる方

ヘルパー・サービス利用終了者が増えていく
→ 高まるボランティアの必要性
ボランティアができることと、ニーズの開き

運転免許自主返納事業(行政)など

返納した後は、どうやって出かけたら??



課題 / 活動中の居場所を中心にした、支えあいの機能強化が必要

居場所へ行きたいけれど、
手段がない人の存在

- ①そもそも、居場所がなかったり人口集中エリア(約75%)と山間地の差
- ②あっても、難しい人がいる坂道×階段×杖歩行では?送迎があったからデ・サービスに行けた方

買い物に困る人が多いんだよ

包括等から…

何か役に立ちたい、
意欲が生きる方法探し

- ①運転ボランティア養成講座の実施
ニーズ調査を基に、住民参加の移動支援を検討
- ②生活支援ボランティアの活動内容拡充
養成後、活動に結び付いていない方

方法 / 居場所送迎×買い物ツアー=新たなボランティア活動の創出

かなみおでかけサポート事業

(総合事業:訪問型サービスD対象事業)

*登録不要

社協車両を使用した居場所への送迎
(運転/同乗の2名ボラ体制で運行)

希望者は居場所⇔買い物ツアー
→地域ニーズ充足方法の一つへ



①男性ボランティアの活躍

おでかけサポート運転ボラの中心は男性シニア

②養成後未活動ボラのやる気復活
おでかけサポート同乗ボラ

生活支援ボラの活動メニューが新たに
加わったこれならできそう!と活動を
始めた方が増加!



今後の期待 / 居場所がもっと身近で、当たり前にある存在へ

「行きたい」「やりたい」という気持ちがある、だから居場所もボランティアも活発になれる

居場所	行きたくなる場所
送迎	行きたくなる動機の一つ
参加者	内容の充実はやる人次第

課題：おでかけサポート事業の拡充

- ①現状、移動支援に取り組んでいるのは社協のみ。車両・対応人数に限界有!他法人の参加に向けた取組みが必要。
- ②安全性の向上のため、研修企画をボラと検討中。



『つながる』を楽しもう♪ NICE!の集い

助けあい活動が広がるためには、まずは住民同士が出会い、繋がる事がスタートである。そのために、沢山の人が居場所に来てみようと思えるような居場所作りを工夫している。



『つながる』を楽しもう♪

NICE!の集い

- ・閉じこもりがち
- ・友だちがいない
- ・行くこと、やることない…



そんなことではどんどん体も
ココロも弱っちゃう!!

出来ることから始めよう!!

『集い』始めちゃいました★

「つながり」ができるようなみんなの居場所になればいいなという思いでスタート。毎月1回、昼食を一緒に食べて、その後好きなことをして過ごしたりしています。誰でもふらっと入りやすくするための決まり事は…

- 毎月開催します。(いつでもお待ちしております!)
- 誰でも参加できます。(年齢、性別、状態問いません!)
- 何をするかは決まっています。(決まっていないのがいい)
- みんなで決めます。みんなで作ります。(意見を下さい!)
- お客さんはいません。それぞれが出来る事で参加します。(セルフサービス)



NICE!な効果

あくまで、全員が、参加者なので、お客さんはいません。
自主的にみんなで、面白い事を考えるので、発展したらこんなことができそう。
例えば…

- 移動支援…運転可能な住民が車を出して、外出支援
- 見守り支援…共助による見守り
- 介護予防…通う事で生きがいを持ち、支え合いの輪が広がる。

★実際に、集いで出会った仲間数人で日帰り旅行に行ったことも!

集いだけで、広くカバーできるものではないけれど、
やれる人が、できることを
やればいい!

楽しめればいい!

そんな場所が増えたらもっとうい♪



居場所でのつながりが
日々の生活をキラキラさせる!



今後の夢

高齢の方だけでなく、多世代交流の居場所へ
障がいを持っている方、子育て中の方、子どもなども、「つながる」居場所を目指します!



顔見知りの関係(自助、共助)
「我が事・丸ごと」の地域共生へ

地域リハビリテーション活動支援事業を活用した地域課題の解決について

福岡県久留米市では、高齢者が主体的かつ継続的に地域での介護予防活動に取り組むために、住民主体の通いの場における活動の定着を支援している。一般介護予防事業を活用した地域課題の解決について報告する。

地域リハビリテーション活動支援事業を活用した地域課題の解決について

特定非営利活動法人くめ地域支援センター 長野久雄（作業療法士）

1. 背景

- 現状：福岡県久留米市の人口304,703人、高齢者数81,595人（2019年4月）
高齢化率26.8%（日常生活圏域11か所22.7%～32.5%）⇒29.3%（2025年見込み）
- 課題：①住民主体の通いの場が不足している ②住民が気軽に交流できる場が不足している ③身近な地域での運動の場が不足している（「地域ケア会議専門部会」資料より）
- 施策：高齢者が元気なうちから、主体的かつ継続的に地域の介護予防活動に取り組む

2. 目的

地域リハビリテーション活動支援事業を活用することで、地域の通いの場や参加者数が増え、住民の主体的かつ継続的な介護予防活動を支援する。



久留米市における地域リハビリテーション活動支援事業

- 【いつ】半年間で5～10回（2017年4月から開始）
- 【どこで】団体の活動場所（コミュニティセンターなど）
- 【誰に】地域で介護予防に取り組む意欲のある団体（老人クラブ、サロン、自主グループなど）
- 【誰が】理学療法士または作業療法士（講師）
- 【どのように】一定期間派遣し、自主的に運動や体力測定ができるように助言・指導を行う（1回60分以上）
- 【どうなる】地域における**主体的かつ継続的**な介護予防の取り組みができる

3. 方法

- ①地域の情報収集
- ②キーパーソンの把握
- ③地域住民への動機付け
- ④介入団体の決定
- ⑤介入の開始
- ⑥介入状況の把握
- ⑦介入の終了
- ⑧フォローアップ



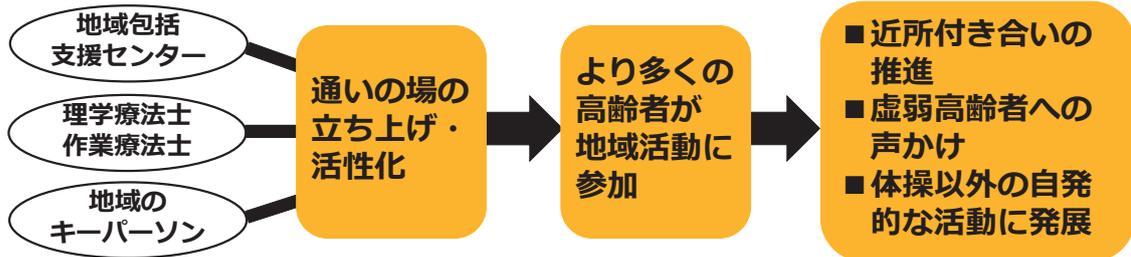
4. 結果

- 2017年からの2年間で、26団体に講師が介入した
- 介入した26団体中、11団体が新たに立ち上がった
- 介入した26団体中、16団体が週1回、10団体が月2回の活動を継続している（2019年3月現在）
- 介入時の延べ参加者数は、4,105名であった（2年間）



知り合いができたので、集まるのを楽しみにしています

5. 考察



6. まとめ

『介護予防を手段とした地域づくり』を地域住民と専門職が協働して行うことで、地域課題の解決につながる。

社協を母体として民家に開設した通所型サービスBと多様な活動が創出された事例

社会福祉協議会が民家を一軒借り受け、通所型サービスBを地域の活動者が担い、更に地域で必要とされる活動を生み出している。地域に拠点が出来たことで地域活動が活性化された事例。



社協を母体として民家に開設した通所型サービスBと多様な活動が創出された事例

藤井 友美 白河部 りつ子 笠井 志保
社会福祉法人 草加市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター



草加市社協
イメージキャラクター
ウエルちゃん

さかえーる 週間予定表	
月	おしゃべり倶楽部
火	ルーエ さかえ
水	野ばら会
木	みんなの保健室陽だまり
木	ためきのおうち
金	キャリア創作カフェ
金	認知症サポーター 草加 柿とロバの会

平成28年度市社協重点課題として、協議体設置を見込み、「社協を母体とした地域拠点の設置」が盛りこまれた。

生活支援Coが、空き家を探して歩いた。社協内ヘルパー事務所から候補が挙がった。

ルーエ さかえ 新設
ルーエさかえを開設したことで、平日は、いつでも来られる場となった。参加する人が、自由に過ごせる。

子どもの居場所 ためきのおうち 新設
担い手は元学童指導員の高齢者が中心。子どもの支援を通して、高齢者活躍の場に。

障がい者の就労支援 キャリア創作カフェ 新設
地域住民との交流により、自己肯定感を高め、社会へはばたく準備の場。

認知症サポーター 草加 柿とロバの会 新設
認知症養成講座修了者の活躍の場。寸劇や映画会による啓発を行う。



契約交渉

賃貸契約

運営委員会発足

通所型サービスB

- おしゃべり倶楽部 新設** (月) 生活支援Coが、ボランティアの有志を募り、新設。
- 野ばら会** (水) 以前の拠点が建て替えとなり、活動縮小していたが、さかえーるにて再活性。
- みんなの保健室 陽だまり** (木) 看護師中心の団体。市内で活発に活動していたが、拠点がなかったことが課題だった。



地域課題の解決に向けて、さかえーるができることを検討

まとめ

本事例は、社協で借り上げた民家「さかえーる」にて、通所型サービスBから開始し、その後も多くの活動が創出された、**共生型常設型の居場所**である。生活支援Coは、民家の選定から介入し、借り上げた民家にて地域住民による助け合い・支え合いが可能となる**仕組みづくりをコーディネート**した。

さかえーるにおける支え合いの仕組みの特徴としては、次の3点があげられる。① さかえーるというハードの存在により、サロンの創出や担い手の発掘といった**資源開発が容易**となった。② 地域住民を中心とした運営委員会を設けることで、**ネットワークが構築**された。③ 運営委員会において地域課題が出されることで支援ニーズが明確となり、同時に課題解決に向けた取り組みも住民主体にて行われるようになり、**ニーズに合わせた多種多様な取組が創出**されるようになった。

①居場所・サロン・通いの場

住民主体の通いの場が居場所、移動スーパー導入へ繋がった事例

地域住民の健康支援・介護予防を目的に、住民運営の通いの場を高齢者が歩いて通える範囲内に立ち上げています。現在では通いの場が中心となり、高齢者の居場所づくりや移動スーパー導入へ繋がっています。

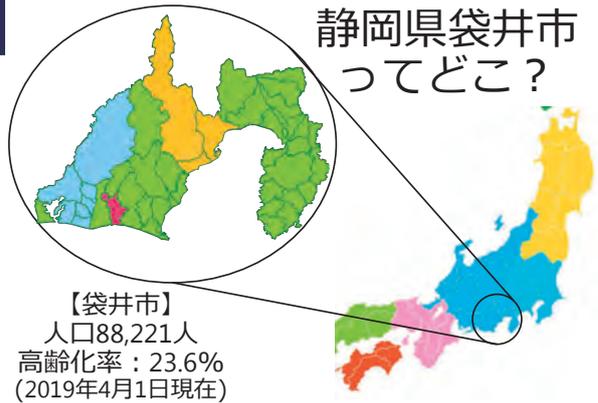
① 居場所・サロンの創出

① 居場所・サロンの創出

生活支援コーディネーター／作業療法士 山崎竜弥

はじめに

- 筆者は2017年11月より、静岡県袋井市の浅羽地域包括センター（以下、浅羽包括）に所属し、生活支援コーディネーター（以下、SC）／作業療法士（以下、OT）の立場で地域づくりに取り組んでいる。
- 2014年より（一社）シニア支援センターや行政と協働し住民主体の通いの場の立ち上げ・継続支援を行っている。約5年が経過し、住民主体の通いの場が地域づくりネットワークの中核となりつつあるため、事例を交えて以下に報告する。



立ち上げの経緯とSCの関わり

- 介護予防体操の教室はすでに行われていたが、住民主体ではなく頻度も月に1回程度
- シニアクラブ・サロンの参加者減少や、お世話役(担い手)不足に伴い活動が縮小
- 介護保険卒業後の受け皿が不足
- 二次予防事業の失敗



- （一社）シニア支援センターが高齢者の介護予防や生活支援に意欲的なので協力して普及
- 民生委員や地域福祉推進組織とも協働



要支援者～健常者まで誰でも参加できる通いの場を、週に1回、住民主体で展開

※ SCは住民サポーターの養成やサポーター同士の交流会を企画して後方支援

住民主体の通いの場が地域づくりネットワークの中核へ

<高齢者の居場所>

- 参加者の声
「体操が終わってすぐに帰るのは寂しい」
「おしゃべりをする場所があると良い」



- 体操終了後は、持参したお茶やお菓子を食べておしゃべりをするような高齢者の居場所へ



<移動スーパーの拠点>

- 参加者の声
「免許証返納も考えるが返納後の移動に困る」
「息子家族と同居中で買い物を頼む相手はいるが、自分の目で見たい」



- 2層協議体で協議し、飲食店や自治会・民生委員と協働して体操終了後に移動スーパーが来る体制を整備



住民参加型の介護予防＋専門的アプローチ＝新たな生きがい活動！

住民から軽体操協力員を募集して養成、多くのサロンで軽体操を行う他、自らも体操サロンを立ち上げた。また地域包括の介護予防教室と連携し高尾山への登山を企画。参加した人々が新たな生きがいを見出している。

住民参加型の介護予防＋専門的アプローチ ＝新たな生きがい活動！

東京都昭島市の取り組み

昭島市の概要

東京都心より約35km西側に位置しており、都内までの通勤圏域のベッドタウンとしての機能を有している。人口は113,564人、高齢者数は29,415人で25.9%と他市同様、急速に高齢化が進んでいる。現在は市内4ヶ所に地域包括支援センターを設置。生活支援コーディネーター2名や社会福祉協議会等の関係機関と連携をとりながら介護予防事業を進めている。



居場所づくり

住民相互の助け合い活動の普及
地域交流の創出
介護予防の推進



サロン活動の推進

5年前から社協を中心に住民が作る
サロン活動を推進！
現在82か所のサロンが活動中。

地域包括で行う 介護予防教室

地域包括支援センターでは
8年前より介護予防教室を開催。
体操教室「おたっしゃプラン」
ウォーキング「こもれび」



介護予防

+

専門的評価

通いの場

地域のどこでも介護予防

軽体操協力員の養成

サロンに介護予防の視点を導入
するため、各専門職種と協力し、
「軽体操協力員養成講座」の
カリキュラムを作成。

サロンに持ち帰り実施

自ら開催するサロン
で体操を実施。

サロン運営者をはじめ、地域住民
45名の方が受講。



あきしまの一步

ボランティアグループ
「あきしまの一步」が
立ち上がり、依頼のあった
サロンで軽体操を指導。

リハ職の専門性の活用

地域リハビリテーション 活動支援事業の実施

介護予防の推進とサロン活動
の活性化を図るため、サロン
に専門職を無料で派遣する事
業を開始。



取り組みの流れ



高尾山ハイキング

サロン、介護予防教室の参加者に
呼びかけて高尾山への登山を企画。
ボランティアを含めて39名が参加！



サロンあきしまの一步

新たなサロンを創設し、
住民の介護予防を推進
するとともに自らの
生きがい活動になっている。



新たな参加の場 生きがいづくり



専門職がささえる地域サロンのつくりかた～地域の課題を地域ネットワークを活用しながら解決していく～

話し合える関係作りを意識しながら地域に必要な資源を考えました。話し合いから生まれた地域サロンに行政、専門職、地域住民それぞれが参画する事で健康増進・介護予防の効果を期待しています。

専門職がささえる地域サロンのつくりかた ～地域の課題を地域ネットワークを活用しながら解決していく～

医療法人博仁会 木戸田真(介護支援専門員) ・ 常陸大宮市第1層協議体メンバー 西村和也

はじめに

私たちの活動拠点は茨城県常陸大宮市で人口約42,000人、高齢化率約34%、基幹産業は農業という地域である。

常陸大宮市では2層協議体は7つあります。私たちの活動地域は常陸大宮駅等がある中心地(地元では旧まちうちとよんでいます)の中学校区内の1部で、名称を「市民支え合い会議」として、2ヶ月に1度集まり、話し合いをしています。



方法

話し合いの中で自分達の地域には住民が気軽に集まれるサロンが無い事が分かり、サロンの必要性が議論されました。

また、市の在宅介護支援センターで実施していた「在支主体のサロン」が終了するという事が分かり、2層協議体内での地域資源不足が懸念されるようになりました。

そこで、行政、在宅介護支援センターと話し合う機会を作り、サロンをやるのであれば地域にいる専門職を活用しながら、楽しく気軽に集まり、何かしら勉強になって、健康増進、予防意識を高める内容にしたいと考え、財源面等を含め行政、在支と協議を続け「まちなかサロン」を立ち上げる事になりました。

結果

①まちなかサロンの設立

常陸大宮市社会福祉協議会からサロン立ち上げ助成金、講師派遣費用は行政にお願いした。

②まちなかサロンの内容

【専門職のサロンへの関わり】

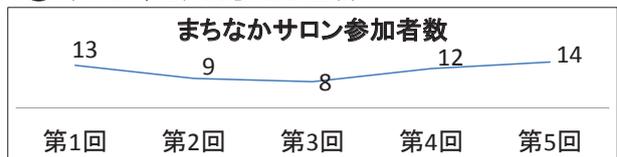
- ・管理栄養士
- ・健康運動実践指導者
- ・精神保健福祉士/臨床心理士
- ・作業療法士

【内容】

- ・フレイル予防と具体的な料理教室
- ・正しい歩き方とまちなか散歩ツアー
- ・90歳のおばあちゃんによる籐細工教室
- ・コグニサイズ体験と認知症予防
- ・専門職とのお茶会



③平均年齢と参加者数



●まちなかサロン登録者数内訳●

登録者17名(男性2名 女性15名)
平均年齢:79.7歳

④活用した地域資源

- ・御前山女子クラブ
- ・認知症予防カフェ
- ・ひたちおおみや楽市
- ・ボランティア2名



考察と今後

協議体構成員・地域住民・専門職・行政が地域課題を共有しながら解決にむけた話し合いをする事でサロン開設が実現、地域課題解決の1歩目を踏み出しました。今後もコミュニケーションを構築する事で、健康増進・介護予防の効果を意識しながら運営していく。

さらには地域住民の意向をくみ取りながら専門職は正しい事を伝えようとするのではなく、「面白い、楽しい」サロン運営に関わってほしい。

また、最終的には地域住民主体のサロン運営を目的に、2層協議体地区内に12個のサロン開設を目標として話し合いを続けていく。



東桜谷地区ささえ愛活動

住民主体で話し合いを重ね、熱い想いの中から生まれた活動。すでに、食事を通して普段出会えない方とご飯を食べることが始まっています。次に、移動支援事業が動き出そうとしているところです。

さあ始めよう！ 愛のある地域づくり

滋賀県 日野町 東桜谷地区

～ ふれ愛・ささえ愛・つなぎ愛 ～



東桜谷おしゃべり会が発足しました！

東桜谷地区では、平成29年5月より、地区社会福祉協議会や地区人権推進委員会を中心に、先遣地の視察・講演会の開催・報告や話し合いを実施し、より良い地域づくりの方策を考えてきました。

このような取り組みを進める中で、地域の課題を感じ、意欲を持った任意のメンバーが集まり、以後、おしゃべり会として、移動支援や農事会を中心に何度も話し合いを重ねてきました。

そして、令和元年5月8日に「東桜谷おしゃべり会」として19人で発足することとなりました。

「東桜谷おしゃべり会」は、「ふれ愛・ささえ愛・つなぎ愛」という愛のある地域づくりを進めるため、ここに、新たな一歩を踏み出します。

＊おしゃべり会発足までの取り組み

- ・「ふれ愛・ささえ愛・つなぎ愛」研修会（4回）
- ・視察研修（米原市大野木村・あいとう福祉モール・たすけいあい高島）
- ・おしゃべり会（15回）



米原市大野木地区 視察研修後の報告会と 土産「東桜谷地区のさけ」の紹介の様子。グループワーク中にもおしゃべり会の中での話し合いの様子も写っています。

大杉「おしゃべり会」毎月2回実施

このおしゃべり会には、おしゃべり会メンバーが「ふれ愛・つなぎ愛」の活動で学んだことを話し合っています。

おしゃべり会メンバーの話し合いの様子

東桜谷地区の紹介

- 滋賀県蒲生郡日野町（人口約21,500人、8,200世帯、高齢化率約30%）向1地区のうち1つです。
- 東桜谷地区は、人口約1,500人、500世帯で、10戸未満の戸数や山や田畑が多い地域です。
- 高齢化率は、約42%です。
- 高齢者の1人暮らしの世帯約60人、大家族の家でも日中独居の方もあり、1人で食事された日、公共交通の便が少なく、通院や買い物に不便な方もおられます。



①居場所・サロン・通いの場

居場所づくりからの生活支援創出

小さな町なので資源（人材含め）は少ない。だからこそ、その貴重な資源を最大限に活かしながら少しずつ着実に推進していく。

C 助け合い活動の創出

①居場所・サロン・通いの場

『居場所づくりからの生活支援創出』

（宮崎県五ヶ瀬町）

現状

世帯数1,575戸 人口3,843人 高齢化率41.0% 75歳以上率23.9% 行政区14区
※3区には全寮制の県立中高一貫校生228世帯228人と特老入所24世帯24名も含む



①校区（1区）
210世帯 682人 高齢率43.1%
サロン4箇所

②校区（2区～5区）
779世帯 1585人 高齢率35.0%
サロン4箇所

③校区（6区～8区）
192世帯 579人 高齢率42.7%
サロン5箇所

④校区（9区～14区）
394世帯 997人 高齢率48.2%
サロン7箇所

集落内はほとんど顔見知り、以前は用が無くては出かけて行って話をしてた。集まりごとは多くて大変だったけど、世代を超えて話をする機会も多くて繋がりが強かったし頼み事もし易かった。でも、外で仕事をする人が多くなり、家でも忙しそう、訪ねて行くのも迷惑になりそうだから行くことも減った。近所でも気軽に話すことも少なくなって、ちょっとしたことも頼みづらくなった。それでも、住民同士の繋がりはまだある。

繋がりが薄れたら大変。サロンに行かない人も、サロンが無い所もある。病気や認知症のリスクも高くなりそう。誰もが声をかけやすい日常にしよう！

①気軽に集まる場（機会）づくり

②情報発信

③仲間づくり

行動

①月1回の居場所づくり

既存の集まりを探す



他にも①～④校区に各1箇所あり（写真なし）。☺のみ常設で他は月1回。デイや集落でのサロンにも参加される。

②情報発信

*SC便りを作成し全世帯に配布



情報を見聞きして、集まりを希望される集落も出てきた。

③仲間づくり

*行政OB、保育士OB、看護師OB等に声をかける
*町のボランティア養成講座受講者に声をかける

志ある方方で任意団体を設立

・居場所運営と他居場所の支援

志ある方方でNPO法人を設立

- ・行政からSC業務を受託
- ・②校区居場所を常設型へ移行
- ・生活支援の仕組みづくり
- ・中高生とのワークショップ「あいであ広場」運営

これから

居場所立上げ支援

常設型居場所での生活支援の充実

ボランティア人材発掘

集落居場所への生活支援の拡大

情報共有・連携・勉強

行政・社会福祉協議会

町内の各事業所

町内の地域づくり組織

広域ネットワーク組織

（NPO法人結ネットたんぽぽ 生活支援コーディネーター 渡邊ユミ）



いきがい
助け合い

「誰もが輝ける、人々が出会う交差点」－要介護高齢者の社会参加活動と多様性を認め合える場づくりの挑戦－

「誰もが集える居場所」を目指して、多世代交流食堂や要介護高齢者の社会参加活動を企業や地域と連携して実践している。これらが、多様な人がそれぞれの目的をもって集い、つながる場となっていることを紹介する。

誰もが輝ける、 人々が出会う交差点

－要介護高齢者の社会参加活動と
多様性を認め合える場づくりの挑戦－



（福）京都福祉サービス協会 高齢者福祉施設 西院

「誰もが輝ける居場所」を目指して、多世代交流食堂や要介護高齢者の社会参加活動を企業や地域と連携して実践しています。これらが、多様な人がそれぞれの目的をもって集い、つながる場となっていることをご紹介します。

1. つながる居場所として してきたこと

支援が必要であっても、誰でもがいつまでも自分らしくいられるために。安心してその地域で暮らし続けるために。それを実現するには、地域住民がつながり、顔の見える関係を作ることが必要です。そして、それぞれの世代が役割をもち、互いのことを知ることができる機会をつくること。私たちの施設を交差点に、多様なひとと、様々なセクターを超えてつながりを紡いでいく。そんな「居場所」を目指しています。

そうしてできたのが、誰でも集える

- 「多世代交流食堂」
- 「コミュニティカフェ」
- 「子育てサロン」
- 様々な目的をもった「ボランティアの受入」
- そして「はたらく～sitteプロジェクト～」

の取り組みです。それぞれに目的をもった取り組みであり、意味を持たせています。地域に新たな活動を助長するきっかけにもなり、同学区に住民主体で子ども食堂を立ち上げるなど、地域に同じような居場所ができ、地域住民と「地域づくり」を協働していると感じています。



コミュニティカフェ

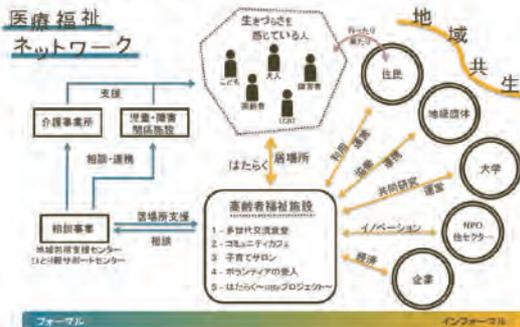


子育てサロン



ボランティア交流会

3. つながる・ひろがる ネットワーク



多世代交流食堂

毎月第3金曜日に開催。17時～19時半。
子どもから高齢者まで平均126人が利用。
子どもボランティアとして活躍中。



2. ものをづくり、はたらいて 社会とつながる

居場所づくりのひとつである「はたらく～sitteプロジェクト～」は、要介護高齢者の「社会参加活動」としてデイサービスのご利用者を中心に実施しています。

介護を受けながらも、まだまだ出来る事はあって、人の役にたてることを知ってほしい。そんな思いから生まれたプロジェクトです。これは、有償ボランティアとして、デイサービスの利用中に活動をする取り組みです。そして、そこに、地域におられる様々な人が一緒に参加できるようにしています。

自身のできることに応じた活動をする事で、社会参加が可能となり、「はたらく」ことを通して、地域の方と出会い、経済活動に参加をして、地域や社会とつながり続けていきたいと思います。



食堂の下準備



まな板の作成



お惣菜の販売

オリジナルブランド『sitte』

デイサービスのご利用者や地域で働きたい人が参加。
まな板を企業と協働し製作。おしゃれな雑貨屋で販売中。
謝礼は、地域の商店街で利用できる金券。



誰もが輝き続けるための「居場所づくり」を地域の人々とともに実践していくことが、地域にある社会福祉法人の役割であり、存在意義だと考えています。ひとと人が繋がるこれらの活動を実施することで、施設を地域に開くこととなり、地域でのネットワークができてきました。このネットワークができたことが、多様な人々が受け入れられる地域・社会になっていくと信じています。

空き家をミンナの居場所へ

盛岡市社会福祉協議会で支援する住民による住民のための空き家活用の取り組みです。関係機関とのマッチング等を社協と第2層SCである包括が連携しながら支援しています。

岩手県盛岡市 高松団地自治会の取り組み

「空き家をミンナの居場所に」



目的：地域に居場所をつくり、交流機会の創出と住民意識の醸成を図る。

背景：高松団地自治会には集会所がない。

【問題意識①】 住民意識の低下

住民が交流する機会が少なく、地域に関心がない住民が多くなってきた。
(自主性・自立性の低下)



【問題意識②】 自分たちの居場所がない

これまでは隣地区の集会所を借用し、行事も合同で行っていたため自由に活動する事ができなかった。



問題：地域に居場所をつくるために、乗り越えるべきハードルがある。

問題① 場所の確保

条件1：集まりやすい場所。
条件2：維持費が安い。
条件3：一定の人数が集まれる広さがある。



問題② 資金

運営費や改修工事費等は、自治会費だけでは足りないため、他の方法について検討が必要。



問題③ 活用方法

子ども会との連携・地域の高齢者向けの行事開催など居場所を確保した後の活用方法に不安があった。



解決方法：自治会役員による迅速な対応と関係各所への情報収集で解決！

解決① 地縁関係を頼る

自治会長のネットワークで自治会内の空き家を低価格で借用することができた。



解決② 情報収集と相談

行政の関係各課と打合せ
→市民活動に対して補助金交付を受けられた。



解決③ 社協と2層SCが協力

・子ども会との連携は社協
・高齢者向けの行事開催は地域包括支援センターが支援することになった。



期待される結果：企画を実践へ！

次のステップへ

自治会・子ども会役員
地元の大学生との昼食会

子ども会	高齢者
<ul style="list-style-type: none"> ・大学生ボランティアによる長期休暇中の小学生への学習支援 ・自治会と子ども会で「夏祭り」を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防を兼ねた茶話会の開催 ・いずれは子ども会との連携を視野に入れて活動



住民と共に歩む協議体と助け合い活動

何もない所から、住民と共に居場所探しを行い、空き家や公園の場所を見つけ、居場所作りの創出に繋がったこと。

住民と共に歩む協議体と助け合い活動

茨城県つくばみらい市

つくばみらい市の2層協議体



わたしが、
生活支援コーディネーター
松尾 です (^ ^)

つくばみらい市社会福祉協議会職員
ボランティア市民活動センター長

2層協議体構成員

自治会役員・老人会・ボランティア・介護施設職員
地域スポーツクラブ・民生委員児童委員
サロン運営者・PTA・行政・包括・社協

第2層協議体ができるまで・・・

H29年4月 市から社協が受託し協議体設置に向けた協議を開始

第1層・第2層どちらから作る？

第2層からでしょ！

圏域はどうする??

5圏域にしよう！

どうやって作ればいい???

...



『行政・社協・包括がお互いの良さを出し合いながら一緒にやっぺいこう』

地域住民のための居場所を作ろう！

ほっこりみんなの居場所サロン

- 伊奈東中協議体 -



構成員みんなで
片付けをして...



空き家を利用した

多世代交流型サロンの開設

あおぞらカフェ

- 未来平地区協議体 -



協議体は
スーパー
イートイン
コーナーで
開催



集える場所がない..
そうだ！
外でやろう！！

屋外でのサロン開設

地域お茶の間創造事業

高齢者や障がい者など支援を必要とする人を地域で見守り、支えるため、地域で気軽に集まることができる「居場所」をつくり、意欲と能力のある元気な高齢者が活躍されています。

米原市地域お茶の間創造事業



米原市の概要



面積：250.39km² 人口：39,138人（H31.4.1時点）
 居住地面積：65.21km² 人口密度：156.3人/km²
 ・2005年、4町が合併して米原市となる。
 ・西に琵琶湖、北に伊吹山（1,377m）、南に霊仙山がそびえる。
 ・総面積の6割が森林。湖岸部は降水量は少ないが、伊吹エリアは積雪量の世界記録を持つほどの我が国屈指の豪雪地帯。
 ・滋賀県唯一の新幹線の駅を有するほか、名神高速道路・北陸自動車道ICも立地するなど近畿エリアにおける広域交通の要衝。



高齢者を取り巻く課題

- ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増え、**地域とのコミュニケーションが少ない。**
- 高齢化が進み、自治会役員や民生委員・児童委員の負担が大きくなっている。
- ひとり暮らし高齢者は、話し相手がない、買い物に困っているなどの不安が大きい。
- 意欲と能力のある**元気な高齢者は、地域活動への関心が高く、地域を支える側として活躍いただくことが期待されている。**

地域お茶の間創造事業とは？(H25～)

地域で気軽に集まる拠点『**居場所**』をつくり、**互助**によるコミュニティ構築と地域活性化を図る。



居場所づくり事業

おしゃべり・体操・認知症予防・子どもの見守り等



集まることが自然に見守り・介護予防に!!

元気高齢者の活躍

- ★訪問しなくても見守りができる
- ★みんなで頭と体を動かせば楽しく介護予防に



現在、27団体が市内で取組を展開中!!

地域支え合い活動事業

買い物支援・外出のお手伝い・配食サービス等



近所の方のお困り事を近所の方で解決!!

地域の見守り強化

- ★介護の専門職でなくてもできるおたすけ
- ★公的なサービスが入れないお困り事をおたすけ



地域お茶の間創造事業の成果と課題

- 成果 ① **地域の見守り体制の強化や高齢者のニーズ把握**ができた
- ② **住民同士の交流や高齢者の生きがいづくり（ボランティアの元気づくり）**
- ③ **地域で支え合う機運（互助）の高まり（意識の変化）**
- 課題 ①新しいスタッフの確保 ②参加者の固定化 ③既存団体との調整

紹介動画はこちらへ



隣のお茶の間

検索



北栄町の助けあい活動に関する取り組み

協議体のやる気を大切に、住民の声をつなぎ、笑顔あふれるまちづくりへ！

北栄町の助けあい活動に関する取り組み

名探偵 コナンに会える町 **北栄町** (鳥取県)

北栄町の生活支援体制整備事業の実施状況について

- 第1層 ・「ほくえい支え愛協議体」の設置 (H28.4)
 - ・第1層生活支援コーディネーター1名配置 (H28.4)
- 第2層 ・「助け合い推進会議(よっしゃやらあ会)」の設置 (2カ所・H30.2)
 - ・第2層生活支援コーディネーター2名配置 (H30.4) *1名は1層と兼務
 - *現在は2名とも専任

★H29年度は第2層の整備に向け次の取り組みを実施

①「地域づくりフォーラム」

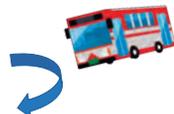
- ・講演：さわやか福祉財団 会長 堀田 カ 氏
- ・パネルディスカッション (町内活動者からの実践報告)

②「北栄町助けあい活動を考える会」(全3回×2会場)

- ・第1回「あなたの住んでいる地域で、必要だと思う活動は何ですか」
- ・第2回「地域に必要な助けあいを考えてみよう」
- ・第3回「地域のニーズ把握、担い手発掘方法を考えてみよう」

⇒これらの取り組みの中から意欲・関心のある方で第2層協議体を設置
(北条よっしゃやらあ会・大栄よっしゃやらあ会)

よっしゃやらあ会推進会議の様子

北条地区・大栄地区それぞれの協議体が
月1回推進会議を開催。「居場所を作りたい」の声に「作ろう！」「やってみよう」とやる
気満々！さっそく隣町へ
出かけてみることに

隣町の居場所「みなくる」へ視察研修

居場所を立ち上げた
きっかけや運営方法
など協議体メンバ
ーが質問。
居場所づくりのイメ
ージができました。「100歳体操」講師は
DVD。世話人や講師
がいなくてもできる！
気づきがたくさん。「みなくるカフェ」手打ちそば
地元のボランティアの方が運営

地域の方の協力も得て「居場所」オープン！！

協議体のメンバーも参加
自然と体操や歌がはじまります。参加者からの声...
「ここに来るといっばい笑えてえーわー」
「どこに聞いていいか分からなかったけど
相談できてうれしい」よっしゃやらあ会の「やる気！！」を大切に、
実践報告会や地域(自治会)との話し合いの場を
持ち、つながりづくりをもっと広げていきたい。
協議体メンバーからの自発的な
活動創出に地域力を感じ、
今後の活動にも期待がいっぱい。

いいね、いい場所、みんなのつばみ

地域に住む、みんなの思い出がたくさん詰まった場所。これからもたくさんの思い出と笑い声が続いていく、素敵な居場所です。一枚一枚の写真からも笑い声が皆さんに届くと思います。



どこか懐かしく、そしてまた来たい...

孝子の里 つばみ交流カフェ

始まりは地域おこし協力隊だった。
 協力隊の支援が終わっても、自分たちのやり方で残していきたいと思った。
 週に一度の開所日を心待ちにしている人達がいる。
 そして、毎週笑顔を見せに来てくれる。
 そんな場所になってきた。それが本当にうれしい。



いいね、いい場所、みんなのつばみ

これから私たちがやるべきことは、来られない人への目配り、心配り。目と心を配るついでにおかずの配達を始めてみたい...
 思うだけでは始まらない。
 そうだ！コーディネーターや協議体メンバーに提案して形にしよう！
 少しずつ、着実に...

開所日

- ◆ 毎週土曜日 10時～16時
- ◆ 要望に応じて開所可
- ☆ 仕込みは金曜日
(お手伝いボランティア募集)

メニュー

- ◆ コロケ定食
- ◆ 給食のカレー
- ◆ いなり寿司
- ◆ ジュース・コーヒー

Facebook(つばみ交流カフェ)検索してください

あるものを活かす！ないものを数えない 昔は村だった小さな地区の取り組み

長野市の北部に位置する鬼無里地区は、市内でも1番の高い高齢化率の地区です。

鬼無里は未来の日本！地域資源が少ない中でも、地域の力を結集してできることを考え、実現しています。

あるものを活かす!!

ないものを数えない

昔は村だった

小さな地区の取り組み



①鬼無里について

・平成17年に長野市と合併 ・長野市の北部に位置する中山間地 ・市内で1位2位を争う高齢化地区
 ≪公共施設≫長野市役所支所、公民館、小中学校(同棟・一貫教育)1校、保育園1園、駐在、分署
 ≪その他≫コンビニエンスストア0、商店数件、温浴施設1つ(冷泉)、宿泊施設数件
 【人口】男604 女700 計1,304人 635戸 65歳以上 764人 R1.5.1現在

②鬼無里の現状

・人口は減ってしまったけど、0じゃない
 ・遠い先の未来ではなく、今何とかしなければと感じている ・住民自治協議会という組織がある

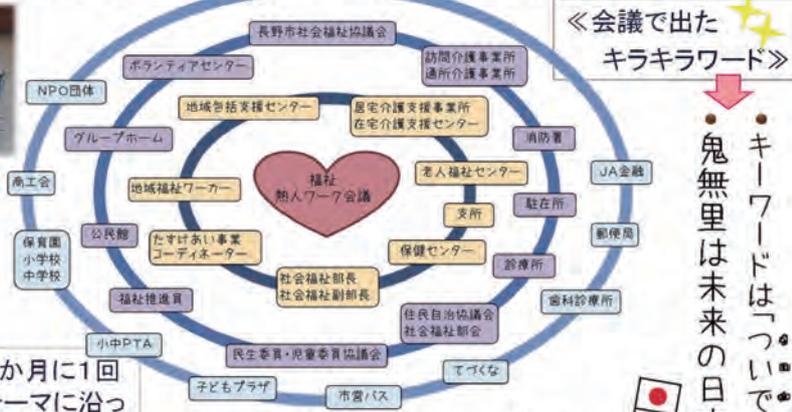
③協議体を作る?!... あっ!もともとある「熟人ワーク」を協議体にしよう!

※熱い人=ねっと で、ネットワークと読みます。福祉関係者で情報交換をするために発足しました。



≪現在のメンバー≫

保健師、支所職員、ケアマネ、在介、地域包括支援センター、社協、ボランティアセンター、公民館、駐在、消防署分署、JA(金融)、郵便局、診療所、NPO団体、奉仕団体、鬼無里の湯、学識経験者、民生委員、住民自治協議会役員



2か月に1回
テーマに沿って
必要なメン
バーで集合

～熟人ワークイメージ図～

※中心から外に向かってネットワークを広げていく感じ

≪会議で出た
キラキラワード≫

●キーワードは「ついで」
●鬼無里は未来の日本

④熟人ワークから生まれた取り組み「鬼無里の湯ふれあいサロン」

≪きっかけ≫

市で行っていたミニデイサービスが終了したため、バスがあって、お昼を食べられる唯一の温浴施設にお願いして開催!



かるた大会

月に2回地区毎(3地区に分けて)開催しています。農繁期は人数が少ない時もありますが、皆さん楽しみにしてくれています。



中学生の折り紙教室

●その他、熟人ワークから始まった活動

・きなサロン ・やすらぎサロン ・お出かけツアーズ ・鬼無里男の会

⑤今後の展望

・役員のなり手不足を嘆く声が「元気な限り担い手ている」と言われるような自治体になる
 ・信州型コミュニティスクール「きなさの学び舎」と、みんなが望む形での連携



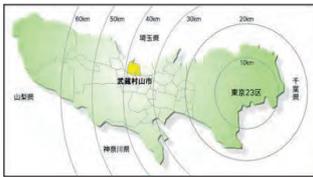
「お互いさま」でつながるまちづくり

駅がなく交通が不便なまちで、2025年までに70か所、歩いて通える地域の居場所「お互いさまサロン」づくりを地域住民とともにすすめています。

東京都 武蔵村山市

「お互いさま」でつながるまちづくり

～協議体とともにつくる「お互いさまサロン」～

東京都で唯一駅がない市 武蔵村山市では
2025年までに歩いて通える「お互いさまサロン」
70か所の立ち上げを目指している
 平成28年から始まったサロンは
 令和元年6月には、41か所に広がっている

4つの地域包括圏域ごとにまちづくりセミナーを開催！



さわやか福祉財団岡野氏の講義のほか、
 地域住民同士で地域課題について
 グループワークを実施。
 全3回終了後、協議体メンバーを募り
第2層協議体立ち上げ

南部地区第2層協議体 愛称：にこにこ◎南部
 南部地区ににこにこことした笑顔が広がるように・・・



第2層協議体の活動

サロンがない「日の出地区」で住民懇談会を開催
 「日の出」サロン立ち上げの協力者を募り、検討会を重ねる



「日の出」サロン検討会
 第2層協議体メンバーと
 地域住民でサロンについて検討を重ねる

1100部の
 案内チラシを
 メンバーが
 ポスティング

日の出サロン 



自治会館で住民が主体的に運営する
 第1回「日の出サロン」開催

今後の目標

「日の出」地区で
 生活支援サービスの
 ニーズ調査をおこない
 住民同士の助け合いの
 仕組みづくりをすすめる！

**地域とつながり
 地域に広がるサロンへ**



住民主体の集いの場

閉店した自宅の空きスペースを活用し、地域で初めて住民主体の集いの場を創設。備品も持ち寄りや廃校した中学校のテーブルや椅子をリサイクルして使用している。

住民主体の集いの場

集って、笑って、地域に恩返し！

◎経緯 『八雲町熊石地域の高齢化率は54%を超えていますが皆さん頑張っています！』閉店した個人宅の空きスペースの活用を家主に相談すると「地域のためになるようなことをしたいと思っていた」とのことで、家主自ら近所に声をかけ地域包括支援センターも協力し地域で初めて住民主体の集いの場が完成した。
この活動をきっかけに集いの場が拡散し新たに3ヶ所の集いの場が立ち上がった。

◎準備について
持ち寄りや、廃校になった中学校の備品を活用し、役場OBの方にも協力してもらい椅子やテーブル、カーペットを設置！

◎概要
名称：『サロンすずらん』
開催曜日：毎週水曜日（誰でも参加OK！）
参加人数：平均8人（60歳～75歳代）
参加費：1000円
活動内容：軽体操、創作活動、茶話会



お正月に向けて祝い鶴を作成

「集いの場は楽しいね♡」



集いを通して意欲が向上！
もっと地域に貢献したい！！

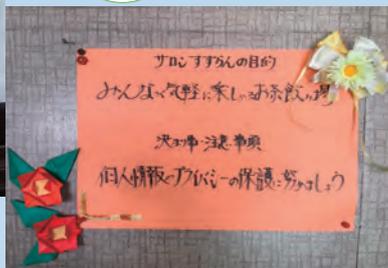


腕前は達人級！

完成！

使わない着物を解いて小学生のスクールバス停留所へ座布団を作成し寄付することで地域に恩返し！

自作の看板
サロソ？は
ご愛嬌（笑）



子供たちは喜んでくれるかな？



北海道二海郡八雲町



気軽に集って笑顔あふれる地域の居場所 (地域のサロンが5倍に増えた)

生活支援コーディネーターのあきらめない地域への働きかけや地域住民の皆さんが主体になるような仕掛け、様々な地域の団体との協力など“つながる”ことによるまちづくりの実践報告です。

C 助け合い活動の創出

①居場所・サロン・通いの場

5年間で地域のサロンが5倍に増えた!



気軽に集って笑顔あふれる地域の居場所

～生活支援コーディネーター(社協ワーカー)奮闘記～

木津川市北之庄地区の実践

(1年目)

サロン作りませんか?

私1人じゃムリムリ

だれも必要と思ってるよ

生活支援コーディネーター

民生児童委員

地区社協支部長

(2年目)

元気アップ体操講座に参加しませんか?

自分の健康のためにもお友だちを誘って参加してみようかしら

参加して良かった!地域の人々と一緒に体操したいわ!!

(3年目)

地域の皆さんの思いを聞いてみませんか懇談会をしましょう

民生委員さんからも相談を受けているのでやってみようか!地域長や老人クラブにも相談してみるよ。

4月

6月

楽しい!

また次も来たい!

地域に誰でも集える場があればいいな

8月 懇談会

9月 サロン立ち上げ会議

生活支援コーディネーター
民生児童委員、地区社協支部長
地域長、老人クラブ会長

1月北之庄元気サロンスタート

9月から1月の間は口を出さずにひたすら見守り。心配だけ地域の力を信じて...

どんなサロンにしますか?いつから、どこで始めます?準備は役割分担しましょう

木津川市・木津川市社会福祉協議会(生活支援コーディネーター)



いきがい
助け合い

人とひとがつながり笑顔あふれる地域へ「つなぐ」

生活支援コーディネーターが、地域の宝物を探していたら沢山の温かい手に触れることができました。その手と手を、その「一緒に居たいね」「お喋りしたいね」の声を繋いで、いよいよ居場所「つなぐ」のオープンです！

人とひとがつながり
笑顔があふれる地域へ
「つなぐ」

生活支援コーディネーターからのお手紙

生活支援コーディネーターは地域の皆さんが抱える生活課題等を村で設置する「協議体」に提言し、解決のために話し合ってもらったり、不足するサービスを創出する役割を担っています。

関川村の協議体は平成30年2月に発足し、今年3月には支え合いのしくみづくりアドバイザーである河田桂子さんを講師に迎えて「フォーラム・つなぐ」を開催させて頂きました。開催に当たって協議体では、河田さん



が代表を務める「実家の茶の間・紫竹」に研修視察に行ってきました。「実家の茶の間・紫竹」は誰もが集える居場所であり、既に此处から住民同士の「支え合いの仕組みづくり」が進展しております。視察研修に参加していただいた皆さんからも「ご利用者一人ひとりが役割を持っている」「利用者同士で困り事を解決している」等の感想が聞かれ、社会性のある居場所として受け止められていました。関川村においても、多くの高齢者から社会参加をして頂き、「支え合う新しい地域づくり」を進めて行きたいと思っております。

(生活支援コーディネーター 佐々木 尚子)

居場所「つなぐ」って？

居場所「つなぐ」は赤ちゃんから学生、お年寄りまで、障がいがあっても無くても誰でも気軽に立ち寄れる場所です。会話を楽しんだり、運動したり、勉強したり、ゴロンと横になっても…。ゆったりと自由な時間を過ごせます。



7/2(火)
10:00~
Open!

開所日 毎週火曜日・金曜日
時 間 10:00~15:00
場 所 旧社会福祉センター（関川村下関18-52）
料 金 100円（中学生以下無料）
対象者 地域や年齢を問わず、子供から高齢者まで誰でも利用できます。※祝日・お盆・正月は休館

【問合せ】 地域包括支援センター：64-1473
関川村社会福祉協議会：64-0111

赤いベンチプロジェクト

大阪市城東区関目校下で始まった赤いベンチの設置を広げる活動。高齢者にいつまでも元気でいてほしいと願いを込めて始めた取り組みが様々な効果を生んでいます。

買い物支援・介護予防・新たなコミュニティ・防犯・相談窓口の周知
たくさんの効果をもたらす

大阪市城東区関目校下



赤いベンチプロジェクト

大阪市城東区関目校下。人口はおよそ9300人。昔ながらの長屋、集合住宅、新築のマンション、警察学校等、区画整備されたエリアに建物が密集し、地域の中心には公園があります。昔懐かしさと新しさが共存する地域で、赤いベンチを設置する取り組みが始まりました。

きっかけは…骨折？

発案者は民生委員や町会長として活動する岡本さん。ある日、足を骨折し、外出に苦労しました。「足の不自由な方や体力が低下してくる高齢者はこんな大変な思いをしているのか…」と実感。地域の中にベンチがあれば、助かる人が増えるのではないかと思います。関目地域活動協議会会長の十亀さんや、地域で高齢者支援をおこなう地域福祉支援員の木原さんに相談しました。

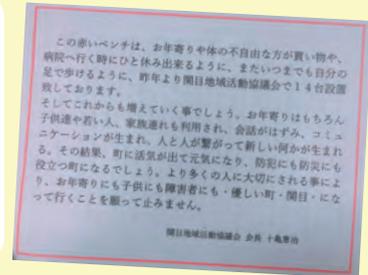


ベンチには地域包括支援センターのステッカー

地域内にスーパーは1か所。

スーパーに行くことをあきらめて宅配や配食サービスを利用する高齢者が増えてきていました。外に出る機会が少なくなったら体力も気力も落ちる。自分の足で買い物に行くこと・外出することは生活のハリにもなる！誰かが座ることで防犯の効果もあるベンチの設置は最適かもしれない！

さまざまな効果を確認し、地域住民の賛同を得て、地域を挙げての取り組みに発展していくこととなりました。



地域の役に立つなら！
みんなでやろう

※製作費用には
区社会福祉協議会の
善意銀行助成金を活用

ベンチはすべて地域の男性の手作り

設計から、材料調達、製作まで、すべて関目校下の男性陣が中心におこなっています。大工さんを中心にみんなで協働し、一つ一つ製作しています。

買い物途中の高齢者、
学校帰りの子どもたち、
お昼休憩中のサラリーマン、
いろんな世代の方が
座り交流の場に

これからも
関目で元気に
暮らそうな～

できることをサポートする仕組み

取り組みをサポートする木原さんは「何かをしてあげよう、用意しようとするのではなく、本人が自分の力でできることをサポートすることが大切。」と語ります。「できなくなったからすぐに便利なサービスを利用する」ではなく、「どんなサポートがあれば今まで通りの暮らしが続けられるか」。赤いベンチプロジェクトは、本人の強みに視点をあてた取り組みです。

2019年5月現在、ベンチの数は18箇所。地域の強みを存分に生かし、おもしろいの輪が広がっています。



百歳体操終わりに団らん



おでかけベンチ・とまり木ベンチを地域・高齢者の手で

住宅地に高齢者のおでかけを支援するベンチを高齢者たちの手でつくっています。

おでかけベンチ・とまり木ベンチを地域・高齢者の手で！



京都市伏見区深草・藤森・藤城・桃山東各学区
醍醐いきいき市民活動センター
西京区川岡・榎原各学区

道に座り込んで／道で立ったまま休んでいる高齢者を見かけませんか？
体力・筋力の低下、脊椎管狭窄、梗塞の予後…
途中、**やすみやすみでない**と、**おでかけできない**方が増えています。

ところが。駅から離れ、お店の少なくなる住宅地には、
歩道もなく、ベンチが置ける公共用地はありません。

本プロジェクトは、
個人宅の軒先、使わなくなったガレージ、高齢者施設等の
敷地内！の道路沿いにベンチを置いてもらい
住宅地からの高齢者のおでかけを支援する試みです。

‘18.9 醍醐

住宅系市街地



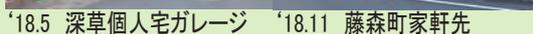
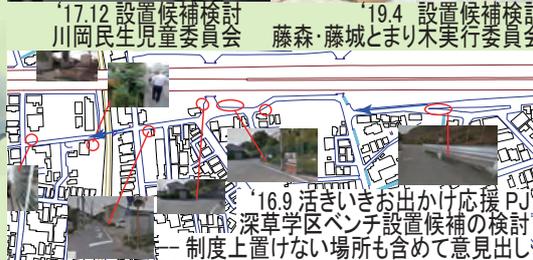
設置までの手順

1. 勉強会：住宅地にベンチがあるとなぜよいか？
置く所がなかなかないことをみなで認識。
2. フィールドワーク：ベンチを置いてもらえそうな
お宅、お店、施設を探そう！
既にベンチのある場所も探してみよう！
3. マップ作成：2の成果をマップにしよう！
4. 設置依頼：地域のいろんな「つて」をたどってお願いしてみよう！
5. 予算捻出：関係者寄付、区民活動支援事業…
6. ベンチデザイン・製作：男性高齢者も出番！大学も助け！
7. お披露目：イベントや広報で自由に座れることを周知
8. 活用術（これから検討）→座れる所をたどるウォーキングの会？
→ベンチ設置場所まで買物のお届け支援？

‘18.9 醍醐

取組の参加者＝学区ごとにチームの構成が異なります！

- 深草学区／2015-／深草・竹やすらぎの会
深草商店街、社会福祉協議会、深草竹コプターの会、藤紫会、
大岩・七瀬川サロンの会、おやじ会、小学校、市まちづくりアドバイザー、
活いきいき生活応援センターうふふ、チーム街コミ、NPO 竹と緑
- 藤森・藤城学区／2018-／とまり木実行委員会（地域ケア会議発）
各学区自治連合会、社会福祉協議会、民生児童委員会、ケア事業者、
市まちづくりアドバイザー、地域支え合い活動創出コーディネーター
深草・南部地域包括支援センター
- 桃山東学区／2018-／桃山東支え合いの会（高齢者自立支援ボランティア）
自治会連合会、民生児童委員会、社会福祉協議会、自主防災会、ケア事業者
市まちづくりアドバイザー、地域支え合い活動創出コーディネーター、
…上記4学区は隣り合ってるので歩いて行けるところが広がります！…
- 醍醐いきいき市民活動センター／2018-／生き活プロジェクト
チーム街コミ、プロジェクト参加者個人、センター職員
- 川岡学区／2017-／自治連合会内ベンチプロジェクト
民生児童委員会、老人会、社会福祉協議会
- 榎原学区／2019-／個人
- * 上記いずれのプロジェクトにも京都大学吉田研究室協力



いきいき百歳体操を通じて高齢者を元気にする取組み

支援者も参加者も関わる人すべてが楽しく笑顔になれて、地域住民同士の助け合い・支え合い活動につながっていると感じてもらえたらと思います。

いきいき百歳体操を通じて高齢者を元気にする取組み

実施場所：大阪市港区築港地域 第五コーポ集会所

グループ：天保山第五コーポいきいき百歳体操

大阪市港区社会福祉協議会

マスコットキャラクター「くしゃきょん」



1. 取組みの背景

大阪市港区築港（ちっこう）地域は、周囲が海・運河に囲まれていて、「海遊館」や「天保山（てんぼうざん）」があることで有名です。取組みの舞台である「天保山第五コーポ」は、約600世帯1,500人が暮らす14階建ての集合住宅で、65歳以上の高齢者は約600人おられます。住民のみなさまは、元気づちから介護予防に取り組むことや、居場所の必要性を感じはじめていました。そこで、町会長をはじめ看護師経験のある住民、ボランティアが中心となり、区役所の保健師や社会福祉協議会とともに集会所を使っていきいき百歳体操を開始しました。「閉じこもりがちな地域住民の居場所になれば」と、支援者の高山敏子さんは言います。

2. 取組み手法

第五コーポの住民および地域の方向けに、週1回のいきいき百歳体操を実施することにしました。手首足首におもりをつけて、足腰の筋肉を鍛えます。また、体を動かすことだけでなく、集まった人たちでおしゃべりしたり、交流をはかることで、住民同士の見守り・支え合いにつながっています。参加者は毎回の出席カードの他に「笑顔でふれあい隊」カードを持参し、普段からご近所の方とお話して、小さな助け合いをすることでシールを貼ってもらいます。体操については、他に「かみかみ体操」を実施し、お口の健康増進にもつなげています。第五コーポ町会長の乾勝信さんが集会所の使用などのハード面の相談にのっています。実施にあたっての予算は、大阪市ボランティア活動振興基金を活用するなどしています。

3. 効果・自己評価

参加者からは「トイレが我慢できるようになった」「咳をする回数が減った」という声があり一定の効果がみられます。「いきいきサポーター」として携わる支援者の一人、加藤齊代さんは、「私たちは専門家ではないので、実施以上のことはできません。だけど、参加者が自然と自分たちで体操の意義を理解してくれて、楽しみながらしているのがわかるのでそれがうれしい」と伝えてくれました。また、無料であることで来やすく、3カ月に一度の体力測定を楽しみにしている方も多いそうです。

4. 展望・今後の課題

今後はこの活動のほかに、住民の生活課題に寄り添う支援ができればと高山さんは話します。例えば、専門機関（地域包括支援センター・ランチ・福祉施設など）による健康相談の実施です。百歳体操を実施するなかで、今が元気だからこそ将来のことを考えたいという方や、不安を抱える独居の方の相談につながるようという思いをもたれています。高山さんは続けて、場所が遠いなどで来たくても来られない人がいることにも言及。「居場所を増やすことも大事だが、それぞれが横のつながりをもつことで近くの場所を紹介することもできる」と拠点同士のネットワーク化の必要性についても話されていました。



★みんなが笑顔で楽しく♡



加藤さん、高山さん、乾さん

ぜひ一度、わたしたちの活動を気軽に見学しに来てください！



みんなで楽しく地域づくり タコ足ケアシステムの取組

タコ足ケアシステムは、多古町において分野や世代を超えた繋がりを生み出し、地域の困りごとを解決していくためのネットワーク。町内の社会資源や住民が繋がり合う場を創り出し、社会関係資本を豊かにしていきます。

みんなで楽しく地域づくり タコ足ケアシステムの取組



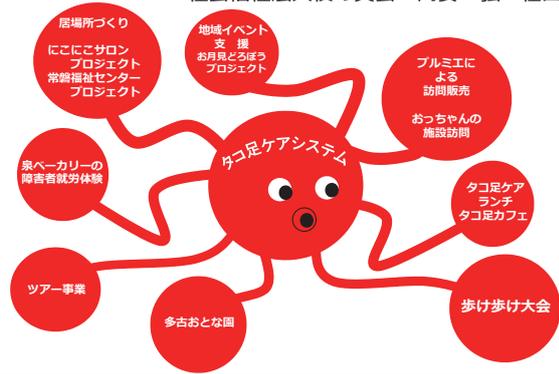
多古町地域包括支援センター 平野 香
社会福祉法人横の美会 高安一弘・在田創一

多古町のヒト・コト・モノを ゆる〜くつないで楽しく地域づくり

『タコ足ケアシステム』って何だろう？

多古町において、分野や世代を超えた繋がりを生み出し、地域の困りごとを解決していくためのネットワークです。町内の社会資源や住民が繋がり合う場を創り出し、社会関係資本を豊かにしていくことを目指して2014年12月からゆるやかに始まった活動です。

町内の介護事業所や障がい者支援施設、役場に勤めている人や商店街の人、地域の人、町外からの人など、さまざまな人たちが参加しながら、地域のニーズをネットワークにこつつけて解決する取組を行っています。



居場所づくり① ここにごサロンプロジェクト

「子どもたちのために何か役に立ちたい！」というシニアのつぶやきから、こども食堂「ここにごサロン」の立ち上げをお手伝い。シニア×子どもでみんな笑顔に！



居場所づくり② 常磐福祉センタープロジェクト

地域の拠点だった町の保育所のリノベーション。地域のつぶやきを集めてつなげたらみんなが笑顔になった！

常磐福祉センターにまつわるつぶやき

【横の美会】なかなか地元の人と交流の機会がないんだよね。交遊の場を創りたい。

【住居】ミニデイも始めたいと思ってるんだけど、最初は町民じゃなくてもいいから、地域限定でやってみようかな。

【南玉造サロン】エアコンのない夏は暑くて、冬は寒い。夏は涼しく、冬は暖かい場所がほしい。

【大学の先生】学生のフィールドワークに協力してほしいです。

【地域の人】もともと保育所だったから、自分の息子や孫のお遊戯会にも来たことがあるし、なじみのある場所だけど、今は障がい者の居場所になっちゃってほしい。定着させてほしい。



歩け歩け大会

山の中にある障害者支援施設 ひかり学園の歩け歩け大会は、町のはずれでひっそりと開催していたイベント。タコ足ケアシステムでつながり、それを知った商店街のおっちゃんが「そんなとこ歩いてないでまちに出て来いよ！」と言った一言で、そのイベントは商店街を歩くイベントへと変わった。年々町内の温度が変わり、今では町内外から多くのボランティアが参加するイベントになった。障がい者が歩くまちが元気になる！



地域ネットワーク活動 Community Network



タコ足ケアランチ

仲間とお店と食事を繋いでみよう！町内の美味しいものを食べながら横の繋がりを広げよう！と始まったタコ足ケアランチ。お昼休みの1時間を使って不定期開催でスタート。今ではおばあちゃんたちと繋がってお弁当を持ち寄ってわあ〜かちい〜と開催♪



多古町の概要

成田空港の東側に位置し、東西約13.6km南北約12.9km 面積は72.80㎢ 農内町村の中で最大の広さです。町の中央部を流れる栗山川の流域は、低地で水田地域が広がります。多古町の特色は、北側及び東部は台地が広がります。山がちな地形が特徴です。

人口：14,655人
世帯数：5,925世帯 単身高齢者世帯：497世帯
65歳以上人口：5,280人 高齢化率：36.0%

介護保険要介護認定者：754人 認定率：13.9%
身体障害者手帳所持者：450人 療育手帳所持者：109人
精神保健福祉手帳所持者：70人
自立支援医療受給者証所持者：164人

小学校：4 中学校：1 幹部交番：1 駐在所：5 消防署分署：1

みんなでつながる牛乳パックプロジェクト



みんなでつながる牛乳パックプロジェクト

「高齢者のお薬の飲み忘れをなんとかしたい！」薬剤師さんが考えたおくり箱。服薬管理指導にはとってもいいんだけど作るが大変、というつぶやきから、町内をぐるぐるっと繋いでみんなで作るプロジェクトに。

助け合い活動の創出

①居場所・サロン・通いの場

町内会主体の有償ボランティアで「地域力」を上げる！ 支え、助け合う地域づくり

鹿児島県鹿屋市。市内では初の町内会が主体となった有償ボランティア「泉ヶ丘きばいもんそ会」が誕生！「困った時はお互い様」。生活支援コーディネーターなどが根気よく支援し、発足。地域のためにきばいもんそ！

② 助け合い活動の創出

② 有償ボランティア

地域のちょっとした困り事をご近所同士で助け合う
町内会主体の有償ボランティア
泉ヶ丘きばいもんそ会

困ったときは
お互いさま

泉ヶ丘町内会を取り巻く環境

- 人 口：559人
- 世帯数：267世帯
- 高齢化率：24.3%
- 町内会加入率：75.8%

特徴

- 市営住宅（90戸）県営住宅（51戸数）
- 昔の長屋型市営住宅居住者がマンション型に移り高齢化
- 県営住宅居住者は、若い世帯が多い

町内で独居高齢者の孤独死が発生

地域での悲しい出来事を未然に防ぎたい

アンケートと
支え合いマップづくり
の実施

孤独感を感じる高齢者や把握できない住民情報

「ふれあい隊」を結成し
町内の見守り

・ポケットティッシュ配布
・月1回定例会で情報交換

定例会にて「有償ボランティア」の話題が

困り事の相談

20回以上の協議

どうやって
行うの？

さわやか福祉財団のDVDや行政、社協、生活支援コーディネーター、さわやかインストラクターが根気よく支援

お金を
もらうのは…

ニーズはあるの？

【アンケート実施】
困り事等があり有償ボランティアを利用したい人が9割も！！

町内 65歳以上

何が出来る？

支援内容をお手伝いできることから立案

立ち上げ資金は「連合・愛のキャンパ」「赤い羽根共同募金」に応募

開設

登録・たすけあい券の購入 → **窓口** → 登録・たすけあい券の換金

(利用者) ← お手伝い たすけあい券 → (支援者)

活動の輪は広がっています

町内会という住民組織の主体的な活動を基本とした有償ボランティアが、泉ヶ丘の取組をきっかけに他の町内会でも始まっています

お問い合わせ

鹿児島県 鹿屋市 保健福祉部 高齢福祉課

TEL：0994-31-1116 FAX：0994-41-0701

ひとが元気！まちが元気！「未来につながる健康都市かのや」

お問合わせ

鹿児島県 鹿屋市 保健福祉部 高齢福祉課

TEL：0994-31-1116 FAX：0994-41-0701

ひとが元気！まちが元気！「未来につながる健康都市かのや」

はらのまち
かのや

多様な活動を創出するふれあいサービス

住民参加型生活支援活動として行っている「つるがしまふれあいサービス」
いつまでも支え支えられる活動として、展開しています。

C 助け合い活動の創出に関するもの

住民参加型生活支援活動 つるがしま ふれあいサービス

社会福祉法人鶴ヶ島市社会福祉協議会

2000年から始まった有償生活支援サービスを地域の支え合い・関係づくりの**住民主体の生活支援活動**へ
(2019年9月)



生活支援サービスの比較表

	介護保険	生活支援 シルバー人材センター	鶴ヶ島なごみ NPO法人	ふれあいサービス 住民参加型在宅福祉サービス	助け合い隊 地域支え合いの仕組み	富士見自治会 自治会	近所友人 助け合い
実施主体	鶴ヶ島市	シルバー人材センター	NPO法人鶴ヶ島なごみ	社会福祉協議会	地域支え合い協議会	自治会	個人
開始年度	2000年	1975年	2000年	2000年	2009年	2014年	
対象エリア	鶴ヶ島市全域	鶴ヶ島市全域	鶴ヶ島市周辺地域	鶴ヶ島市全域	小学校区	自治会エリア	個別の関係性のある範囲
対象者	要支援・要介護	どなたでも	要支援者	高齢・障害・妊婦・子育て世帯等	どなたでも	自治会員	友人・近所・血族
担い手	介護専門職	60歳以上シルバー会員	なごみ会員	ボランティアな意識の主婦・退職者など	ボランティアな意識の主婦・退職者など	自治会役員	友人・近所・血族
実施内容		家事全般	生活支援全般	生活支援全般	生活支援全般	生活支援全般	
利用料		草むしり、庭清掃、剪定、家事支援	移送、生活支援、外出支援等	家事支援、付き添い、話し相手、見守り	草取り、ゴミ捨て、家事支援、話し相手、ちょっとした困りごと	見守り、ちょっとした困りごと	できることなんでも
実施時間		800~1000円+事務費	1000円	1時間800円	1時間600円(20分200円) 1時間450円(20分150円)	無料	気持ちで
コーディネーター		800~1000円	1000円	チケット制・直接振込	ありがとう券・支援店舗にて使用		
仕組み		シルバー理事	法人事務所	社協 非常勤職員	有償コーディネーター	自治会長	個別対応
		働く人は会員制	NPO生活支援	基本的には双方向の会員制			個別対応



87歳 妻 * 95歳 夫
認知症 要介護1 自立
子どもなし・頼れる親族なし

家事全般に困っていた。

まつさん 81歳 男性・一人暮らし
*身寄りなし。以前に、妄想を訴えることがあり、近所との関係はあまりよくない。

支え合う関係を創出し応援する仕組みへ

つるさんの都合で足りない家事や見守り個人の支え合い(ボランティア)活動へ

ボランティア活動保険の加入

つるさん 78歳 一人暮らし

週2回2時間 ふれあいサービス

妻 90歳 自立 * 夫 100歳 要支援2

息子の介護、生活全般を行う

元料理人・食事づくりは行っている

長男・67歳 要介護5
脳梗塞により、ほぼ動けない

必要に応じて、ゴミ出し・洗濯の補助等

安心して支え合える地域を目指して

C 助け合い活動の創出

②有償ボランティア

「なんかしょうや！」から始まった住民型有償サービス おいしい絆クラブ

地域での勉強会を経て、住民型有償サービスを発足。生活支援の有償ボランティア活動を行う他、区の役員と話し合いゴミ捨て場を増やすなど、地域の環境改善も併せて行っている。

「なんかしょうや！」から始まった住民型有償サービス

おいしい絆クラブ

家の中のいろいろなちょっとしたことができなくて困ってる！

地域の役を終えたけど何かしたい！

この2つの声を結ぶには…??

地域での勉強会を開催してみよう！



平成28年8月～9月勉強会を開催（全5回）毎週開催
最終回にて生活支援ボランティア立ち上げを行うことが決まり、先進地を視察したり、検討委員会を作って準備をすすめ、平成29年7月に発足。会員制互助組織として、大石校区内にお住まいで、家事などの援助を必要とする、
①お一人暮らしの高齢者・高齢者世帯②障がい児・者及びその家族③その他の方のお家の中や外の困りごとをお手伝いする、有償ボランティア（30分につき300円）グループです。

合言葉は…「ちょっとしたことお手伝いします！！」

移動は自転車！
移動中も介護予防です！



一仕事終わった男の背中…。

活動の調整も
地域の方が行います！



利用会員さんとの会話も
大事にしています♪





住民型有償サービス
おいしい絆クラブ 設立総会

特技が活動に！手紙の宛名書き

チラシを校区内全戸に配布し、区長さん、福祉委員さん等の声かけや口コミで利用会員さんが増加しています。
・「可燃ごみを区内のゴミ捨て場まで持って行ってほしい。」との依頼があったため、本人の了承を得た上で、**活動を通して近所の見守りや声かけにもつながることを期待して**、同じ区内の協力会員をマッチングし活動を行っています。
（時間も短いため、ゴミ出し2回につき、300円）
また、活動の中から、「同じようにゴミ出しに困っている人がいるのではないか」という気づきから、**地域の役員さんと話をし、その区にゴミ集積場が2か所になった事例**もあります。
・校区内の就労継続支援事業B型の事業所が協力会員として登録され、施設外就労として実際に活動している事例などもあっています。
・大石校区で始まった生活支援の活動は他の地域にも派生し、他の地域でも生活支援ボランティアグループが誕生しています！

（C）助け合い活動の創出

②有償ボランティア

たんぽぽの会（生活支援ボランティア）が 買い物支援をたちあげるまで

住民の思いにSCが寄り添え、短期間で仕組みづくりができた事例。



たんぽぽの会(生活支援ボランティア)が 買い物支援を立ち上げるまで



たんぽぽの会の主な活動(ひかりヶ丘地区・H27年発足)

生ごみ・資源ごみの搬出、蛍光灯交換、網戸の修理、見守り活動
台風前後の片づけ等

<ひかりヶ丘地区>
人口 2,930人
65歳以上 712人
高齢化率 24.3%

H31年

2月

相談

買い物支援を
やってみたい！
どうしたらいい？

3月

企画

・隣市(福津市若木台地区)の
買い物支援視察
・聞き取り調査実施

4月

買い物支援開始！

目的地:サンリブくりえいと宗像
・利用料:1回 200円
・申込み時に**傷害保険加入**
・支援時の免責に関する**同意書**

対象者は多数いましたが
聞き取り調査の結果…
希望者は2名でした



困っている
人がいるなら
とりあえず
やってみよう！

段差が
怖か～！



利用者Aさん
90代事業対象者

両脇を支えながらの出発



マンツーマンで
おしゃべりと買い物♪

昼食は買ってきた
ざるそばよ！



だんだん足元が軽快に！
支えなしで自分で歩いて
帰宅♪

今日はカートが
よか♪



利用者Bさん
90代要介護1



前は車椅子、
今回はカートに挑戦

重いものが買
えて助かった
バイ！



生鮮品の他ドリンクや
洗剤なども買いました



二人とも
出発時より
足取りが
スムーズに
なっていたことに
びっくり!!

介護保険？
それとも
地域の
サポート？

買い物してい
る姿、とても
イキイキして
いるね！

地域の支え合い
を知ることって
大事！



Bさんのケアマネジャー

<お問い合わせ>

福岡県宗像市高齢者支援課
地域包括ケア推進係
TEL 0940-36-1285
koureisya@city.munakata.fukuoka.jp

磐田市型の地域共生社会の実現

住民の活躍の場の創設を通じた、市民が『我が事・丸ごと』を実感し、みんなにやさしいまち、磐田市を目指して事業展開！！

住民参加型生活支援事業 “せいかつ応援倶楽部” ～ 磐田市型の地域共生社会の実現 ～

【背景・目的】

ちょっとした困りごとを抱える住民と社会参加したいという思いの住民とをマッチングさせた地域の支え合い事業！住民のちょっとした困りごとを支援することで、在宅生活を継続する仕組みと時間を有効に使いたい、社会参加したいという思いの**住民の活躍の場の創設を通して、市民が『我が事・丸ごと』を実感し、みんなにやさしいまち、磐田市を目指して事業展開！！**

【概要】

在宅福祉の充実と地域コミュニティの進展を図るために、住民が主体となって実施する住民参加型の生活支援事業。地域支援員として事前登録いただいた地域住民が、“ちょっとした困りごと”生活課題（掃除、草取り、動物の世話、ゴミ出し、分別、買物代行、話し相手、病院の付き添い等）の解決を支援する**地域の助け合い・支え合いの仕組みとして定着！**

【特徴・成果】

市社協事業としての仕組みの構築（コーディネート方法、初回訪問、同行、チケット制《1時間500円》、保険加入、地域支援員説明会、連絡会、スキルアップ講座、包括、ケアマネ等専門職との協働）を地域住民組織（地区社協）に住民主体の支え合い活動として、生活支援の意義や事業展開する為のノウハウを提供し、**住民と共に協働しながら地区社協事業として確立！！**

★住民が専門職とも協働し、その人らしさを支援する仕組みに進展★

仕組み

池田せいかつ応援クラブ
長野せいかつ応援クラブ
竜洋せいかつ応援クラブ
豊岡せいかつ応援倶楽部
みくりや生活応援倶楽部
南せいかつ応援ご近所クラブ
ふくでせいかつ応援倶楽部
磐田市社協 せいかつ応援倶楽部
市内全域 年間5,000件 コーディネート
検討地区 2地区社協

磐田市型！地域づくりの重要な柱事業

どんな人が利用できる？
①登録料 年間1,000円 ※世帯登録。
②利用料 500円/1時間（チケット制）
③利用時間 1日最大3時間、午前7時～午後6時

美子さんの家族構成 ケース検討
美子さんの家庭訪問
第2層SCが支援



人と人を結ぶ～かけ橋～ 宮津市社会福祉協議会 流 住民参加型在宅福祉サービス事業 「暮らしのかけ橋」

依頼者のちょっとした困りごと（1時間程度で終わるもの）をかけはしさん（市民登録）と一緒に取組む有償の助けあい活動です。依頼者の相談から、見えないものがたくさん見えてきました。

人と人を結ぶ ～ かけ橋 ～

（宮津市社会福祉協議会 **流** 住民参加型在宅福祉サービス事業）

暮らしのかけ橋

日常生活における利用者さんの「ちょっとした困りごと」を、かけはしさんと一緒に行う有償の助けあい活動です。かけはしさんは、この事業の協力者のことで、市民の方に登録いただき、お手伝いをしていただいています。



（依頼ベスト3） 1位「ゴミ捨て」 2位「掃除」 3位「付添い」

<利用の流れ>



（基本情報）

市町村（都道府県） 宮津市（京都府）
 人口 17,879人（H31.4.30現在）
 高齢化率 41%
（暮らしのかけ橋）
 実施主体 社会福祉法人 宮津市社会福祉協議会
 事業開始 平成25年2月1日～
 利用者 宮津市在住で、何らかの理由で困っている方
 活動内容 ちょっとした困りごと（1h程度）のお手伝い
 利用料 300円/h
 かけはしさん活動費 500円/h（利用料300円＋社協負担200円）
 ※ 社協負担200円は「赤い羽根共同募金」を活用しています
 かけはしさん数 76名（男性22名：女性54名）

※ 他のサービスや専門機関等がふさわしい場合は、そちらをお勧めすることもあります

< 事業を通じて見えてきたこと >

- ① 公的なサービスは万能ではない（サービスのこと）
・できることが限られている
- ② 家で支えてくれる家族がいない（家族のこと）
・家族内でできていたことが表面化している
- ③ 困っている本人が「助けて」と言えない（個人のこと）
・遠慮やプライド
- ④ 本人だけの問題じゃない（地域や近所のこと）
・隣近所も高齢化、ひとり暮らし、空き家

➡ 「個別支援」から「地域支援」へ

（事業実績） （単位：件）

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
依頼件数	29	350	498	509	490	466	423
対応件数	25	310	466	455	414	399	389



社会福祉法人 宮津市社会福祉協議会

〒626-0041 京都府宮津市宇鶴賀2109番地の2（宮津市地域ささえあいセンター内）
 電話 0772-22-2090 / FAX 0772-25-2414 / メール miyazu294@io.ocn.ne.jp

① 助け合い活動の創出

② 有償ボランティア

波佐見は続くよ どこまでも！ (線路も海もないけれど。)

長崎県で唯一、線路も海もない波佐見町。「お先へどうぞ」の精神でゆっくりとスタートした支え合いのまちづくりですが、町民皆さんの熱意とSCの確実な先導で進んで来ました。線路に沿って見てください。

波佐見は続くよ どこまでも！
線路も海もない、「やきもののまち波佐見町」で支え合いのまちづくりが、ゆっくりとスタートしました！

線路も海もないけれど。

波佐見名物「窯に入れる前の器を運ぶ軽トラック」時速20kmで走ります。

スタート！

4月

H30.4.1 生活支援コーディネーター配置
支え合いの仕組み作りって何すると？

H30.4.19 係内打合せ「フォーラム」実施決定！

5月

H30.4.26
・フォーラムに向けてさわやか財団との打合せ
・庁内(総務,企画,教育委員会,住民福祉)課長への説明

H30.5.17 第1回実行委員会
・高齢化率が一番高い地区は**45.1%**
・フォーラム後、地域の方々が動いてくれるかという課題がある。

6月

H30.6.14 第2回実行委員会& 町内全地区の自治会長へ説明

7月

H30.7.1 「支え合いのまちづくりフォーラムin波佐見町」
なんと！参加者443名！
町民の意識の高さに、びっくり！
壇上の町長と会場の皆さんが、一緒に支え合いに取り組もうと熱気にあふれた。
堀田会長も！

8月

H30.8.4 第1回勉強会
フォーラムで皆さんの気持ちに火がついたのか74名が参加！

H30.9.1 第2回勉強会 70名参加
小学校区ごとにグループワーク
「どんな町に住みたいか」

10月

H30.10.13 第3回勉強会
「めざす地域づくりを推進するチームをつくろう」 参加者53名

H30.11.6 実行委員会まとめの会
フォーラム実行委員が…
第1層協議体初期メンバーへ勉強会を重ねることに、気持ちの高まりを感じる。

11月

H30.12.1 第4回勉強会
第2層協議体
「チームはさみ」初期メンバー発足
➡ 目指す姿が決定！
協議体名も { 第1層「まとめ隊」に!!
第2層「ひろめ隊」

目指す姿
「みんなが気軽に声かけや助け合いができ、安心して生活できる町」

12月

H31.1 地域支え合い活動通信第1号発行！

1月

2月

H31.2.9 第5回勉強会
「有償ボランティア」について勉強会ごとに必要性の理解がふくらんで行く。
H31.4 SC2名体制へ

H31.3.16 地域支え合い会議
「生活基盤となる生活支援の取り組み」気持ちの高まりを感じ、全員が同じ方向を見て進み続ける。

3月

5月

H31.5.9 まとめ隊会議
・困りごとアンケート結果
➡ 仕組みができれば、利用したい人85%！
スピードアップ！

「してらんばわからん！
とにかく動き出そう！」

廃校を利用した居場所づくり **有償ボランティア**



有償ボランティア「ほっと しらたか」が出来るまで

山形県主催の講座を受講した町民が居場所を立ち上げ、「支えあう地域づくりなないろの会」が発足。「支えあいの地域づくりフォーラム」を開催し有償ボランティアを立ち上げ地域での助け合いを進めている。

山形県 白鷹町

有償ボランティア

「ほっと しらたか」が出来るまで



山形県白鷹町

白鷹町のすがた

まちの将来像「笑顔かがやき 心かよう 美しいまち」

◆地勢

県南部置賜盆地の北部に位置し、東西約17Km 南北16kmで、ほぼ正方形に近い形をしており、総面積は157,711㎡です。町の中央部を南から北へ貫流する最上川をはさみ、西は朝日連峰、東は白鷹丘陵に向けて盆地が形成されています。

◆紅花生産日本一

◆特産品名物

鮎、深山和紙、深山和紙人形、白鷹袖、天蚕袖、地酒、紅花、ミニトマト、そば、アケビ、赤すもも、カシスなど

助け合い活動の創出

有償ボランティア

白鷹町生活支援体制整備事業

■実施要綱制定 平成28年3月

白鷹町生活支援体制整備協議体委員構成(16団体)

区長会代表・民生委員児童委員・人権擁護委員・長井警察署・消防署・商工会女性会・健康づくり推進員・婦人会・元気・エコニ推進会・山形おきたま・元気郵便局・シルバー人材センター・老人クラブ・ちよほらの会・社会福祉法人白鷹福祉会・社会福祉協議会

白鷹町生活支援体制整備協議体委員構成

有償ボランティア「ほっと しらたか」

有償ボラ平成31年4月スタート!

白鷹町SC 黒沢昭子さん

生活支援コーディネーターをご紹介します。

毎週火曜日・金曜日開催。子ども食堂も始めました。

生活支援コーディネーターの活動

- 平成28年度 主催/山形県 実施主体/公益財団法人山形県生涯学習文化財団
- 支えあいの地域づくり担い手養成講座に町民2名参加
- 生活支援コーディネーターは27年度受講 2名と情報共有していった

やっぱり白鷹町にも居場所が欲しい!

平成30年4月～

- 平成29年度 福祉型小さな拠点づくり事業で準備完了!
- 平成30年度から 介護保険 介護予防・日常生活支援総合事業 通所型サービスBに移行

山形福祉型小さな拠点づくり事業を活用!

- 補助金上限100万円
- 平成29年度の場合
- 山形県50万円
- 国(地方創生交付金)25万円
- 町25万円

白鷹町支えあいの地域づくり研修～居場所づくり・生活支援を勉強しよう～4回シリーズ
講師：さわやか福祉財団 理事 鶴山芳子氏
NPO法人代表理事 加藤由紀子氏

介護予防がんばっています!



フォーラム参加者にアンケート実施。助け合いの有志者を把握し、居場所づくり・有償ボランティアの勉強会につなげた。



白鷹町支えあいの地域づくりフォーラム

- 平成29年10月7日(土)午後1時30分～3時30分
- 平成30年10月6日(土)午後1時30分～3時30分
- 主催 支えあう地域づくりなないろの会
- 共催 白鷹町
- 講師 公益財団法人 さわか福祉財団 理事 鶴山芳子氏
NPO法人 ふれあい天童 代表理事 加藤由紀子氏

住民主体ボランティア団体 支えあう地域づくりなないろの会

- 平成29年6月 会の正式名称が決定 「支えあう地域づくり なないろの会」発足!
- 「なないろ」に込められた意味は、いろいろな人の助け合いになり、高齢者から赤ちゃんまでの交流、様々な活動、同じにとられることのない運動を行い、いろいろな方ににじの架け橋をかけた願いが込められています。

助け合い活動の重要性を町民の方と共有し、広げていきたい!

有償ボランティア『世話やき隊』

地域福祉活動の充実に取り組む社会福祉協議会、生活支援体制整備事業に取り組む行政が、お互いの強みやネットワークを活用すると共に、住民のやる気に後押しされ、有償ボランティアを立ち上げることができました。

住民主体の支え合い活動

有償ボランティア 世話やき隊

球磨村の現状

- ◆人 □ 3,637人
- ◆世帯数 1,456世帯
- ◆高齢化率 44.3%

世話やき隊立ち上げの経緯

地域福祉座談会
地域づくり学習会
地域福祉フォーラム
地域づくりフォーラム



**有償ボランティアの
必要性**

平成28年度

生活支援コーディネーターを行政と社協に配置。熊本県のアドバイザー派遣事業を活用。地域づくり学習会にて、助け合いによる地域づくりを住民、行政職員等に説明。

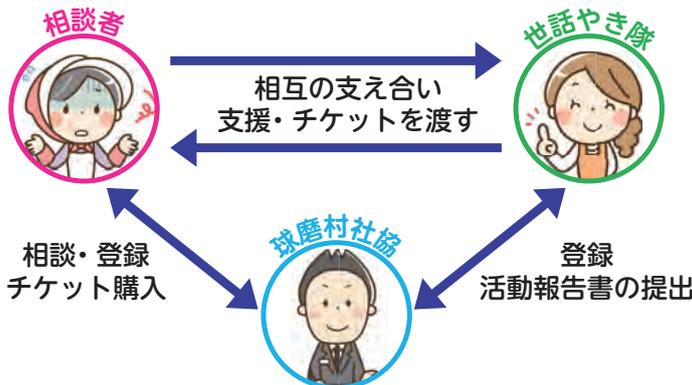
平成29年度

地域づくりフォーラムにて、助け合い活動の必要性を確認。村内のボランティア団体、シルバー人材センター、行政、社協が集まり、有償ボランティア団体立ち上げを協議。

平成30年3月6日

**世話やき隊設立
を支援**

(協力会員20名からスタート)



活動内容

- ・ゴミ出し
- ・書類の代筆
- ・衣替え
- ・小範囲の草取り など
- ・買い物代行
- ・服薬管理
- ・電球交換



お問合せ
球磨村役場

〒869-6401
熊本県球磨郡球磨村大字渡丙1730番地

TEL: 0966-32-1112
FAX: 0966-32-1230



新潟市南区での助け合い活動の創出

大地の恵み豊かな、地縁血縁が残る地域。年齢を重ね、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域や家で自分らしい生活ができるよう「お互いさま」と安心して手助けし合える人づくり、関係づくりに努めています。

新潟市南区での助け合い活動の創出

2018.8.17 助け合いカード体験会



第1部（午後）と第2部（夜間）で開催し、南区内約70名の参加者がありました。

困ったときは「お互いさま！」と気軽に頼み合うことができるか・・・「困りごとがあるのは自分だけではない」「自分ができることも沢山ある」などの感想が寄せられました。

昨秋に開催の福祉教育の中で、中学生と地域の方との体験会では「中学生にも手助けできることがある」と心強いご意見をいただきました。

2019.1.18 助け合いの学校in南区

新潟市支え合いのしくみづくりアドバイザーの河田圭子さんを講師にお迎えし、手助けが必要な人と、手助けできる人とが「お互いさま」と有償で助け合いができるために、その必要性を学び、家庭内などで実際に活動する際の心構えやマナーを学びました。

南区内外から85名の受講者（南区71名）があり、ゴミ出しや病院の付き添い等の生活支援活動を始めた自治会や居場所を通して食事づくりや配食、買い物支援を始めた団体があります。



南区助け合い「お互いさま・新潟」の活動へ向けて

がんばりすぎていませんか？
手助けが必要な人と、手助けできる人とが一緒に助け合いませんか！

「ふよふよの顔」で歩くと、子どもを驚かせてしまいます。お母さん、お父さん、おじいさん、おばあさん、みんなが笑顔で歩きたい。

「ひとりで行けない」「買い物や食事づくりができない」

「手助けが必要な人と親戚」「手助けできる人」

①相談 ↓ ③情報提供 ↑ ②相談

南区 助け合い 「お互いさま・新潟」

● 困りごとが解決できるような情報を提供します。
● 「助け合いの学校」を開催し、修了者が守秘義務、個人の尊厳、自立支援など大切なことを学んだうえで手助けをします。

手助けできないこと

● 送迎バス ● 送迎車の出し入れ、お金の貸付 ● 居場所等の貸付 ● 大規模な家具等の移動 ● 車での送迎 ● 急病を伴う

南区 助け合い「お互いさま・新潟」
受付：月～金曜日（土・日・祝日を除く）10時～16時
専用電話 TEL：090-2232-3739
すぐに電話に出ることができない場合は、お電話をください。
その際は、新しい通話料をお電話でさせていただきます。ご了承ください。

「助け合いの学校」開催後の3月28日に南区修了者の皆さんと今後の活動について情報交換を行いました。

地域で活動している団体の実例を聞いたり、「困っている方の声をどうキャッチするか」、「地域の茶の間や居場所でお互いさま！と手助けし合えることを発信しよう」など、活発な意見交換を行いました。

プライバシーを守り、安心して手助けし合える人づくり、関係づくりを進めながら、南区助け合い「お互いさま・新潟」の体制を整え、「困ったときはお互いさま」の気風を広めています。

9月に第2回南区助け合いの学校を開催します。



元気に参加・活躍できる東成区をめざして

第1層生活支援コーディネーターの取り組みです。「小地域福祉活動（小学校区）」、「有償による助け合い活動」、「3か月1クールの体操教室」、「医療・福祉専門職との連携」を紹介します。

元気に参加・活躍できる東成区をめざして

住民が“都会の田舎”と話すような、古くからのつながりが残る下町。区の西側にある大阪環状線辺りには、町会未加入世帯が増え、地縁のつながりの外側にいる方が増えてきている

※高齢独居率39.0% ※町会加入率は地域により差がある(35%の地域～75%の地域)

全11校下に「地域福祉活動サポーター」が配置され、地域と専門職の協働による「おまもりネット事業」や小地域福祉活動の推進、地域役員・専門職等との協議の場「地域ケアネットワーク連絡会」実施

サロン活動の連絡会(30団体以上)や、有償による助け合い(生活支援)活動(30分350円)が組織化

地縁の外側にいる方のつながりづくり、地域の中での役割づくりが必要!



地域福祉活動者が自ら活動を振り返る場「自主点検会議」(セルフアセスメントミーティング)の開催

小地域版の自主点検会議を実施→



会館に來れない方を対象にした、男性の居場所づくり



会館の活動に、新しい参加者を募るための働きかけ

地域活動参加に“敷居が高い”と感じる方も参加しやすいように、学習の場や新たな参加の場を設定

小地域福祉活動(小学校区)



専門職が企画する、全11校下への出前講座に活動者も参加し、「活動することが、自身の元気にもつながる」ことを発信



活動PRプレートの作成



活動PR動画の作成



30年9月から、大阪市「住民の助け合いによる生活支援活動事業」をしくみに追加し、介護予防Pの活用も可能とした

有償による助け合い活動

活動者の顔が見える周知活動により、26名の活動者が、57名に拡大
ちょっとした困りごとの解決件数が増加



区リハビリテーション連絡会と共催
区内のPTが体操を実施(通年)

修了生が色々な場で活躍



コミュ麻雀VO



食事サービスVO



有償活動VO

修了者のつどいを毎月実施し、修了生自主企画「歩こう会」に発展



「元気になる体操教室」をコンセプトに運営
個別のニーズに合わせてつながり&役割づくり

3か月1クールの体操教室

医療・福祉専門職との連携

包括的支援事業連絡会を毎月開催し、4事業の情報共有と、方針を確認。

会議だけでなく、全11校下へ「出前講座」も企画し、実施する(251名～280名に 介護予防、認知症、在宅医療・介護を啓発)



家事の工夫等をまとめた冊子発行



ケアマネジャー向けの研修を毎年開催。地域福祉活動サポーターとの合同研修会を実施し情報発信を定例化

地域に向かいや専門職を通じてなど、閉じこもりがちの方へ積極的に情報発信



池月流 “マメ” な地域づくり活動

平成21年に地区内の各種団体代表者や住民によるワークショップを12回開催し、地域の課題が明確となった。課題解決のために「池月サポートセンター」の設置をし、新しい地域づくりのあり方を模索し続けている。

池月流 “マメ” な地域づくり活動

池月サポートセンター
池月地域づくり委員会（地域自治組織）

背景 地域の話し合いで「地域内共通の事務局がほしい！」と地域の声でできた。

池月地域



宮城県大崎市
岩出山池月地域
(北西内陸部)

池月大学やパークゴルフ「クラブ」、味噌作り教室、しめ縄作り教室など地域余暇活動がさかん。

人口 1,951人(12年前)→ 1,394人 (29%減)
14歳以下 7.1%



高齢化率 43%



H8一栗中学校閉校→東北一の道の駅、公民館建設
H30池月小学校閉校

いけさぼ 取り組み(H22～)

事務支援

役員重複による個人への負担増加や事務局機能の弱体化により、各団体の会議資料の作成や印刷などを安価に請ける。

【例】

町内会、福祉会、水利組合等の総会・役員会資料。サークル団体の社会教育関係団体の登録申請等。

地域情報発信 H23～

「池月だより」編集・発行月に一度地域の全世帯に配布する冊子。様々な池月のタイムリーな情報と広告を記載。題字は地域の子供が作成。



生活支援 H23～

「池月を助け隊」の窓口高齢者宅の除草や除雪など地域の困りごとを支援する「を助け隊」の窓口利用料金例：500円/30分(除雪)



地域福祉活動支援 H28～

認知症予防、地域コミュニティ活動支援を行う。「いきいき百歳体操」を毎日各地区で開催し、終了後に「お茶っこ」をしている。その他口腔体操や脳トレも楽しく運営。



防災×運動会



地域外の若者×ごはん会



を助け隊×外国人向けツアー



小学生への放課後学習支援



を助け隊×道の駅×おまつり

その他

HPはこちら



今後の展望 市の財政に頼らない地域での自主運営を目指す。

助け合い活動の創出

有償ボランティア

地域が主役！人づくり・まちづくりの取り組み ～三重県桑名市の支え合い活動～

平成27年4月より6名の生活支援コーディネーターが行政、包括等の関係機関と連携し、地域住民のみなさんとともに活動しております。生活支援サービスの団体も立ち上がるなど、少しずつかたちになりつつあります。

地域が主役！人づくり・まちづくりの取り組み ～三重県桑名市の支え合い活動～



桑名市社協
非公認キャラクター
しゃきょうちゃん

桑名市社会福祉協議会

1. 概要

桑名市は人口約14.2万人、三重県の最北部に位置し、ハマグリや多度大社、ユネスコ無形文化遺産の桑名石取祭などが有名。

桑名市では、平成27年度より桑名市社会福祉協議会に6名の生活支援コーディネーターを配置。

小学校区ごとに設置されている地区社協等に出向き、地域の現状や課題を把握し、地域住民とともに課題解決に向けた取り組みを進めている。



男性6名で活動しています

2. 支え合い活動のはじまり

地区社協主催で「いつまでも住み続けられる地区作り作戦会議」(ワークショップ)を開催。

地域住民の実際のケースをもとに、①地域住民の困りごと、②地域住民でできる解決策、③具体的な活動内容について話し合い、支え合い活動をすすめる第一歩となった。

市社会福祉協議会や行政・地域包括支援センターも参画し、他機関連携で支援を行った。



3. 主な活動団体

① 益世支え愛の会

「地域住民の力で少しでも住みやすい地域にしたい」、「子どもや孫が誇りに思う地域にしていきたい」との思いで地区社協や民生委員など地域住民が協力し合い活動をすすめている。生活支援ボランティア、救急医療情報キットの作成、サロン活動など地域住民のニーズに応じた幅広い活動を展開している。



サロン活動



家具の搬出



幼稚園の送迎

② 精義おたすけ隊

支えあい・助けあいのある精義地区を目指して、地区内のチョットしたお困りごとをお手伝いする有償ボランティア。ゴミ出し・家具の移動・傾聴等を行い、平成29年10月の活動開始からこれまで延べ150件以上活動している。支援を受けた側が、次は支援をする側になるなど、地域住民が受け手にも支え手にもなり、地域住民全体で活動を進めている。

地域住民が地域にとって**必要**だと思うこと、**やりたい**ことを自分たちのペースで進めている。地域住民のための活動からスタートしたが、会員自身のつながりづくりや生きがい、介護予防になっており、個人・家族・地域すべてに**効果がある活動**となっている。

4. 今後の展望

活動している地域へは、今後生じる課題などを一緒に解決を図り、その他の地域へは、一歩でも前へ進むことができるよう、「地域住民が主役、地域住民のための活動」になるよう支援をしていく。また、『くわなのふくし活動事例集』を作成することで、活動の見える化を図り、実践者の活動の励みと他地区でも活動を展開していける仕組みをつくっていききたい。



住民ボランティアサポートによる「介護予防」と「買い物支援」の通いの場 ごましお健康くらぶ

住民ニーズが高かった買い物と介護予防を、様々な団体や組織の力を結集して実現までつなげることができました。地域包括ケアの姿を一つの形として具現化することができたと思います。

住民ボランティアサポートによる「介護予防」と「買い物支援」の通いの場

ごましお健康くらぶ

(五町田 久間 塩田 大草野)



佐賀県 嬉野市

目的： 買い物弱者の救済と引き籠りによる心身機能の低下を防ぐ！！

背景： 人口26,000人の小さな市だけど、免許証の返納者が370人超…どがんかせんばいかん！！

<p>その① 免許返納者の増加</p> <p>公共交通空白地帯がチラホラ、足が無ければ暮らせない。外に出ないと身体も弱る…</p>	<p>その② 身近な場所に店がない</p> <p>7割の行政区には買い物場所がない。高齢になると買い物が不便という声が聴かれる。</p>	<p>その③ 買い物のニーズが高い</p> <p>ニーズ調査の結果、嬉野市塩田町の要支援者のうち6割超が買い物支援を希望！</p>
--	---	--

方法： 買い物支援と介護予防の為の場所を創ろう。そこまでの移動の手段を準備しよう。

- ▶ 使える資源を探し、くっつけ、ないのなら、創ればいい。とりあえず、やってみよう！！
- ▶ そうだ、ぶらっと(スーパーマーケット)に併設してリバティ(社会文化会館)があるやん…！？

探す → 移動支援は社会福祉法人へ依頼、協力医は近くの町医者の先生へお願いしてみよう！

創る → 居場所の運営団体がどうしても見つからない…、よしボランティア団体を立ち上げよう！



(サービス概要)

- 開設日： 毎週火曜
- 利用定員： 15名
- 利用対象者：
 - 要支援者
 - 総合事業対象者
 - 買い物に困った高齢者
- 利用料： 200円



ごましお 結びの会

(住民ボランティア団体 14名)

- バスの乗り降りの支援
- 介護予防体操の実施
- 買い物の見守り支援

2019年5月より「ごましお健康くらぶ事業」(通所型サービスB&訪問型サービスD)として正式にスタートを切りました！！

未来を見据え支え合うことの大切さを訴えたら 地域が動いた！ ～藤枝市の地域づくりへの挑戦～

藤枝市は、平成28年度から生活支援体制整備事業をスタートさせましたが、わずか3年でサービスB、Dその他様々な地域資源の創出に成果を上げました。成果を上げるために藤枝市が心掛けたポイントをお伝えします。

未来を見据え支え合うことの 大切さを訴えたら地域が動いた！ ～藤枝市の地域づくりへの挑戦～

いきがい・助け合いサミットin大阪 藤枝市 健康福祉部
ポスターセッション 地域包括ケア推進課

I 概要

藤枝市は、人口144,941人、高齢化率29.4%（H31.4.1現在）、静岡県のほぼ中央に位置する県内第6位の人口規模の都市である。2025年からその先の2050年を見据え、いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けるための地域包括ケアを目指し、支え合いの地域づくりを強力に推進している。推進の方針は、「既存の資源の活用」と「モデルケースの創出」であり、この方針のもと以下の具体的取組を行い成果をあげている。



II 具体的取組

1 地区社会福祉協議会を母体とした第2層協議体による地域づくり
市内すべての地域（10地区）に設置されている地区社会福祉協議会を母体とした第2層協議体を設置。市社会福祉協議会の第2層S・Cが地域づくりを支援し、従来から進めてきた「ふれあいサロン」や「居場所」の開設等地域の交流の場づくりを推進している。



2 第1層S・Cによる課題解決に向けた仕掛け

(1) 総合事業の多様なサービスの創出

既存の居場所や助け合い活動を実践している団体を訪問し、団体の考え方を尊重しつつ、総合事業のサービスへの参入を働きかけた。

(2) 移動支援研究会の立ち上げから移動支援のモデルケース創出

各第2層協議体から上がってきた共通の課題の「高齢者の移動」について、支え合いにより解決するため、藤枝市におけるモデルケースの創出に向けた「移動支援研究会」を立ち上げ、住民と関係団体とともに研究した。



(3) モデル地区指定による地域づくりの推進

「支え合いの地域づくり推進モデル地区」に広幡地区を指定し、地域の支え合いによる「生活支援」「移動支援」「居場所」の創出に取り組んだ。



(4) 週1回以上開催の住民主体の介護予防に資する通いの場の創出

介護予防実態把握事業の結果をもとに、介護予防教室の卒業生への啓発、地域ケア会議の開催による課題意識の共有、支援制度（ふじえだアクティブクラブ）の創設により、週1回以上開催の住民主体の介護予防に資する通いの場づくりを促進した。

III 成果（R1.5月末現在）

1 地区社会福祉協議会と市社会福祉協議会の両輪による資源開発

H29年度当初から「ふれあいサロン」が10カ所（55カ所⇒65カ所）、市社会福祉協議会が把握する「居場所」が5カ所増加（9カ所⇒14カ所）した。

2 サービスB、サービスDの創出

総合事業の訪問Bに3団体、通所Bに2団体、訪問Dに1法人が参入した。

3 移動支援のモデルケース創出

市が住民互助の移動支援を支援する仕組み「地域支え合い出かけっCARサービス支援事業」を創設。2地区が運転ボランティア組織を結成した。



4 モデル地区の成果

わずか1年で広幡地区での助け合い活動、買い物支援、居場所の創出に成功。

5 住民主体の介護予防教室「ふじえだアクティブクラブ」の推進

住民主体の介護予防教室「ふじえだアクティブクラブ」の登録制度とその補助制度を創設。16の介護予防教室が「ふじえだアクティブクラブ」の先駆けとして誕生。



IV 今後の取組

創出した課題解決の取組をモデルとして、第2層S・Cと第1層S・C、地域包括支援センター等が連携し、共通する課題解決に向けた取組の市全域への波及を図る。

福岡県福津市ささえ合い協議体

“できる”×“してほしい”がつながり、助け合い活動が実現しています。協議体が様々な種類の事業所や支援できる人・モノと、支援があればもっといきいきできる人を結び付けて高齢者の活躍の場を広げています。

福岡県福津市 ささえ合い協議体



概要 および 特徴

- ・人口 65,102人（高齢化率 27.8%）H31年3月末時点
- ・H28年12月に第1層協議体を発足し、R元年8月までに35回開催（月1回）
- ・誰でも参加できる第1層協議体（住民、介護事業所、社会福祉法人、イオン、コンビニやUNIQLO等の市内事業所など）
- ・第1層協議体の中で、第2層ごとにグループワークをすることから、第1.5層と呼ぶこともある
- ・参加届提出者は150人を超え、毎回50人程度が参加するため、地域包括支援センターと社会福祉協議会の職員の参加を含めると毎回80人規模の協議体になる
- ・第1層と第2層のすべての生活支援コーディネーターが、元々、協議体の構成員でもある住民（特に、第2層生活支援コーディネーターは第1層協議体の中で手が上がり、設置した）
- ・第1層生活支援コーディネーター2人は、協議体に先駆けてH28年7月に住民主体で設立された居場所と有償ボランティアを組み合わせた拠点「くらしのサポートセンター サンクス」の発起人の一員であり、民生委員もしている住民なので、住民目線に立つことができるだけでなく、住民に対して声が届きやすい

～ささえ合い協議体がきっかけで、 たくさんの助け合い活動が生まれてきました～

サンクスとおたがい様隊

くらしのサポートセンター サンクス

くらしのサポートセンター サンクス →

←草刈りをしている「おたがい様隊」

寄り合いの場・集いの場・お困りごと支援を行うサンクスから派生した、生活支援をする団体「おたがい様隊」が活躍の場を増やしています。

生まれてきた支援の拠点

地元の医師が土地と建物を居場所として提供した「ふれ愛サロン」

←自治会と連携して生活支援を行う「若木台3区サポートの会」

居場所を提供してくれる人や支援活動を行う団体が生まれるなど、色々な支援の拠点ができています。

介護事業所入所者と地域のUNIQLOのコラボで実現した買い物ツアー

協議体で知り合った介護事業所とお店がつながり、施設入所者が実際に手に取って説明を聞きながら、買い物を楽しみ、笑顔になりました。

社会福祉協議会の車を貸し出して外出を支援する事業がスタートしました

協議体で移動手段の問題が明確化し、車と保険の問題を解決する「外出支援活動団体サポート事業」を開始しました。

社会福祉法人がバスと専門職を提供する買い物ツアーが実現できました

デイサービス送迎用バスの空き時間を利用して地域の商業施設に行き、体操と買い物を楽しむ「サロン＆買い物ツアーinイオンモール福津」。

移動販売の拠点が2倍以上に増えました

協議体に移動販売の事業所が参加したことで、買い物支援の手段としての移動販売が認知され、自治会や福祉会が利用するようになりました。

これからは、第2層エリア（日常生活圏域）での活動がより活発になるようにいろいろな仕掛けをしていく予定です

〈問い合わせ〉福岡県福津市健康福祉部高齢者サービス課
TEL:0940-43-8298

様々な助け合いの輪が生まれ、広がっています。

みやま市で今まで取り組んできた高齢者の移動支援や勉強会、買い物支援です。




福岡県みやま市



◆ふれあい・いきいきサロンでの 外出支援、買い物支援事業◆

渡瀬ふれあい・いきいきサロンでは、介護予防と生活支援を観点に「渡瀬ぶらぶら」を計画され、高齢者を対象とした外出行事(健康運動)・買い物ツアーを取り入れ、ボランティアによる移動支援が行われています。




◆社会福祉法人や介護サービス 事業所による移動支援◆

社会福祉法人(本郷福祉会)では、地域貢献の一環として、運行していない時間帯にマイクロバス等の貸し出しを、介護サービス事業所(さくらの杜)では、地域の外出行事の際に送迎支援をいただいています。




◆葬儀社(白雲社)による移動支援◆

地域との関わりを積極的取り組まれている白雲社では、友引の日の中夜を利用して、送迎バス等の提供や運転手の派遣をいただいています。今までに、外出・買い物ツアーのサポートをしていただきました。




◆助け合いのまちづくりフォーラム◆ (住民交流会)

「助け合いのまちづくり」を目指す話し合いの場で、主役は住民のみなさんです。自分たちの地域を知るために、地域の情報(宝)を基に地域資源マップづくりやワークショップなどを行っています。




◆買い物支援について 勉強会が始まりました◆

超高齢化社会の進行と地域の商店や行商が減少等に伴い、住民の日常的な買い物に不自由さを察している高齢者が増えている地域が生じています。そこで、地域で買い物支援について考える機会を設けたという声が上がりました。




◆居場所・通いの場が住民の 身近な場所に出来ています◆

高齢者の介護予防(体操、レクリエーション等)の機会の提供や社会的孤立の防止を推進するため、高齢者を中心とした利用者同士の交流の場などの日中の居場所ができはじめています。




様々な助け合いの輪が生まれ、広がっています。

みやま市地域包括支援センター(みやま市役所本庁舎) ☎0944(64)1516



助けられたり、助けたり「お互いに支え合う仕組みづくり」を目指して～日向市東郷町の取組み～

数少ない社会資源と、貴重な人材を結びつけることで生まれる地域づくり。パワーを最大限に活かす！小さな町には町なりのギュッとまとまる良さがある！ゼロから創るのではなく既存の団体を活かした仕組みづくり。



助けられたり、助けたり

『お互いに支え合う仕組みづくり』を目指して



日向市東郷域の概要
面積(189.73km²)
人口(3,159人)
人口密度(16人/km²)
高齢化率(49.67%)

日向市東郷域の背景

近年、若者の町外への流出、未婚者の増加などにより過疎高齢化が進行している。特に山間部においては、ひとり暮らし世帯や高齢者世帯が孤立状態に陥りやすい状況にある。

【地域ケア会議】課題①高齢者の低栄養や生活習慣病を予防するため、食生活の改善が必要。

生活支援サポーター養成講座開催



東郷病院栄養士による
栄養講話と調理実習



自分の地区で出来る
ことは？

百歳体操と会食を
組み合わせて、高
齢者の孤食を防ぎ
栄養改善を図ろう！



東郷じじばば食堂
『ごはん倶楽部』の誕生！

【食についての協議体】東郷病院看護師、栄養士、地域住民、スーパーやまさ、高齢者あんしん課
【今後の展開】食生活改善推進員や男の料理教室会員の協力を得ながら、活動をひろげていく。

【地域ケア会議】課題②町内で唯一のタクシー会社がなくなった。高齢者の免許証返納を勧めるが、代替がない。



本当のニーズは何か？



事業所と住民ボラン
ティア打合せ

福祉事業所が車両
提供し、住民ボラン
ティアが運転。サロ
ン活動や百歳体操
の移送支援を行う。



移送支援団体
『かんむり会』が走る！

【移送についての協議体】まちづくり協議会、地域住民、スマイルホーム360、牧水園、東郷病院事務局
総合政策課、高齢者あんしん課
【今後の展開】まちづくり協議会との連携を一層強化し、コミュニティバスの可能性について協議を続ける。

【地域ケア会議】課題③地区にあった小売店がなくなり、町の中心部にあるスーパーまでは買物に行けない高齢者が多い。



ニーズや移動販売
ルートについて協議



“24時間テレビ”より
専用車両の贈呈！

地域住民と交流した
いスマイルホームと、
移動販売を望むサロ
ンや百歳体操との願
いが合致した。



サロンや百歳体操での
買物支援『スマイル号』

【買物についての協議体】地域住民、スマイルホーム360(障がい者就労支援事業所)、スーパーやまさ
【今後の展開】地域住民のニーズに応える商品展開を図り、惣菜や肉、魚などの販売にも取り組む。

既存の団体を活かした仕組みづくりからスタートし
“つながる”ことで生まれるパワーで、次の展開へ！

個別支援から地域の力をアップする ソーシャルワーカーの取り組み

氷見市社協では、市内全地区にある地区社協で、住民主体の地域福祉活動が展開されています。設立から約30年の活動を通じ、さまざまな住民の困りごとを地域の課題として捉え、新たな活動へと展開してきました。今回は、住民の活動を市社協のソーシャルワーカーが支援し住民とともに地域の力を高める様子を展示します。

個別支援から 地域の力をアップする ソーシャルワーカーの取り組み

氷見市はこんなところ

人口： 47,180 人
世帯： 17,555 世帯
高齢化率： 37.5 %
年少率： 9.3 %
地区社協： 21 地区
(全地区設置)

●下準備

- ・地域生活課題の整理
→地域福祉計画
- ・地域の選定
→地域アセスメント
シートの活用
- ・リーダーに促す
→実績の評価
地域訪問
アウトリーチ



地域のニーズと
社会資源の可視化
問題提起

●動機づけ

- ・課題の整理(見える化)
→住民アンケート



- ・進行役は地域の人
→事前打合せ



全てを住民任せにせず
専門職や行政の
役割整理

●協議・検討

- ・人材育成と合わせて
→サポーター研修・寸劇
レクリエーション
タイムトラベルボード
等の活用



目指す姿・方針の共有
合意形成



- ・目標の明確化
→生活支援サービス実施

●活動のサポート

- ・新たな気づきの促し
→定期的な振り返り
(お疲れさん会)



- ・地域外への活動周知
→広報、メディア



次の展開に向けた
アセスメント等を行
う

この過程を繰り返し、地域の力がUP!!

集合型支援の開始

ふれあいサロン
《シルバー談話室》
《ふれあいランチ》



ここに来ることが
出来ない人へはど
う支援しようか。

個人支援の開始

ケアネット活動
地域による
見守りや声かけ



Aさんは買い物に、
Bさんはゴミ出し
に困っているって。

生活支援 サービスの開始

外出支援



買物支援



▶ H22～安心生活創造事業

▶ H19～市社協職員のエリア担当チーム制(※)導入

▶ H15～ケアネット活動

▶ S60～地区社協設立

※市社協の各部署の職員を横断的にチーム化し、21地区を4つに分けたエリア単位で支援しています。



支えあうぞ！入間

既存の近隣助け合い活動推進会から始まった支え合い活動組織が各地域に急速に広がっています。生活支援体制整備事業が始まってからはCSWとSCが協働して活動の推進と支援をしています。

支えあうぞ！入間

きっかけは... 平成22年ごろ

電球が切れて、一週間暗い中お風呂にはいってる。誰か替えてくれないかなあ...

近隣助け合い活動推進会

みんな考えてよう！

"ワイワイ！"

"ガヤガヤ"

他にもいるわよね

何かできることないかな

地域の支え合い活動が広がった

お部屋の片づけ

障子張り

できた！！

ささえあい東藤沢

電球交換

庭木の剪定

ささえあい西武

豊一助け合い

ささえあい入間台

ささえあい東藤沢

ささええるブルミエール

武蔵台ささえあいの会

ネットワークでつながる

2層協議体(藤沢地区)

元気になる
ふじさわ未来ネット

埼玉県入間市社会福祉協議会

電話 04-2963-1014

FAX 04-2963-1072

C 助け合い活動の創出

④ 地縁の助け合い・交流

金子中央けやき公園から南峯運動場まで ゆっくり歩く会を立ち上げて見えてきたもの

91歳独居女性の希望をかなえるための活動が、仲間作り、本人へのエンパワメント、助け合い活動に波及したこと。

金子中央けやき公園から南峯運動場まで

ゆっくり歩く会を立ち上げて見えてきたもの

入間市金子地区地域包括支援センター

目的

公民館での運動サークルや長寿会による活動は盛んな地区だが、公民館まで行けない方や長寿会に入っていけない方の運動と居場所づくりにはじめました。

活動内容

平成29年11月から毎週火曜日10時に公園に集まり約1.5キロを歩く、途中のスーパーに寄って分かれるメンバーや公園まで戻るメンバーがいる。
歩く距離は自分に合わせて。
自由参加形式

金子地区の特徴

高齢化率28%
茶畑の広がる茶業の盛んな地域で昔から住んでいる方が多い。
八高線の金子駅がある。
金子駅周辺の地区には昭和40年代に新興住宅地として開発された住宅街も広がり、そこには他県などからも人が集まり現在高齢化率が急速に高くなってきている。

それぞれ、思い思いに・・・

ひとりで歩くには遠かったスーパーまでの道のりがおしゃべりしながらなら歩いて歩きました 女性・93歳

もう、腰は良くならないだろうと思ってました。
けれど、写真を撮りに行くのを続けたいから歩いていたら、良くなりました。
男性・81歳

歯医者への帰り道に知った、歩く会。糖尿もあるし妻も3年前に亡くなって…長寿会に入るにはそんな歳でもないし、この前の花を見に行ったの良かったです
男性・80歳

そして広がる活動・・・



仲間への草取りのことが大変と戻したら・・・
できる人がやってくれると声をかけてくれました!



2018年10月 この方の自宅庭の

草取り!実施(有償)

★この仕事に自信をつけて…高齢者就労につながった高次機能障害の方もいました。

<金子地区生活支援コーディネーターとして>

昔ながらの地区で顔見知りも多いが、新しく何かを始めるには「きっかけ」が必要でした。その「きっかけ」作りのお手伝いをさせていただきました。



「動いています！広川町 ～輝くあなたがその原動力～」

住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくためには何が必要か。「自分たちのこれからのために、自分たちからやってみよう！」とキラキラ輝く町民のみなさんのパワーで、広川町は今、町全体が沸き立っています。

広川町生活支援体制整備事業



自分たちのこれからのために
自分たちで考える
見守り・助け合い・支え合い

地域の『つながり』を考える 町民のための絆（きずな）づくり

「動いています！広川町 ～輝くあなたがその原動力～」

人口減少、少子高齢化、介護人材の不足…。
潜在している広川町独自の生活課題の数々…。
住みなれた広川町でいつまでも自分らしく暮らしていくには何が必要なのでしょうか。
「自分たちからやってみよう！」と既に動き出している町民のみなさんもいらっしゃいます。
その活動報告を交えながら、自分たちのこれからのために何が必要か。是非一緒に考えましょう。

「絆のあるまちづくり」
～地域に根ざした生活支援体制を考える～

☆役場にお問い合わせください！ 町内各居場所・サロンの活動も紹介しています！

主催：広川町 共催：広川町社会福祉協議会 協力：公益財団法人さわやか福祉財団近畿ブロックインストラクター和歌山
問い合わせ先 ⇒ 広川町地域包括支援センター TEL 0737-23-7724

埼玉県所沢市における金山食堂だれでもランチの取り組み

地域のボランティアや民生委員が中心となり、公民館を活用したランチ会を開催しています。特徴的なのは、全員が”役割”を持って参加することです。誰かのために役に立つことが参加者自身の自信になります。



所沢市の概要

- 【人口】34万4千人
- 【高齢化率】26.0%
- 【特色】新宿・池袋まで30分のベッドタウン



航空記念公園



所澤祭り

地域の課題



- ①高層マンションで一人暮らし高齢者の増加（引きこもり、認知症等）
- ②地方からの呼び寄せ高齢者（地域との関係が希薄）

毎年数件の孤立死が発生

新聞がたまっている、戸が開いている
電話が通じない、老人性うつ…



“食”を通じた地域の居場所づくり

金山食堂の概要・様子

- 日時：毎月第4水曜日 10時～14時
- 場所：金山町公民館
- 参加者：来れる人は誰でも
- 参加費：200円
- 決め事：季節の食を楽しもう、役割をもって参加しよう



みんなの中心小林さん



調理法のレクチャー



男性陣はきりたんぼ



座りながら皮むき



受付も参加者で



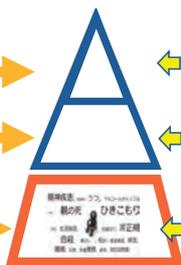
テーブルも参加者で

ターゲット

広報紙による呼びかけ

個別に呼びかけケアマネと調整

環境調整フォロー



いつも参加する人

声掛けて参加する人

全く参加しない人

コーディネーターの役割

- ①ヒアリング（地域活動の核になっている人から情報収集）
- ②準備会（対象者、使用料、核となるスタッフ…）
- ③チームづくり（情報共有・他の支援機関との調整・方向性確認）
- ④イベントの開催（場所利用の連絡調整、各人の役割確認）
- ⑤初動期の活動支援（広報紙作成・参加者への声掛け・費用補助）



倉敷市版の生活支援体制整備事業 ～豪雨ニモマケズ～

生活支援コーディネーターが地域支援に専心できる体制があったことで、発災後直後から被災地に寄り添い、支え合い活動・復興の推進力となっている。災害をきっかけとして市内に支え合いの萌芽が広がっている。

助け合い活動の創出

④ 地縁の助け合い・交流



倉敷市版の生活支援体制整備事業

～豪雨ニモマケズ～



発災

岡山県で戦後最大の災害
「平成30年7月豪雨」発生

住み慣れた地域が一変



○被害状況（平成31年1月4日現在 / 岡山県危機管理課）
死亡者 66名（うち災害関連死 5名）
行方不明 3名

倉敷市の被害の概要

死亡者 55人（うち災害関連死3人）
住宅被害 5,857棟（全壊・半壊・一部損壊）
真備町内の4分の1が被害
最大5メートルの浸水



被災地に集結

生活支援コーディネーターを
被災地の小学校区に一人ずつ配置



住民の声を聞き・これからのことを話し合い、地域に応じた復興の取組を練っていきました。

今だからこそその地域支援



場の復活

被災地発の支え合い

これまでの馴染みの関係と地域愛から生まれた支え合い



■備える（服部）
発災前から、地域住民同士が作成した見守り支え合い台帳を活用し、川の決壊前にひとり暮らしの高齢者の存在に気づき、動き、尊い命を救いました。



■これから会議（呉妹）
発災2週間後、地域住民が集まり、これらに向けた作戦会議を開催。住民同窓会や被災状況の訪問調査等話し合いのなかから多くの寄り添い支援が広がっています。



■帰りを待つ場所（蘭）
川の決壊場所のすぐ近くで奇跡的に残った公民館を活用して、住民のなじみの場所づくりを行っています。地元住民と支援団体との連携で発災前よりも人が多く集う場所となっています。

つながりが備えに

多くを奪った災害
支え合いのきっかけを得た倉敷

「場」から広がる「支え合い」

■談話室BAR（二万）
談話室にいつも集まる女性のアイデアで実現した男性も楽しめるバー。仮設団地だけでなく、地元住民の居場所に拡大中。



■お買い物ツアー（柳井原）
週に1回仮設団地のとりの介護施設の協力で買い物ツアーを開催しています。買い物だけでなく、通院や花見などみんなで話し合っ て行き先を決めています。



被災地発支え合い活動事例集「豪雨ニモマケズ」発行



暮らし輝

災害にも地域課題にも
負けない支え合いの地域へ

暮らしに「き」がつく「くらしき」



地域の手による 『笑顔の食材市』

近い将来、自分達も買い物困難になる。その難問への危機感が、子どもの見守りだけでなく高齢者の閉じこもり予防や買い物補助の取組に大きく進化した。地域の多業種や担い手がそれぞれの存在価値をここに終結させた形「笑顔の食材市」

千代田地区
見守り隊
「買い物困難」という超難問が
見守り隊を **メガ進化** させた。



会場の設営や
修繕、区内放送、
商品持ち帰りの補助ま
で担う

自分の足で行ける場所、自分で見て選ぶ楽しみ

笑顔の食材市

—— 役割があるから、居場所になる。



地元紙も注目！

地元農産物
地元商店の品物

農商業

買い物困難の解消

農業活性化、雇用の創出

44.6%

高台の団地
市内随一の高齢化率

近助力

千代田地区見守り隊

地域での役割

登下校の見守りに加え、
高齢者の見守り/声かけ

閉じこもり予防
変化の早期発見

就労継続支援B型事業所
もくせい苑

障がいがあっても
地域の担い手となる

“働く”場所の魅力が認知
人との交流で育む社会性



安全・安心見守り隊

第2層協議体の話し合いの中から生まれた「見守り隊」です。高齢者の役割作りと顔の見える関係作りが同時にできました。多くの効果がみられています。

鹿児島県奄美市 取組事例

安全・安心見守り隊

～つらべから うच्चゅマデ マージンマ～



鹿児島県奄美市の上方(かみほう)地区では、老人クラブなどで地域の「見守り隊」を結成し、下校時の子どもたちの見守りを行うことで、不審者の声かけや交通事故を防ぎ、地域の安全・安心づくりに貢献しています。

この見守り隊の取組で、安全運転を心がける方が増えたり、子どもたちと高齢者の会話がぐえ、親しみのある関係づくりができるなど、地域全体にさまざまなプラスの効果が現れています。

見守り隊結成までの道のり

【協議体の話し合いで課題が出る】

- 不審者による事案の増加
- 下校時の見守り不在(保護者が働いているため)

【地域へ呼びかけ】

「老人クラブやその他の地域住民を中心に、『見守り隊』を結成してもらい、子どもたちを地域で見守ろう!」

【取組スタート!】

- 曜日を決めて帰宅時の見守り開始。
- 県・市の補助で腕章とベストを購入し、各地区に配布して活動意欲を向上。

見守り隊の主な効果

- 高齢者の役割づくりになり、地域に出るきっかけとなっている。
- 見守り隊が立っていることで、通行車両もスピードを落としたり、すぐに一時停止してくれるなど、より安全に配慮してくれるようになった。
- 子どもたちが元気にあいさつをしてくれることで、高齢者との顔の見える関係づくりができた。
- 地区の不審者事案が減った。など

でい、あまくま
見てから渡らんば

ちゃんと
見てるっちは



【鹿児島県奄美市】人口約4万3千人。美しい海と豊かな動植物を有する、世界自然遺産登録候補地のひとつです。奄美市は、島ならではの絆を基盤に、「わらべ(子ども)から うच्चゅ(高齢者)まで まーじんま(いっしょに) 小さな手助けをしあいながら つながりあう地域」を目指しています。

身近な地域の支えあい活動～かんだサポート会～

かんだサポート会は、住民の支え合いの絆でより住みやすい、住んでよかったと思えるまちにしたいという思いを込めて企画されました。「できることを できる人が できる時に」をコンセプトに活動されています。

【日常生活支え合い促進事業】 **かんだサポート会** **身近な地域の助け合い活動**

①活動のきっかけ

滋賀県長浜市の神田地区は、人口約1200人のまちで長浜市の南部に位置しています。神田地区は、若者が就職等で家を出る傾向にあり、ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯が年々増加しています。少子高齢化が進むなか、自治会役員をはじめ、まちづくり協議会の役員等ほとんどが1年交代のため、地域福祉活動に関心が薄いままでいけない、“地域の埋もれた人材の発掘”と“助けあい支えあいの輪の広がり”が必要だと考え、平成24年4月にかんだサポート会が発足しました。



②立ち上げにあたって

住んでいてよかったと思えるまちを目指すには“地域福祉の原点は、まず住民の思いを知ることから”と考え、全戸に住民アンケートを実施しました。

どんなことで生活上不便を感じておられますか。また援助してほしいことはどんなことですか。困った状態は不便を感じていないが、将来不便に感じそうなこと、援助をほしい事があれば下記のなかから選んでください。	
1. 成人、特に高齢者の外出支援	2. 外出時の子どもや高齢者の見守り、監視
3. 子育ての悩み相談	4. 幼稚園・学校への送迎支援
5. 何かあるときの車の貸し出し	6. 引っ越しの手伝い
7. 買い物	8. 家の物の整理(ゴミ出し)
9. 家の手直し	10. 買い物の手伝い
11. 家を空けるときの留守番	12. 押し売り等の回避
13. 家事づくりの相談	14. 市役所等へ提出する書類の代筆
15. 音が不自由なので相互転等の説明	16. 家の見回り
17. 不用品の処分や大型ゴミ出し	18. 話し相手
19. 家の電球取り替え	20. 犬の散歩代行
21. その他考えられることを自由にお書きください。	

してほしいこと

できること

サポートできる内容について、下記の中から選んで番号に○をつけてください。あくまで「都合の良い時に限り」という前提でOKですのでお答えください。

1. 宅内、宅周辺の掃除	2. 洗濯の手伝い
3. 炊事の手伝い	4. 皿の手入れ
5. 車検	6. 荷物の整理
7. 宅内外の簡単な修理	8. 買い物の付き添い補助
9. 買い物代行	10. 各種手続き等手伝い、代行
11. その他所用代行	12. 病院付き添い
13. 子守り	14. 子どもの短時間預り
15. スクールガード(登下校見守り)	16. 防犯隊活動への参加
17. 公民館等での行事の手伝い	
18. 各種イベント出場(手話、演説、演劇、お話し、結芝居、おわ、コーラス、大道芸、演奏等)	
19. 子どもの指導(子どもと共に、遊び、工作、ゲーム、ボランティア活動等)	

具体的には 竹細工、木工、わら細工、紙飛行機、料理、裁縫、生け花、習字、絵画、スポーツ、手品、楽器演奏、その他遊びいろいろ

20. 話し相手	21. パソコン指導
22. 絵画指導	23. 写真指導
24. 工作指導	
25. その他、こんなことが出来るということについて、具体的にお書きください。	

協力申出者は当初86名、“できることを”“できる人が”“できる時に”をコンセプトに、登録者意見交換会を開催し、取り組みに対する体制づくりを協議していきました。

③かんだサポート会の取り組み

まち協支援、家事支援、庭木の手入れ、修理修繕、買い物・外出支援、手続き代行、子育て支援、趣味指導など、気楽に雰囲気の中、長く活動を続ける形で身近な地域の助けあいを行っています。



④課題と展望

立ち上げ当初、してほしい声はたくさんあったが実際にはサポート会への依頼は少なく、そこで、サロンに出向いて要望の聞き取りやお買い物ツアーを毎月実施することで、利用者との関係を深めました。その結果、依頼件数は年々増加しています。

サポート会の活動をとおして、活動者の仲間づくりや生きがいの創出、利用者には外出支援の個別支援等、身近な地域の助けあいの輪を広めていきたいと思っています。

【お問合せ】 社会福祉法人 長浜市社会福祉協議会 地域福祉課
滋賀県長浜市八幡東町441-6 ☎0749 (62) 1804



生野区における「地域のお宝発表会」

地域には、つながりの源となる「お宝」のような場がたくさんある。そこに光を当てて、介護保険サービスやご近所のとつながりと組みあわせた地域づくりを進めたいと生野区の協議体で開催。



生野区社協キャラクター
はーとちゃん

地域の「お宝」を見つけよう

～支え合い活動講演会&お宝発表会～

大阪市生野区社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 福田千裕



生野区社協キャラクター
はーとちゃん

目的

ご近所づきあいが希薄だと思われがちな大都市である大阪市で、ご近所同士のつながりが本当はないのか？をテーマに、ナチュラルコミュニティサロンの発掘をおこなった。

地域には、つながりの源となる「お宝」のような場がたくさんある！

方法

住民同士の支え合い活動は、自然におこなわれている。住民自身も気づきにくい当たり前の助け合いを地域と一緒に再評価したい。そんな思いから生野区の協議体で地域の5つの「お宝」の取材をおこなった。講師に【ご近所福祉クリエーター】の酒井保さんを迎えて開催。

発表された5つの「お宝」	①異西第四振興町会（異地域）	週1回、メンバーがそれぞれ役割を持ちながら、おしゃべりを楽しみ、その後は百歳体操を実施している。
	②たつみおでかけ支援の会（異地域）	異地域の有志のボランティアが、自家用車を使って同じ地域に暮らす方のおでかけ支援をおこなっている。
	③北鶴橋サロンあすなろ（北鶴橋地域）	月2回集まり、ボランティアさん手作り食事、ゲーム、体操などを楽しむ。立上げから25年経過。
	④90歳以上限定お話し広場（勝山地域）	「昔の話をしよう！」をキャッチフレーズに月1回開催。現在最高高齢の参加者は101歳。
	⑤洋装店きくち（東中川地域）	92歳の店主・菊池さんのもとに、近所の人が世話話や相談にやってくる。自然発生的なサロンのような場。



①異西第四振興町会



②たつみおでかけ支援の会



③サロンあすなろ

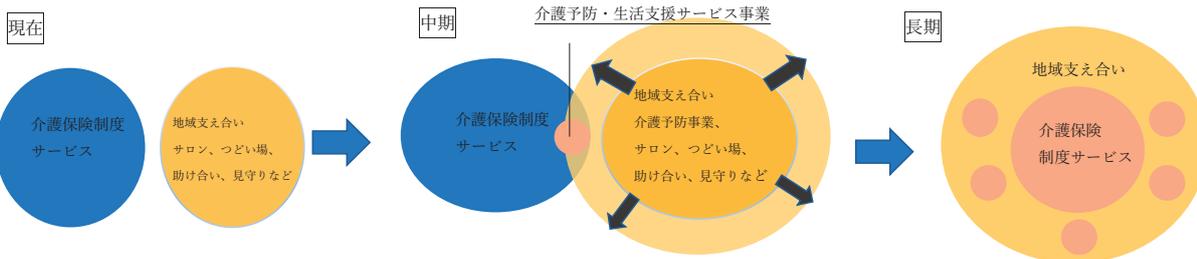


④90歳以上限定お話し広場



⑤洋装店きくち

将来目指す 介護予防・生活支援サービス事業等とサロン・つどいの場の関係※



考察：ナチュラルコミュニティサロンの再評価の場を継続し、住民が地域にある暮らしの課題や次の活動を支援する展開をサポートする地域づくりが大切。地域支え合いの中に介護保険制度サービスがあるつどいの場の関係を目指す。

※参考文献：「被災地発！多様なサロン・つどいの場の可能性」特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター

④ 助け合い活動の創出

④ 地縁の助け合い・交流

郡山市久留米地区地域支援活動

住民一人ひとりが地域に目をむけ「できることをあたりまえに」「支えあいつながり合う」を大切にし、子どもから高齢者までが福祉の手を取り合い、自然と毎日笑顔が広がる久留米地区の多様な活動をぜひご覧ください。

郡山市久留米地区 地域支援活動

世代を結ぶ多彩な活動・心育む見守り活動

居場所



みんな一緒に集まっぺ
笑って見守られ

さすけね



徘徊かい？地域の目が見てれば散歩だぞい

つなぐ



支えあいマップあの人
この人ズームイン

安心



ハイタッチ子ども
見守る地域のこころ

気持ちは優しく、行動はさりげなく
当たり前で続ける地域が久留米です！



八田ふれあいの会が動き出すまでの経緯

進んでは壁にぶつかり、試行錯誤しながら現在に至る過程を皆さんに知ってもらい、今まさに壁にぶち当たっている方たちの参考になれば嬉しいです。

①

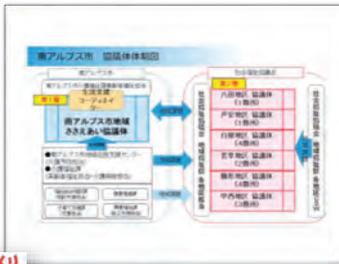
ふくし小委員会（平成26年1月～平成27年4月）
南アルプス市社会福祉協議会の呼びかけで、モデル地区として「ふくし小委員会」が発足。この委員会は、地域課題を地域住民・団体の力で解決するための場として誕生。発足当時のメンバーは自治会、民生委員、高齢者関係、子育て関係、ボランティア関係の15名で構成されました。行く行くは「ふくし井戸端会議」として、市内の旧町村単位で構成し、地域組織の代表の方々が、地域の方だけでは解決し難い課題を検討提言をし、市や社協へ提案をしていくことを目的としました。今の協議体そのものです。



②

八田ふれあいプロジェクト（平成27年5月～現在）
ふくし小委員会が始まって間もなく、山梨県内は記録的な大雪となり、「災害」に直面。委員会での話題は、「災害」「防災」が中心となりました。「もしも」の時に支えあえる仕組みづくりを話し合ううちに、机上の議論ばかりでなく八田地区のみなさんにも一緒に考えて頂ける目に見える活動をしていくこととなりました。
平成27年5月、もしもの時の「地域支えあいの仕組みづくり」として、『組内世帯（家族）カード』の作成を開始。その節、ふくし小委員会では堅苦しいと感じ、やわらかな感じを出すために「八田ふれあいプロジェクト」として、第一歩を踏み出しました。ちなみに八田ふれあいプロジェクトは、みんなが代表、みんなが庶務係の関係で自由にモノが言える集まりにするため、代表者などの組織はあえて作りませんでした。助成事業などの関係で今後対外的に必要となることを考え、のちに代表者を置くことになりました。ふれあいプロジェクトの初事業でもある世帯（家族）カードは、八田地区自治会加盟世帯約1670世帯、組数99組のみなさんに参加していただき、毎年更新を行っています。

③ **八田地区ネットワークづくりを考える会（平成28年8月～平成30年3月）**
南アルプス市地域支えあい協議体の説明会が平成28年8月に開催、八田ふれあいプロジェクトのメンバーも参加しました。



市内小学校圏域15か所第2層の協議体が設置されることになり、八田ふれあいプロジェクトで目指してきた「ゆるやかな見守りや支えあいのネットワークが出来たらいいね」と協議体の目指すものが同じであることから、八田ふれあいプロジェクトが第2層協議体の核となって活動を進めることとなりました。呼び名は「八田地区第2層協議体」より「支えあいのネットワークづくりを考える会」としたほうが分かりやすいと判断しました。

④ **八田ふれあいの会（平成30年4月～現在）**

ふくし小委員会から始まった会の名称や活動がいろいろあったため、参加者が戸惑うことも多くなり、ご意見から名称と活動の住み分けを統一しました。第2層の協議体は「八田ふれあいの会」と名称を変更し、第3層の自治会単位には「〇〇ふれあいの会」としました。
*八田ふれあいプロジェクトは独自の活動をしながら八田ふれあいの会をバックアップする団体として同じ目的をもって継続中。



協議体を理解してもらうには？
住民への説明は難しい...

じゃあ、寸劇でやってみよう



各方面で大評判



『ちょっとした気づき』
そこに気づくことが始まりです

出来る人が 出来ることを 出来るだけ

活動や進み方はそれぞれ
焦らずゆっくりゆっくり

助け合い活動の創出

④ 地域縁の助け合い・交流

ハロウィンで世代が地域がつながった！

生活支援Cが地域の架け橋となり、世代をつなぐ交流イベントを実施。その結果、世代を超えたつながりに加え、地域に主体性が生まれた！世代間の交流や、支え合いの地域づくりの参考にどうぞ！（^▽^）ノ

子ども・親世代・高齢者が互いに見守り・支えあえる地域づくり

ハロウィンで世代が地域がつながった！

マップ作成中

あれ、ここの辺りだけ「つながり」がないね？

コーディネーターが地域の架け橋に

生活支援コーディネーターが地域サロン等を訪問し、小地域に**助け合い・支え合いの仕組み**を広げるためのプログラムを展開し、①さわやか福祉財団製作の**助け合い体験ゲーム**②住民歴書③**つながりマップ**作りと展開していた所、参加者から「**つながりが少ない場所があるわねえ**」というつぶやきが。その何気ないつぶやきを**コーディネーターがすかさずキャッチ！**そこからサロン、民生委員、子ども会を巻き込んだ、**地域多世代交流イベント**に発展していった！

若い人ともつながれば、地域が1つになるね・・・

じゃあ、こんなイベントやってみます？

面白そう！子ども会にも声をかけてみます！

仕掛け人

生活支援
コーディネーター

当日の様子

笑顔いっぱい♪

トリックor
トリート

長生きして本当に良かったわ♪

★ハロウィンイベント3つの効果

- 地域の子どもが育つ効果！**
 - ・高齢者とのふれあいを通して、**思いやりや、やさしさを育む。**
 - ・地域に独居高齢者や高齢者のみ世帯が居住していることを知り、高齢化や孤立など、**地域の課題**を子ども目線で感じ、考えることが出来る。
- 高齢者の見守り&生きがい効果！**
 - ・社会的に孤立しがちな高齢者の**見守り、安否確認**になる。
 - ・子どもが訪問することで身だしなみに気を使うなど、生活にメリハリがつく。また子供との交流で気持ちが癒される。
- 地域の主体性が育つ効果！**
 - ・民生委員、子ども会、地域のサロンなど**複数の住民・団体**が協力し**地域の活性化**となる。
 - ・来年は自治会も巻き込んで・・・と**地域が自ら動き出した！**

奈良：葛城市社会福祉協議会

地元屋号学習と子どもによるゆいまーる家庭訪問 (ハロウィン編)

老人会活動が休止中の地域で、積極的に沖縄の屋号文化の継承を通して子ども会が関わっています。屋号と高齢者を覚え、双方が思いを寄せるハロウィンを軸に交流促進効果や地域資源開発意欲に繋がっています

C 助け合い活動の創出

④ 地縁の助け合い・交流



沖縄県恩納村・太田区自治会

ヤンナー
屋号

とは…



明治以前の沖縄では苗字ではなく屋号で家を表すことが一般的でした。同じ名前の多い沖縄では個人を指定する場合、苗字では役に立たないこともあり、その不便さをカバーするために屋号が使われています。現在でも新聞の訃報(お悔み)欄や墓前にも記載されることもあります。

屋号は単に苗字からだけで付けられるのではなく、その家の位置や方位、戸主の職業、本家か分家か、あるいは兄弟の中の何番目であるのかなどの様々な事柄に因ってつけられており、かなりユニークで珍しいものもあります。

沖縄県の高齢者は、27年間の米軍統治下(アメリカ世)の影響を受け戦後の大きな変化を乗り越えて地域生活を営んできました。

そんな「**チャンプルー文化**」の中で…

子ども会会長のある提案がきっかけでした…

地域のオジオバアを巻き込んで子ども達に伝統的な風習(屋号を学んでもらい、そこで生活している高齢者の見守りができるような行事を活用して世代交流の機会を作ろう!

ハロウィン交流
実施までの流れ



高齢者宅事前訪問
協力可能か確認
各児童へ仮装依頼
(役員側)

(前日)
協力者宅にランタン
設置とお菓子を配布

(当日)子ども達に
屋号巡回ルート説明
高齢者所在確認

役員手作りの屋号マップを配布



子ども会総勢70名で出発



Trick or Treat
お菓子ください!

オジも変身
してみましたよ!

どの家の
孫かね〜!

イベント効果と
地域の変化

登下校時に互いに
笑顔で挨拶を交わ
すことが増えた

子どもから企画提案
し、積極的に高齢者
を招待する交流が
増えた

独居高齢者宅へも
子育て世代の方々
が生活支援に協力
するようになった

移動支援が必要な
方を対象に公民館
側で「買い物支援バ
ス」を定期運航する
ようになった

これも
美味しいよ!

今年も可愛い
子達が来たねっ

僕もある?

ありがとうございます!

笑

子どもと高齢者の交流や助け合い

もちつき大会後、3世代WSを実施。世代ごとの想いを、声を形にした取り組みが「おろしかの里」。高齢者と子どものふれあい処であり、参加者声から生協コーナーを設けることで、買い物のニーズ解消にもつながっている。



子どもと高齢者の交流や助け合い

対馬市第2層SC 堀江百里

○豊玉地区ふれあい学習推進委員会 主催○

①もちつき大会
②乙宮未来サミット

★ 世代ごとの想いを共有

☆子ども : 高齢者にしてもらいたいこと
高齢者にしてあげれること

☆保護者 : 子育てで困っていること
手助けしてほしいこと
子どもの為、高齢者のために今できる活動

☆高齢者 : こどものためにできる活動
未来の地区のために作っておくべき仕組み

子ども
肩もみ・肩たたき
元気な挨拶

☆保護者
伝統行事の復活・子供の
見守り・パトロール

高齢者
登下校時に見守り
子供の面倒を…

♡ 想いのマッチング ♡

★保護者→休日や祭日に子どもを預かってくれる場所があれば…

★高齢者→子どもの面倒を見てあげるよ!

まさに《助け合い》の形

おろしかの里
12月
カラオケ大会

おろしかの里 開設!

【おろしか】の由来は、千尋藻地区に面した湾の名称

☆高齢者と子供のふれあい処☆

- ・高齢者と子どもと一緒にふれあい、楽しい時間を過ごす場所!!

☆子どもの一時預かり処☆

- ・子どもの面倒を見てもらう場所!!

☆季節に応じた活動☆

- ・会食・スクエアステップ・レクリエーション
- ・骨盤体操・うどん作り体験
- ・いもの苗植え・いも掘り(焼いも・豚汁)
- ・生協の商品販売 (野菜販売もOK!)
- (買い物に行けない高齢者の要望!)

☆郷土料理作り☆ (約60人のお客様をお迎え!)

- ・長崎県グリーン・フルーツツーリズム推進協議会の通常総会が対馬で開催され、
- ・「おろしかの里」で対馬の郷土料理のおもてなし!!
- ・参加者と一緒に郷土料理作りも体験!!







☆おろしかの里の活動運営費について☆

- ・参加費 一回につき ¥100~¥200
- ・赤い羽根共同募金助成事業サロン活動助成金利用!
- (1回につき2,000円を助成する。ただし、24,000円を上限する。)





札幌市東区における助け合い活動の概要

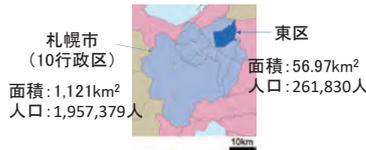
「地域食堂きらりの」は子供と高齢者の多世代交流を通じて、風物の伝習、子供の健全育成や互助意識の醸成等、共生社会の実現を目指している。企画運営は地域の大学・企業・行政推進員・ボランティア等で行っている。

札幌市東区における助け合い活動の概要

～ 支え合う街づくりを目指す多世代交流の拠点「地域食堂きらりの」～

札幌市 基礎情報

札幌市は、北海道全体の人口の約3割を占める人口190万人の大都市です。高齢化率は26.9%となっています。

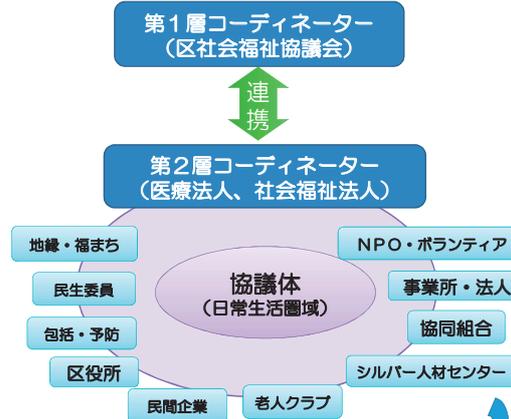


札幌市、東区、および札幌地区(きらりの所在地)の人口構成

	札幌市	東区	札幌地区
年少人口率 (0～14歳)	11.3 %	11.8 %	16.4 %
生産年齢人口率 (15～64歳)	61.8 %	62.7 %	58.3 %
高齢化率 (65歳以上)	26.9 %	25.6 %	25.3 %

札幌地区は、東区平均より高齢化率が-0.3ポイント、年少人口率が+4.6ポイントの「若い」地域。

生活支援体制整備事業の実施体制



「地域食堂きらりの」の概要

子ども、保護者、高齢者、障がい者、外国人、誰でも来ることが出来る「居場所」作りと季節の行事や食事、農場収穫体験を通して、「食育」と「文化の継承」を実践する「多世代交流」を目的に平成29年8月にオープン。地域の医療法人(豊生会)が実施主体となり、NPO(ニルスの会)が運営。月1回土曜日に開催。



- 協議体メンバー
- 学生ボランティア
- 食生活改善推進員
- 地元企業
- 園芸療法士等の専門家他

地域包括ケアシステムの一翼を担う



平成30年12月22日 第16回
テーマ:餅つき
もち米を蒸し、臼と杵で餅をつく、子どもたちには貴重な体験。



平成31年2月16日 第18回
テーマ:味噌づくり体験
農園で収穫した大豆を使って、味噌の仕込み作業を体験。区内にある企業とのコラボ企画。秋には出来上がった味噌で、味噌尽くし料理を堪能。



平成31年4月27日 第20回
テーマ:端午の節句
区内にある大学生と一緒に鯉のぼりの壁飾りを制作。食堂は学生たちのフィールドスタディの貴重な場になっている。



令和元年5月25日 第21回
テーマ:かかし作り
参加者全員でのかかし作りと、東警察署による交通安全ミニ講話。敷地内農園の豊作と交通安全を祈願

今後に向けて(生活支援コーディネーターとして)

利用者・運営者・支援者間には回を重ねるごとに「顔見知りの関係」が構築されてきているが、子どもから高齢者の多世代交流にとどまっている感があり、今後は障がい者等さらに広く参加を促し、誰もが集い楽しめる共生社会の象徴的活動となるよう、生活支援コーディネーターとして支援していきたい。また、築き上げた関係性から、高齢者の役割作りや次の担い手の育成、お互いさまの支え合いへと発展するようブラッシュアップに努めていく。特に運営側の支援者確保が重要であり、現在協力いただいている大学ボランティアとの関係を土台に、若い方々の参加を促し、交流の輪を拡大していく。

高齢者の
役割作り

介護予防

健康寿命の
延伸

④ 地縁の助け合い・交流

④ 地縁の助け合い・交流

いいんでないかい？ 上砂川町

端から端まで歩いて行ける…そんな小さな町ならではの生活支援が、ようやく芽吹き始めています。温かく見守って頂けると幸いです。

北海道 空知郡 上砂川町

いいんでないかい？

(2017年7月～)
ケアサポーター養成講座

- ・誰でも気軽に参加できる
- ・誰にも何も強要されない
- ・楽しく、ためになる

縦割り制度？ 関係ねえ みんなで一緒にやるべ！

そんな講座を目指して、行政と社会福祉協議会が手を取り合いながら企画・実施しています。受講者は町内全域で「できることを、できる分だけ」活躍しています。

(2017年10月～)
生活支援交流サロン よってけ場

こんな相談がありました！

よっしゃ！ やったる！

手伝って欲しい！

保育園

(2018年7月～)
認定こども園ふたば合同
保育支援
いっしょにあそぼ！

これからは多世代の交流が必要よねー

私がしゃべれば SCが走る！

右記の活動以外にも、ここでの何気ない会話から新しい挑戦がたくさん生まれています。

第2層協議体のような役割を果たしつつあり、SCにとってかけがえのない存在です。

(2018年5月～)
中学校・商工会議所青年部合同
多世代交流事業
上砂川町クリーン作戦

～文責・お問合せ～
上砂川町社会福祉協議会
生活支援コーディネーター
飯酒盃 琢一
0125-62-2882
k-syakyo@agate.plala.or.jp

C 助け合い活動の創出

④ 地縁の助け合い・交流



LINE @はじめました

LINE @を使って介護保険対象外の方のいこいの空間

“たのしみ広場”や“とどろきカフェ”の開催案内や写真での活動報告を発信しています！

LINE@

★誰でも手軽に使える！

★スピーディーな情報共有！

はじめました！



▲夏祭り 伽の里・交流スペース



▲カフェの様子

あいらぶ
東条
-TOJO-あいらぶ東条の
ロゴは地元中学生の
デザインだよ！

あいらぶ東条

LINE@を使って、介護保険対象外の方の
いこいの空間“たのしみ広場”や“とどろきカフェ”の
開催案内や、写真での活動報告を発信しています！



トーク



おすすめ



ホーム

- ・人口 40,118人
- ・世帯数 16,728世帯
- ・高齢化率 26.3%

兵庫県 加東市



加東市生活支援体制整備事業

3圏域

滝野地域・杜地域・東条地域

福祉基金の取り崩しによる地域福祉団体への人的支援

基金運用の果実助成でなく、原資取り崩し金により地域福祉団体へ、①助成金獲得方法 ②PR 広報活動 ③個別相談等の出張アドバイスの人的支援資金の拠出事業など

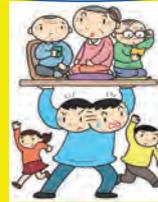
待ったなし! 基金を使って今やらねば。

8050 問題



**肩上げ型 ⇒ 騎馬戦型
⇒ 肩車型
⇒ 肩車の逆転現象
(高齢者の年金で若者を支える)**

2025 年問題



**高齢者介護
⇒ 老老介護
⇒ 認認介護**

「地域福祉基金」 → **基金取り崩しで
3年間の集中的資金投入**

居場所助成 (300 万円)

+ 新規 (追加) メニュー 3年の試行実施

追加助成金額 200 万円 (総合計 500 万円)

○ **地域福祉活動
相談専門員
(NPO 等団体委託)**

派遣

○ **地域福祉活動
コーディネーター
(個人への委託)**

神戸市灘区社会福祉協議会

商助でつながるお互いさまのまちづくり

地域独自の社会資源を活用するため、商助と銘打ち、官民連携を推進。地域福祉活動とも連携し、商助を核とした地域全体でのささえあいの推進をめざしています。

滋賀県 近江八幡市 長寿福祉課

商助でつながるお互いさまのまちづくり

目的：高齢者の生活支援のしくみづくりと地域の活性化

背景：2025年に高齢化率が28%に達する見込み。地域の組織運営の限界。

あらゆる地域活力の参画の必要性

- 在宅生活を支えるための生活支援サービスの充実
…高齢者の自立促進を目的としたサービス展開
- 商売を通じた地域貢献（世間よし）
…近江商人の三方よしの精神による地域コミュニティの活性化
- 新たな活躍の場の創出と担い手の掘り起こし
…健康長寿につながる活躍の場の創出による担い手の掘り起こし

三方「よし」
の三つのチェ
ック（し）



商助とは

近江商人の三方よし「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の精神に則り、企業や事業者が地域への貢献に努力し、商いが地域を助け、地域が商いを助けるしくみを、高齢者の生活の支援体制の整備に活かしていくしくみづくりを進めるものです。

高齢者にしてあげるサービスではなく、高齢者や地域が本来持っている能力を引き出し、湧き出させる（エンパワーメント）中で、今ある資源を活かしながら互いに参加し、活用しあうことが多様な可能性へとつながります。

民間事業者も社会資源として互助の中に商助を位置づけ

商助推進会議

- ①近江八幡市ささえあい商助推進事業者登録制度の創設
- ②地域と事業所が連携する生活支援システムの構築

地域住民と事業者への相乗効果

地域住民への効果

- 生活支援サービスの充実により、生活課題を抱えた高齢者の在宅生活の継続が可能に
- 高齢者の社会参加と活躍の場の創出による生活の質の向上
- 地域コミュニティの活性化
- 住民力・地域力の強化

事業者への効果

- 拡大する高齢者市場への対応による事業の継続性の確保
- 事業者の人材不足の解消
- 地域や事業所間の連携による商売の活性化
- 事業者のイメージアップ

近江八幡市ささえあい商助推進事業者

暮らしの困り事に対応する電器店

休憩場所の設置と商品配達サービスのある薬局

20事業者が登録



ドラッグストアの無償地域交流スペース

コンビニエンスストアの商品配達

島学区まち協の買い物支援事業

スーパーの注文商品をコミュニティセンターで受け取ることで、買い物支援、閉じこもり予防と自立支援、交流の機会に



交流や社会参加の機会の提供



介護予防と生活支援を「一体的に提供する」取組

「幸せます健康くらぶ」は、介護予防教室と買物（移動）支援を地域と企業等が協働し、一体的に提供するサービス。「ビュッフェ付き介護予防教室」は、介護予防教室がフードバンクとコラボレート。

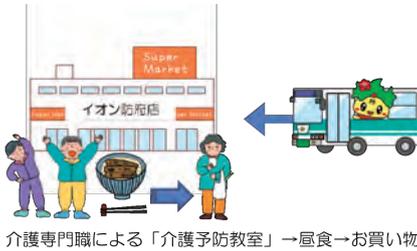
防府市の



介護予防と生活支援を「一体的に提供する」取組み

● 幸せます健康くらぶ

厚生労働省「これからの地域づくり戦略」掲載
第7回「健康寿命をのばそう！アワード」受賞



介護専門職による「介護予防教室」→昼食→お買い物



・地域だけのサービスは大変。事業所だけならコストがかかる。それなら**協働**すればいい。

・行政のやりたいことと、地域のやりたいことを一緒にやれば、話は早い。

・地域ケア会議でニーズを共有し、**具体的な目標**を達成するためのチーム「協議体」が立ち上げた。

・**テスト**を重ね、内容が決まってから要綱作成、予算確保。

- 通所サービスAで、介護事業所にサービスを
- 通所サービスBで、地域団体に活動費を
- 訪問サービスDで、社福法人に燃料費を
- イオン防府店は、会場を無償提供

- 委託
- 補助
- 補助
- 無償

要支援・事業対象者は、500円で利用。（食費別・保険料込）
元気高齢者は、見守りや会場準備を条件に500円で参加可能。

フードバンクとコラボ

● ビュッフェ昼食付き介護予防教室



様々な地域から高齢者が集まる介護予防教室の目玉は、フードバンクが提供する、その日に作ったお惣菜のビュッフェ昼食。

毎週1回開催で、利用料は昼食込で100円！

100円は、温かい汁物を準備して

くれる児童養護施設への謝礼！

フードバンクに食べ物を取りに行くのは、ボランティアドライバー。

今後、児童養護施設の子供たちとの交流も検討。

通所Bとして活動を補助しています。

同様の教室がもう1か所あり。

これが防府市のトレンドです！

- ①児童養護施設に介護予防教室の会場を貸してほしいと頼みました。
- ②フードバンクが余った惣菜を活用する方法がないか、児童養護施設に助言を求めました。
- ③できました！

お問い合わせ

山口県防府市高齢福祉課（担当：中村）

TEL: 0835-25-2527



いわで支えあい協議体取り組み「いわで交流マップ」

第1層協議体の第1歩の取り組みとして、高齢者の方々に地域にある「交流の場」を知ってもらおうと、みんなで何度も話し合いながら「いわで交流マップ」を完成させ、それぞれの基盤で地域への発信を進めています。

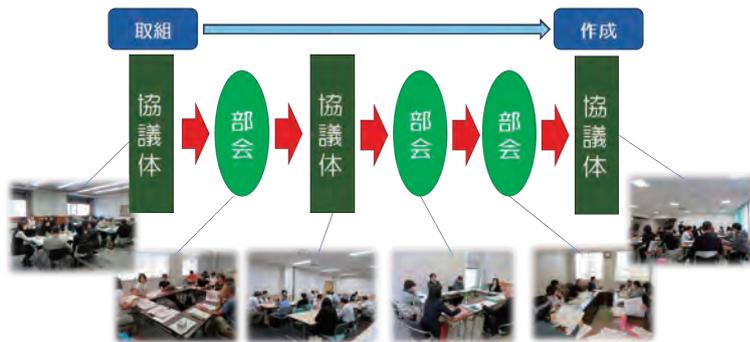
① 助け合い活動の創出

⑤ 特別な切り口

和歌山県岩出市
第1層
いわで支えあい協議体
取り組み
『いわで交流マップ』



いわで交流マップ作成の背景



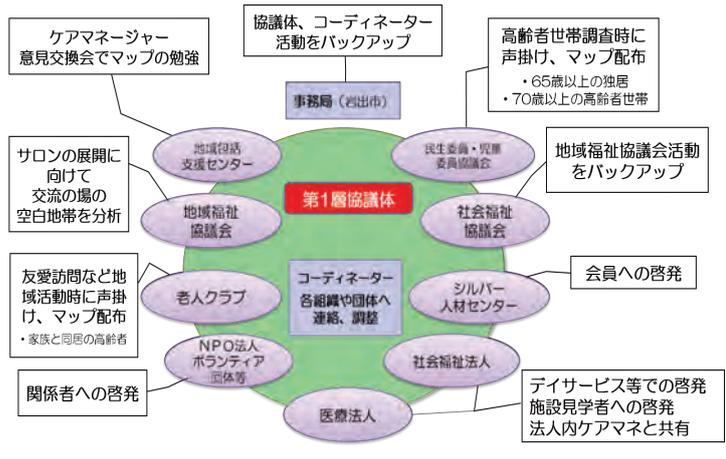
意見交換から1年9か月。
効率的に、情報共有を大切に
みんなで話し合いながら
進めてきました。



冊子版マップ WEB版マップ

どう地域に発信していくか。
いわで支えあい協議体
それぞれの基盤で、協力して
進めていきます。

「いわで支えあい協議体」事務局
和歌山県岩出市
生活福祉部 地域福祉課
TEL 0736-62-2141



地域密着型事業所・地域包括支援センターが連携！ 私たちは校区を守る「津福守るっ隊」

地域に根付いたネットワークを立ち上げました。久留米市初の合同運営推進会議を開催するなど様々な取り組みも行っています。今後も地域の悩み事は地域で解決できるアットホームな地域づくりを目指していきます。

地域密着型事業所・地域包括支援センターが校区と連携！介護だけが仕事じゃない。

私たちは校区を守る「津福守るっ隊」！

福岡県久留米市津福校区



福岡県久留米市人口：304,703人 高齢者人口：81,595人（高齢化率26.8%）
津福校区人口：12,306人 高齢者人口：3,137人（高齢化率25.5%）（平成31年4月現在）
高齢社会における認知症への正しい理解とサポートのための学習や、孤独死防止、高齢者食事サービス活動など、積極的に取り組んでいる。市営・県営団地が複数ヶ所あり、エレベーターのない団地がほとんどである。

1 「津福守るっ隊」を作るきっかけ

- ・校区より「行方不明者を発見してもその後どうしたら良いのか分からない」と不安の声。
- ・地域密着型事業所からは、離設者をいち早く検索するために、事業所間の連絡網を作成し体制を強化したい。



津福守るっ隊を結成!!

- ・小規模多機能型居宅介護
- ・グループホーム
- ・地域密着型特養
- ・地域密着型通所介護
- ・地域包括支援センター

2 「津福守るっ隊が機能」するために

津福守るっ隊 連絡網

高齢者に限らず、行方不明になった人の情報を津福守るっ隊の連絡網で共有。送迎・移動時等可能な範囲で捜索を行う。

3 「隊員全員が連絡網を理解」するために

隊員自主勉強会

地域からの相談はいつ来るかわからない。津福守るっ隊の目的や対応の仕方について、事業所の職員が集まり勉強会を実施。

4 「津福守るっ隊を地域に知ってもらう」ために

地域密着型事業所が合同運営推進会議を開催

- [参加者] 約40名が参加
- ・各事業所の運営推進会議の参加者（民生委員・ふれあい会員・自治会長・歯科医師等）
 - ・津福校区「ふれあい津福の会」の方々
 - ・生活支援コーディネーター・久留米市介護保険課
- [内容]
- ・「津福守るっ隊」の目的と活動内容を説明。災害時やサロンの活用等、お互いに協力体制が図られると、「津福守るっ隊」を受け入れてもらうことが出来た。

注）運営推進会議は、地域密着型サービス事業所が、利用者の「抱え込み」防止・地域に開かれたサービス事業所となるよう、またサービスの質の確保を目的として設置するもの。



5 「津福守るっ隊と地域がともに活動」していくために



認知症声掛け訓練・防災訓練・介護予防フェスタ

- ・「認知症声掛け訓練」「防災訓練」などの地域活動への協力
- ・地域包括支援センターが行う介護予防普及啓発事業「介護予防フェスタ」に津福守るっ隊員が協力し、地域の支援者が参加。
- ・イベントをともに楽しむことで、事業所と地域住民の顔の見える関係が広まってきている。

校区の悩みは校区で対応したい

「津福守るっ隊」は今年で結成3年目。校区からの相談が身近な事業所に寄せられ、支え合う地域になっていくよう、協力員を募集中。



久留米南第2地域包括支援センター（福岡県久留米市南1丁目8-1）

男性の笑顔が地域を支える ～シニア世代の男性の社会参加・仲間づくりを応援！～

男性限定の講座を開催することで、地域ニーズである「男性の地域活動への参加」と「地域の担い手づくり」を同時に実践！講座の参加者でつくったグループは、いまでは地域のイベントになくはない存在です。

【京都市地域支え合い活動創出事業】

＜作成：京都市／社会福祉法人
京都市社会福祉協議会＞

男性の笑顔が地域を支える

～シニア世代の男性の社会参加・仲間づくりを応援！
男性による地域の支え合い活動が広がる～

京都市では高齢者を支えていくために必要な生活支援サービスの創出や担い手の養成、関係者のネットワーク構築を行うコーディネーターを各区社会福祉協議会(12名)に配置しています。



背景・
きっかけ

- 定年退職後に居場所がなく、地域で孤立する男性が増加している。
- 地域活動・イベント等に圧倒的に男性の参加が少ない。
- 男性に声をかけても、なかなか参加につながらない。



地域ケア会議や調整会議(協議体)で、地域住民、関係機関と『男性の社会参加』を地域課題として共有。課題解決に向けて、取り組みをすすめた。

地域支え合い活動
創出コーディネーター

「下京男塾」を企画・開催

—意識した働きかけポイント—

✓「生きがいづくり」

地域のためだけでなく、個々のやりがい・生きがいにもつながるよう、男性の関心が高い内容で知識や技術が習得できる講座を企画・開催した。

✓「仲間づくり」

受講後に仲間とともに地域活動を開始することを目指して、単発ではなく、連続講座とし、顔のみえる関係性を構築できるよう工夫した。また、講座で学んだ内容を即実践できる機会を設け活動のイメージができるようにした。

➡ 受講後・・・「仲間とともに、
地域のために活動しよう！」と



(珈琲講座)



(料理講座)



(写真講座)



(運動講座)

任意グループ
「下京男塾」 結成！



できることから、
始めてみよう！



*メンバー24名
平均年齢73歳
(上は80歳 下は61歳)

活動スタート

① 遊ぶ！学ぶ！
居場所活動

② 地域に貢献する！
珈琲ボランティア活動



料理



ウクレレ



これからも
人のためにも
活動して人生
充実させるぞ～！

講師役！



←右京区の「昭和おやじのちょっとやってみよう講座」で楽しさを伝授。その後「右京気ままおやじ会」が結成され、活動が広がっている。

ダンスで繋がるプロジェクト “こんなのあったらな～” を形にする

地域に住む認知症夫婦から相談を受けた自治会長が SC に依頼。地域・包括・企業等をコーディネートすることにより、一人の困りごとを皆で話し合い解決していくというイメージやプロセスが皆で共有できた。

第2層 SC 活動紹介 資源をつなぐコーディネート

宜野湾市の概況



総人口 9万8765人(平成31年4月)
総面積 19,308㎡
自治会(行政区) 23ヶ所
日常生活圏域 4中学校区域
(=中学校区)
地域包括支援センター 4ヶ所(委託)

市内をドーナツ状に国道58号、国道330号、県道宜野湾北中城線、県道34号線が通り、さらに沖縄自動車道の北中城IC、西原ICへもつなぎが容易な沖縄本島の中部及び北部を結ぶ交通の重要な地点に位置しています。



沖縄県宜野湾市

作成：社会福祉法人宜野湾市社会福祉協議会



地域資源を活かして“こんなのあったらな～”を形にしました！(ステップダンス DVD 制作)



ダンスパーティー楽しかったな。①
お家でも夫婦で踊ってみたいな～。
練習できるようなビデオはないかな？

自治会長から、第2層SC(社協)及び
地域包括支援センターへ相談！！ ②

社協・包括支援センター・自治会長・FMぎのわんにて
DVD制作の話し合いをおこない制作。 ③



上大謝名地域の皆さん、相談された方へお披露目。
研修会にて報告し、他の地域へも配布。 ④



地域の団結

★包括支援センターの強み
・専門的な知識(介護予防等)
・さくら体操サークル立ち上げの経験

★自治会の強み
・場所の提供や参加者への声掛け

★宜野湾市レク愛好会
・ダンスの振り付けの協力。

★FMぎのわんの強み
・技術的な関わり(撮影や映像編集)
・地域密着型

Point!
それぞれの強みを活かした
企画のコーディネート
You!

★上大謝名のニーズ★

- ・地域の方から家でも楽しくできる体操をしたい
- ・元気になって地域の行事に参加したい。

★上大謝名の強み★

- ・年1回のダンスパーティーで交流が出来る。
- ・月曜に体操サークル、火曜にミニデイサービスがある。
- ・地域の皆で踊れる曲があり、1人でも大勢でも踊れる。

★地域資源①★

- ・自治会、さくら公園(場所)
- ・地域のボランティア(人材)
- ・自治会長(地域の窓口)

★地域資源②★

- ・地域包括支援センター
- ・(株)FMぎのわん
- ・宜野湾市レク愛好会

専門的なサポート

★研修会で市内全体へ報告。その後、DVDを利用したいとの声があり、必要などころに配っています。(自治会、健康サロンなど市外も)

★1人の困りごとを地域全体で考え、色んな機関と繋がることによって実現できるということができた。

★自治会やボランティア団体、企業等含め信頼関係が繋がりが深まった。

★企業の地域貢献に繋がった！

★他の地域や通いの場もダンスDVDを作りたいと盛り上がり、企画があがっている。



この活動が、成功体験になり“誰かの困りごと”を皆で考え、繋がって解決していく事のイメージが
でき地域活動が活発になってきました！

第2層 SC



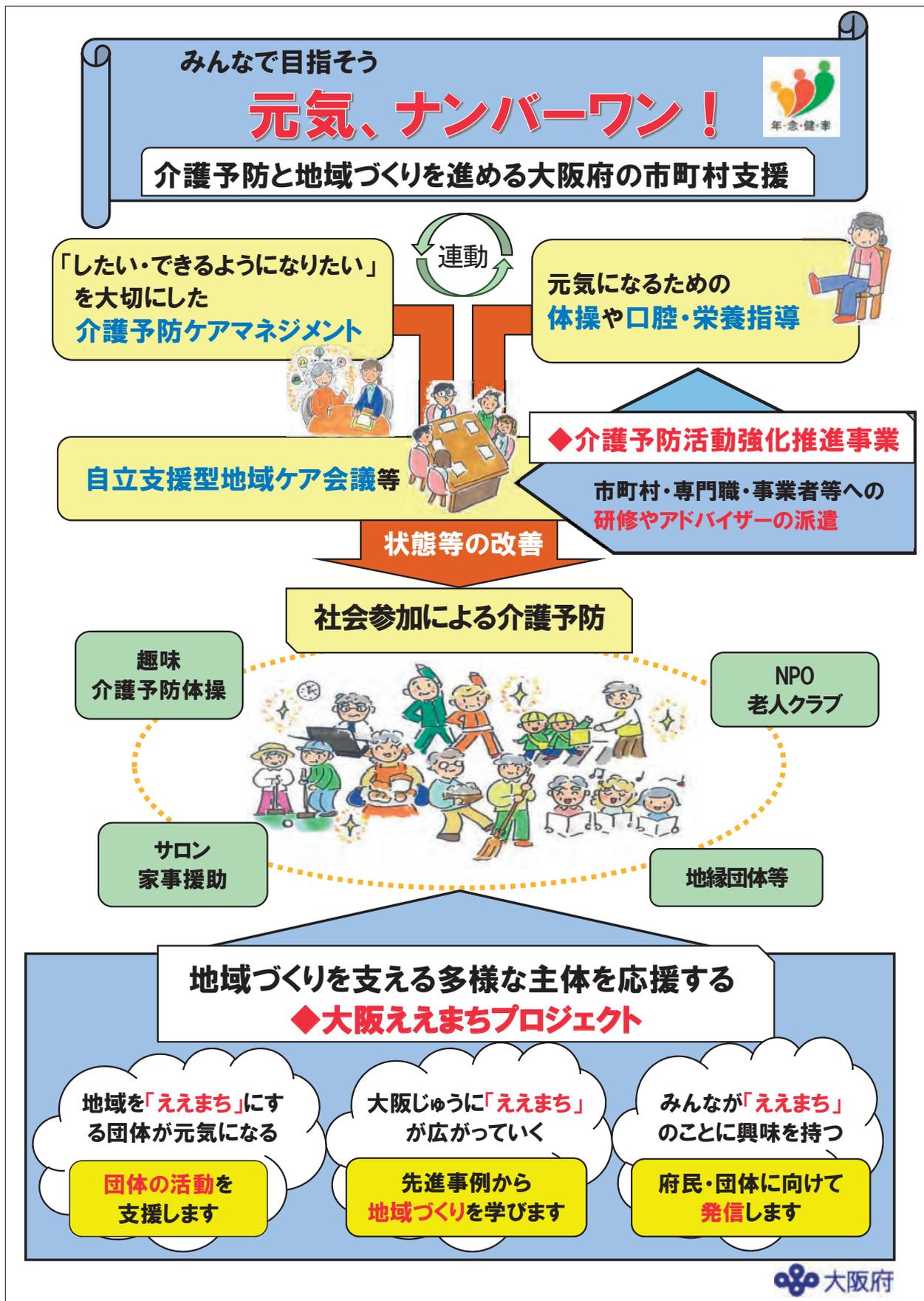


都道府県の支援



みんなで目指そう 元気、ナンバーワン！ ～介護予防と地域づくりを進める大阪府の市町村支援～

大阪府では、介護予防ケアマネジメントの推進に向けた研修やアドバイザー派遣、「大阪ええまちプロジェクト」による地域団体支援など、市町村において介護予防と地域づくりが一体的に進むよう取り組んでいます。



埼玉県地域包括ケアシステムアニメ

自分らしくいつまでもをかなえるアニメ

Saitama 9 2019



～自分らしく いつまでも～

- 地域包括ケアシステムアニメ 2019春公開 ロングランヒット
- ケアシステム・生活支援・介護予防・地域ケア会議 4部作完結

たまよさんの自分らしい生活は？すみえさんの住むまちは？
「埼玉県地域包括ケアシステム アニメ」で検索



企画・制作 埼玉県地域包括ケア課



いきがい
助け合い

ポスター 問い合わせ先一覧 索引



■ ポスター問い合わせ先 一覧 (掲載順)

ポスター 番号	都道府県 所属機関名	連絡先 mail	掲載頁
1	福岡県 中間市介護保険課	tiikihoukatu@city.nakama.lg.jp	14
2	長崎県 五島市長寿介護課	ozaki-m@city.goto.lg.jp	15
3	宮城県 大崎市民生部社会福祉課地域包括ケア推進室	shafuku@city.osaki.miyagi.jp	16
4	奈良県 吉野町	miwako_watanabe@town.yoshino.lg.jp	17
5	広島県 尾道市		18
6	長崎県 佐々町地域包括支援センター	houkatsu@saza.nagasaki.jp	19
7	岩手県 軽米町健康福祉課	y-shimoyachi@town.karumai.iwate.jp	22
8	長崎県 佐世保市エフォートケアシステム株式会社	naritomi2106@gmail.com	23
9	大阪府 河内長野市社会福祉協議会	ksyakyou@silver.ocn.ne.jp	24
10	静岡県 掛川市社会福祉協議会	chiiki@kakegawa-syakyo.or.jp	25
11	大阪府 枚方市明倫校区生活支援コーディネーター	nagato.marujyuu@gmail.com	26
12	秋田県 大館市社会福祉協議会	m-tozawa@oodate-shakyo.or.jp	27
13	東京都 多摩市一般社団法人多摩マイライフ包括支援協議会	ttt.takahashi.iii@gmail.com	28
14	福岡県 宗像市高齢者支援課	mic3147233@gmail.com	29
15	香川県 観音寺市	koureikaigo@city.kanonji.lg.jp	30
16	石川県 羽咋市地域包括ケア推進室	fukushi2@city.hakui.lg.jp	31
17	奈良県 御所市		32
18	熊本県 人吉市社会福祉協議会	hk-3@hitoyoshi-shakyo.com	33
19	埼玉県 朝霞市長寿はつらつ課	tyoju_haturatu@city.asaka.lg.jp	34
20	神奈川県 綾瀬市社会福祉協議会	ishibashi@ayase-shakyo.or.jp	35
21	茨城県 石岡市社会福祉協議会	ishishakyo.yasato@orange.plala.or.jp	36
22	長崎県 対馬市社会福祉協議会	t-saitou@tsushima-shakyo.jp	37
23	長野県 小布施町社会福祉協議会	o-shakyo@stvnet.home.ne.jp	38
24	東京都 北区志茂ジェネ協議会	sachikom@tmig.or.jp	39
25	高知県 四万十町健康福祉課地域包括支援センター	501000@town.shimanto.lg.jp	40
26	岩手県 大船渡市 NPO 法人おおふなと市民活動センター	kinoshita@ofunatocity.jp	41
27	佐賀県 みやき町社会福祉協議会 支え合い推進係	sasaeai@miyaki-shakyo.jp	42
28	群馬県 高崎市長寿社会課	choujyu@city.takasaki.gunma.jp	43
29	群馬県 高崎市長寿社会課	choujyu@city.takasaki.gunma.jp	44
30	広島県 庄原市生活福祉部高齢者福祉課	chiikihoukatu@city.shobara.lg.jp	45
31	千葉県 市原市社会福祉協議会 地域生活支援グループ 生活支援チーム		46
32	新潟県 佐渡市高齢福祉課地域包括ケア推進室	r-care@city.sado.niigata.jp	47
33	東京都 板橋区おとしより保健福祉センター	ki-oto-care@city.itabashi.tokyo.jp	48
34	岐阜県 各務原市		49
35	徳島県 吉野川市地域包括支援センター	chiiki-hokatsu@yoshinogawa.i-tokushima.jp	50
36	愛媛県 松前町保健福祉部健康課地域包括支援センター係	173houkatsu@town.masaki.ehime.jp	51
37	高知県 宿毛市社会福祉協議会	sfuku@mb.gallery.ne.jp	52

ポスター 番号	都道府県 所属機関名	連絡先 mail	掲載頁
38	奈良県 三郷町社会福祉協議会	shien35@sango-shakyo.or.jp	53
39	福岡県 うきは市社会福祉協議会	ikezaki@ukiha-shakyo.or.jp	54
40	宮崎県 新富町福祉課	uminoh@town.shintomi.lg.jp	55
41	奈良県 河合町社会福祉協議会	kawai_shakyo@ybb.ne.jp	56
42	埼玉県 三芳町社会福祉協議会	miyosha-vc@miyoshi-shakyo.or.jp	58
43	青森県 八戸市		59
44	大分県 竹田市社会福祉協議会	kanae@otamaya.jp	60
45	大阪府 太子町社会福祉協議会	t-kainaga@taishi-syakyo.net	61
46	大阪府 太子町社会福祉協議会	t-kainaga@taishi-syakyo.net	62
47	長崎県 対馬市社会福祉協議会	t-saitou@tsushima-shakyo.jp	63
48	長崎県 対馬市社会福祉協議会	t-saitou@tsushima-shakyo.jp	64
49	長崎県 対馬市社会福祉協議会	t-saitou@tsushima-shakyo.jp	65
50	長崎県 対馬市社会福祉協議会	t-saitou@tsushima-shakyo.jp	66
51	愛知県 犬山市健康福祉部長寿社会課	030200@city.inuyama.lg.jp	67
52	和歌山県 和歌山市宇都宮病院		68
53	栃木県 宇都宮市保健福祉部高齢福祉課地域包括ケア推進室	u-ryouyou@city.utsunomiya.tochigi.jp	69
54	奈良県 田原本町社会福祉協議会	tawaramoto-shakyo@siren.ocn.ne.jp	70
55	大阪府 泉大津市社会福祉協議会地域包括支援センター	houkatsu@syakyou.or.jp	71
56	島根県 出雲市社会福祉協議会		72
57	北海道 釧路市東部北地域包括支援センター	tk-houkatu@ad.wakwak.com	73
58	埼玉県 志木市社会福祉協議会	vc@shiki-syakyo.or.jp	74
59	大阪府 大阪市平野区社会福祉協議会	nico-nico.c@3sweb.ne.jp	75
60	山口県 防府市	kfukushi@city.hofu.yamaguchi.jp	76
61	新潟県 阿賀野市高齢福祉課	hokatu-a@city.agano.niigata.jp	78
62	新潟県 柏崎市 NPO 法人地域活動サポートセンター柏崎	tsc-ks3@kisnet.or.jp	79
63	徳島県 鳴門市	chojukaigo@city.naruto.i-tokushima.jp	80
64	福井県 越前市	tyoujyu@city.echizen.lg.jp	81
65	大阪府 大阪市西成区社会福祉協議会	com@nishinari-shakyo.jp	82
66	静岡県 函南町社会福祉協議会	chiiki-nakamura@kannami-syakyo.jp	83
67	大阪府 藤井寺市地域包括支援センター	fureai@silver.ocn.ne.jp	84
68	福岡県 久留米市久留米中央地域包括支援センター	zimu-surface3@outlook.jp	85
69	埼玉県 草加市社会福祉協議会	livewell@soka-shakyo.jp	86
70	静岡県 袋井市浅羽地域包括支援センター	y.t.y-14@aroma.ocn.ne.jp	87
71	東京都 昭島市保健福祉部介護福祉課	kaigofukusika@city.akishima.lg.jp	88
72	茨城県 常陸大宮市第1層協議体	nishimura@hakujinkai.com	89
73	滋賀県 日野町社会福祉協議会	hureai01@rmc.ne.jp	90
74	宮崎県 五ヶ瀬町 NPO 法人結ネットたんぽぽ	watanabe7161@yahoo.co.jp	91

ポスター 番号	都道府県 所属機関名	連絡先 mail	掲載頁
75	京都府 京都市(福) 京都福祉サービス協会 高齢者福祉施設 西院	koumoto.ayumi@k-fukushi-service.jp	92
76	岩手県 盛岡市社会福祉協議会	h-bando@morioaka-shakyo.or.jp	93
77	茨城県 つくばみらい市社会福祉協議会	matsuo@tm-shakyo.jp	94
78	滋賀県 米原市	fukushi@city.maibara.lg.jp	95
79	鳥取県 北栄町社会福祉協議会	chiiki1@mail6.torichu.ne.jp	96
80	長崎県 南島原市社会福祉協議会	chiiki@minashimashakyo.or.jp	97
81	長野県 長野市鬼無里地区住民自治協議会	fureaikinasa@tgk.janis.or.jp	98
82	東京都 武蔵村山市社会福祉協議会武蔵村山市南部地域包括支援センター	okamura2@mmshakyo.jcomoffice.jp	99
83	北海道 八雲町熊石地域包括支援センター	k-totani@town.yakumo.lg.jp	100
84	京都府 木津川市社会福祉協議会		101
85	新潟県 関川村社会福祉協議会	sekishakyou@fukuseki.or.jp	102
86	大阪府 大阪市城東区社会福祉協議会	joto-sc@blue.ocn.ne.jp	103
87	京都府 京都市伏見・西京区各種の団体+京都大学建築学専攻吉田研究室	tetsu@archi.kyoto-u.ac.jp	104
88	大阪府 大阪市港区社会福祉協議会	minatokushakyo@zeus.eonet.ne.jp	105
89	千葉県 多古町地域包括支援センター	kaori.hirano@town.tako.chiba.jp	106
90	鹿児島県 鹿屋市保健福祉部高齢福祉課	kourei@e-kanoya.net	107
91	埼玉県 鶴ヶ島市社会福祉協議会	i_makino@tsurusha.or.jp	108
92	福岡県 うきは市社会福祉協議会	nakagawa@ukiha-shakyo.or.jp	109
93	福岡県 宗像市高齢者支援課	koureisya@city.munakata.fukuoka.jp	110
94	静岡県 磐田市社会福祉協議会	tiiki@iwatashakyo.or.jp	111
95	京都府 宮津市社会福祉協議会	miyazu294@io.ocn.ne.jp	112
96	長崎県 波佐見町健康推進課		113
97	山形県 白鷹町健康福祉課	kenfuku3@so.town.shirataka.yamagata.jp	114
98	熊本県 球磨村	k-matamoto@kuma.kumamoto.jp	115
99	新潟県 新潟市南区生活支援コーディネーター	t.suzuki@syakyo-niigatacity.or.jp	116
100	大阪府 大阪市東成区社会福祉協議会	higasinarishakyo@ocn.zaq.ne.jp	117
101	宮城県 大崎市池月地域づくり委員会	ikesapo@iaa.itkeeper.ne.jp	118
102	三重県 桑名市社会福祉協議会	ichinohe@kshakyo.jp	119
103	佐賀県 嬉野市社会福祉法人済昭園	mizo-michi@saisyoen.jp	120
104	静岡県 藤枝市健康福祉部地域包括ケア推進課	chiikicare@city.fujieda.lg.jp	121
105	福岡県 福津市健康福祉部高齢者サービス課	koreisha@city.fukutsu.lg.jp	122
106	福岡県 みやま市包括支援センター	shienter@city.miyama.lg.jp	123
107	宮崎県 日向市社会福祉協議会		124
108	富山県 氷見市社会福祉協議会	info@himi-shakyo.jp	125
109	埼玉県 入間市社会福祉協議会	nakasaki@iruma-shakyo.or.jp	126
110	埼玉県 入間市金子地区地域包括支援センター	kaneko-houkatsu@bz01.plala.or.jp	127
111	和歌山県 広川町住民生活課	houkatsu2@town.hirogawa.wakayama.jp	128

ポスター 番号	都道府県 所属機関名	連絡先 mail	掲載頁
112	埼玉県 所沢市社会福祉協議会		129
113	岡山県 倉敷市社会福祉協議会	matsuoka@kurashikisyakyo.or.jp	130
114	静岡県 伊豆の国市	soudan@city.izunokuni.shizuoka.jp	131
115	鹿児島県 奄美市役所高齢者福祉課	korei04@city.amami.lg.jp	132
116	滋賀県 長浜市社会福祉協議会	chiikifukushi@nagahama-shakyo.or.jp	133
117	大阪府 大阪市生野区社会福祉協議会	ikunokusyakyo@tune.ocn.ne.jp	134
118	福島県 郡山市役所地域包括ケア推進課		135
119	山梨県 南アルプス市社会福祉協議会	info@minami-alpsshakyo.or.jp	136
120	奈良県 葛城市社会福祉協議会	taguchi-kenichiro@katsuragi-shakyo.jp	137
121	沖縄県 恩納村役所地域包括支援センター		138
122	長崎県 対馬市社会福祉協議会	t-saitou@tsushima-shakyo.jp	139
123	北海道 札幌市医療法人社団豊生会	etsuko_takahashi@houseikai.or.jp	140
124	北海道 上砂川町社会福祉協議会	k-syakyo@agate.plala.or.jp	141
125	兵庫県 加東市高齢介護地域包括支援センター	kaigonintei@city.kato.lg.jp	142
126	兵庫県 神戸市灘区社会福祉協議会	contact@nadaku-shakyo.org	143
127	滋賀県 近江八幡市福祉保険部 長寿福祉課	010840@city.omihachiman.lg.jp	144
128	山口県 防府市	shihoukatsu@city.hofu.yamaguchi.jp	145
129	和歌山県 岩出市地域福祉課		146
130	福岡県 久留米市 NPO 法人くるめ地域支援センター	minami-surface7@outlook.jp	147
131	京都府 京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課	kenkochojukikaku@city.kyoto.lg.jp	148
132	沖縄県 宜野湾市社会福祉協議会	mai@ginowanshakyo.or.jp	149
133	大阪府 大阪府福祉部高齢介護室介護支援課	koreikaigo-g05@sbox.pref.osaka.lg.jp	152
134	埼玉県 埼玉県福祉部地域包括ケア課	a3250-03@pref.saitama.lg.jp	153



■ 索引 (都道府県別)

ポスター番号	都道府県 所属機関名	ポスタータイトル	掲載頁
123	北海道 札幌市医療法人社団豊生会	札幌市東区における助け合い活動の概要	140
57	北海道 釧路市東部北地域包括支援センター	わかば★わくわくキッチンへの歩み ～みんなで食べると美味しいね～	73
83	北海道 八雲町熊石地域包括支援センター	住民主体の集いの場	100
124	北海道 上砂川町社会福祉協議会	いいんでないかい？ 上砂川町	141
43	青森県 八戸市	住民と学生のワークショップから始まる地域包括ケアと共生の街づくり	59
76	岩手県 盛岡市社会福祉協議会	空き家をミンナの居場所へ	93
26	岩手県 大船渡市 NPO 法人おおふなと市民活動センター	いきがい・助け合い活動に関する取り組み	41
7	岩手県 軽米町健康福祉課	かるまい助け合いすごろく	22
3	宮城県 大崎市民生部社会福祉課 地域包括ケア推進室	まちづくり部局等をはじめとした、さまざまな事業と連動した大崎市流域地域包括ケアシステムの深化・推進	16
101	宮城県 大崎市池月地域づくり委員会 (池月サポートセンター)	池月流“マメ”な地域づくり活動	118
12	秋田県 大館市社会福祉協議会	30年度以降に限られた時間の中で住民が関わりながら体制づくりを行った事例	27
97	山形県 白鷹町健康福祉課	有償ボランティア「ほっと しらたか」が出来るまで	114
118	福島県 郡山市地域包括ケア推進課	郡山市久留米地区地域支援活動	135
21	茨城県 石岡市社会福祉協議会	地域で助け合うまちづくり	36
72	茨城県 常陸大宮市第1層協議体	専門職がささえる地域サロンのつくりかた～地域の課題を地域ネットワークを活用しながら解決していく～	89
77	茨城県 つくばみらい市社会福祉協議会	住民と共に歩む協議体と助け合い活動	94
53	栃木県 宇都宮市保健福祉部高齢福祉課 地域包括ケア推進室	宇都宮市の第2層協議体の取組について	69
28	群馬県 高崎市長寿社会課	高崎市の支え合いのあゆみ、高崎市の協議体	43
29	群馬県 高崎市長寿社会課	高崎市の支え合いのあゆみ、高崎市の協議体	44
134	埼玉県 埼玉県福祉部地域包括ケア課	埼玉県地域包括ケアシステムアニメ	153
112	埼玉県 所沢市社会福祉協議会	埼玉県所沢市における 金山食堂だれでもランチの取り組み	129
69	埼玉県 草加市社会福祉協議会	社協を母体として民家に開設した通所型サービスBと多様な活動が創出された事例	86
109	埼玉県 入間市社会福祉協議会	支えあうぞ！入間	126
110	埼玉県 入間市金子地区地域包括支援センター	金子中央けやき公園から南峯運動場までゆっくり歩く会を立ち上げて見えてきたもの	127

ポスター 番号	都道府県 所属機関名	ポスタータイトル	掲載頁
19	埼玉県 朝霞市長寿はつらつ課	朝霞市の地域の助け合いが芽吹く～つながりづくりの意識醸成から支え合いの活動がはじまるまで～	34
58	埼玉県 志木市社会福祉協議会	新たな担い手の掘り起し	74
91	埼玉県 鶴ヶ島市社会福祉協議会	多様な活動を創出するふれあいサービス	108
42	埼玉県 三芳町社会福祉協議会	住民が想いをひとつにし、住民が望む支え合い活動を住民がカタチにする取り組み	58
31	千葉県 市原市社会福祉協議会 地域生活支援グループ 生活支援チーム	いつまでも ふだんの 暮らしを しあわせに！「ホッ」とするまち いちはら	46
89	千葉県 多古町地域包括支援センター	みんなで楽しく地域づくり タコ足ケアシステムの取組	106
24	東京都 北区志茂ジェネ協議会	住民主体の助け合い活動創出に向けた協議体の体制整備 ～東京都北区「志茂ジェネ協議会」の事例から～	39
33	東京都 板橋区おとしより保健福祉センター	板橋区における協議体の取組 ～18 地域 18 色の支え合いの地域づくり～	48
71	東京都 昭島市保健福祉部介護福祉課	住民参加型の介護予防+専門的アプローチ = 新たな生きがい活動！	88
82	東京都 武蔵村山市社会福祉協議会 武蔵村山市南部地域包括支援センター	「お互いさま」でつながるまちづくり	99
13	東京都 多摩市一般社団法人 多摩マイライフ包括支援協議会	多摩市まるっと協議会の活動と今後の体制	28
20	神奈川県 綾瀬市社会福祉協議会	綾瀬市社協が取り組んできた生活支援体制整備事業	35
99	新潟県 新潟市南区生活支援コーディネーター	新潟市南区での助け合い活動の創出	116
62	新潟県 柏崎市 NPO 法人地域活動サポートセンター柏崎	幸齢未来かわら版 号外！	79
61	新潟県 阿賀野市役所高齢福祉課	阿賀野市の目指す地域像	78
32	新潟県 佐渡市高齢福祉課地域包括ケア推進室	目指すは「ごちゃまぜ」オール SADO	47
85	新潟県 関川村社会福祉協議会	人とひとがつながり笑顔あふれる地域へ「つなぐ」	102
108	富山県 氷見市社会福祉協議会	個別支援から地域の力をアップするソーシャルワーカーの取り組み	125
16	石川県 羽咋市地域包括ケア推進室	石川県羽咋市の生活支援体制整備 ing	31
64	福井県 越前市	いきいきふれあいのつどいの拡がり	81
119	山梨県 南アルプス市社会福祉協議会	八田ふれあいの会が動き出すまでの経緯	136
81	長野県 長野市鬼無里地区住民自治協議会	あるものを活かす！ないものを数えない 昔は村だった小さな地区の取り組み	98
23	長野県 小布施町社会福祉協議会	自分らしく暮らせる日常生活圏域は住民主体で決めよう！	38
34	岐阜県 各務原市	みんなが参加したくなる楽しい場をつくる！！	49



ポスター 番号	都道府県 所属機関名	ポスタータイトル	掲載頁
94	静岡県 磐田市社会福祉協議会	磐田市型の地域共生社会の実現	111
10	静岡県 掛川市社会福祉協議会	掛川型地域包括ケアシステムの発展に向けた生活支援 コーディネーターの配置	25
104	静岡県 藤枝市健康福祉部地域包括ケア推進課	未来を見据え支え合うことの大切さを訴えたら地域が 動いた！～藤枝市の地域づくりへの挑戦～	121
70	静岡県 袋井市浅羽地域包括支援センター	住民主体の通いの場が居場所、移動スーパー導入へ繋 がった事例	87
114	静岡県 伊豆の国市	地域の手による 『笑顔の食材市』	131
66	静岡県 函南町社会福祉協議会	人口約 38,000 人、高齢化率約 31%、居場所 38 ヶ所… 小さな？町の住民による「おでかけサポート」の取組み	83
51	愛知県 犬山市健康福祉部長寿社会課	協議体での話し合いが形になったきっかけ	67
102	三重県 桑名市社会福祉協議会	地域が主役！人づくり・まちづくりの取組み ～三重県桑名市の支え合い活動～	119
116	滋賀県 長浜市社会福祉協議会	身近な地域の支えあい活動～かんだサポート会～	133
127	滋賀県 近江八幡市福祉保健部長寿福祉課	商助でつながるお互いさまのまちづくり	144
78	滋賀県 米原市	地域お茶の間創造事業	95
73	滋賀県 日野町社会福祉協議会	東桜谷地区ささえ愛活動	90
75	京都府 京都市（福）京都福祉サービス協会 高齢者福祉施設 西院	「誰もが輝ける、人々が出会う交差点」－要介護高齢者 の社会参加活動と多様性を認め合える場づくりの挑戦－	92
87	京都府 京都市伏見・西京区各種の団体＋ 京都大学建築学専攻吉田研究室	おでかけベンチ・とまり木ベンチを地域・高齢者の手で	104
131	京都府 京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都 推進室健康長寿企画課	男性の笑顔が地域を支える～シニア世代の男性の社会 参加・仲間づくりを応援！～	148
95	京都府 宮津市社会福祉協議会	人と人を結ぶ～かけ橋～ 宮津市社会福祉協議会 流 住民参加型在宅福祉サービス事業 「暮らしのかけ橋」	112
84	京都府 木津川市社会福祉協議会	気軽に集って笑顔あふれる地域の居場所 (地域のサロンが5倍に増えた)	101
133	大阪府 大阪府福祉部高齢介護室介護支援課	みんなで目指そう 元気、ナンバーワン！ ～介護予防と地域づくりを進める大阪府の市町村支援～	152
59	大阪府 大阪市平野区社会福祉協議会	The 男組	75
65	大阪府 大阪市西成区社会福祉協議会	みんなで考え、つくる、あたらしい“まち”	82
86	大阪府 大阪市城東区社会福祉協議会	赤いベンチプロジェクト	103
88	大阪府 大阪市港区社会福祉協議会	いきいき百歳体操を通じて高齢者を元気にする取組み	105
100	大阪府 大阪市東成区社会福祉協議会	元気に参加・活躍できる東成区をめざして	117
117	大阪府 大阪市生野区社会福祉協議会	生野区における「地域のお宝発表会」	134

ポスター番号	都道府県 所属機関名	ポスタータイトル	掲載頁
55	大阪府 泉大津市社会福祉協議会 地域包括支援センター	生活支援隊家事エンジャー実践報告	71
11	大阪府 枚方市明倫校区生活支援コーディネーター	枚方 SC 新聞	26
9	大阪府 河内長野市社会福祉協議会	個々や地域の問題をポジティブに捉えることが問題解決や健康寿命の延伸に繋がっていると確信している SC	24
67	大阪府 藤井寺市地域包括支援センター	『つながる』を楽しもう♪ NICE! の集い	84
45	大阪府 太子町社会福祉協議会	すみごこちのいいマチをめざして	61
46	大阪府 太子町社会福祉協議会	すみごこちのいいマチをめざして	62
126	兵庫県 神戸市灘区社会福祉協議会	福祉基金の取り崩しによる地域福祉団体への人的支援	143
125	兵庫県 加東市高齢介護地域包括支援センター	LINE @はじめました	142
17	奈良県 御所市	少しの「できる」が「ええまちごせ」をつくる	32
120	奈良県 葛城市社会福祉協議会	ハロウィンで世代が地域がつながった!	137
38	奈良県 三郷町社会福祉協議会	形だけの協議体から住民参加型の自然なお宝発掘隊へ	53
54	奈良県 田原本町社会福祉協議会	「地域歩き」と「助け合い体験ゲーム」によるニーズの掘り起こし	70
41	奈良県 河合町社会福祉協議会	生活支援体制整備事業の推進に欠かせないファクター	56
4	奈良県 吉野町	地域包括ケア町内連携会議 ～部局横断的に地域づくりをすすめる取り組み～	17
52	和歌山県 和歌山市宇都宮病院	地域づくりアンケートの結果から	68
129	和歌山県 岩出市地域福祉課	いわで支えあい協議体取り組み「いわで交流マップ」	146
111	和歌山県 広川町住民生活課	「動いています! 広川町 ～輝くあなたがその原動力～」	128
79	鳥取県 北栄町社会福祉協議会	北栄町の助けあい活動に関する取り組み	96
56	島根県 出雲市社会福祉協議会	協働した担い手づくりと共感を得るための担い手養成	72
113	岡山県 倉敷市社会福祉協議会	倉敷市版の生活支援体制整備事業～豪雨ニモマケズ～	130
5	広島県 尾道市	発祥の地・“みつぎ”より地域包括ケアシステムを考える	18
30	広島県 庄原市生活福祉部高齢者福祉課	ささやかだけど“キラッ”と輝く 地道な取組を学び合う「実践報告会」	45
60	山口県 防府市	生活支援体制整備事業の「手触り」が感じられる取組み	76
128	山口県 防府市	介護予防と生活支援を「一体的に提供する」取組	145



ポスター 番号	都道府県 所属機関名	ポスタータイトル	掲載頁
63	徳島県 鳴門市	鳴門市版暮らサポ ～開設までにおける SC の役割と活動～	80
35	徳島県 吉野川市地域包括支援センター	つなげよう！吉野川市助け合いの会	50
15	香川県 観音寺市	観音寺市の地域づくりの取組	30
36	愛媛県 松前町保健福祉部健康課 地域包括支援センター係	愛媛県松前町における助け合い活動創出に向けた 取り組み	51
37	高知県 宿毛市社会福祉協議会	高知県宿毛市 第2層協議体 毎月開催中!!	52
25	高知県 四万十町健康福祉課地域包括支援センター	みんな一緒に体制整備	40
68	福岡県 久留米中央地域包括支援センター	地域リハビリテーション活動支援事業を活用した地域 課題の解決について	85
130	福岡県 久留米市 NPO 法人くるめ地域支援センター	地域密着型事業所・地域包括支援センターが連携！ 私たちは校区を守る「津福守るっ隊」	147
1	福岡県 中間市介護保険課	わたしたち、たてわりやめました	14
14	福岡県 宗像市高齢者支援課	協議体立ち上げにつながる講演会	29
93	福岡県 宗像市高齢者支援課	たんぼぼの会（生活支援ボランティア）が買い物支援 をたちあげるまで	110
105	福岡県 福津市健康福祉部高齢者サービス課	福岡県福津市ささえ合い協議体	122
39	福岡県 うきは市社会福祉協議会	かたらんね～江南 「こんな事が必要！」と「これだっ たら出来そう！」から生まれた地域の変化	54
92	福岡県 うきは市社会福祉協議会	「なんかしょうや！」から始まった住民型有償サービス おおいし絆クラブ	109
106	福岡県 みやま市包括支援センター	様々な助け合いの輪が生まれ、広がっています。	123
103	佐賀県 嬉野市社会福祉法人 済昭園	住民ボランティアサポートによる「介護予防」と 「買い物支援」の通いの場 ごましお健康くらぶ	120
27	佐賀県 みやき町社会福祉協議会 支え合い推進係	始めよう！支え合いの地域づくり in みやき町	42
8	長崎県 佐世保市エフォートケアシステム株式会社	支え合い活動“見える化”システム 「地域包括ケアガイドマップ」	23
22	長崎県 対馬市社会福祉協議会	協議体の発足について	37
47	長崎県 対馬市社会福祉協議会	対馬市で小さな声をひろいあげ、かたちにしていく！	63
48	長崎県 対馬市社会福祉協議会	“住民同士の助け合いによる地域づくり”のために	64
49	長崎県 対馬市社会福祉協議会	ニーズ調査からワークショップを経て見えてきたこと	65
50	長崎県 対馬市社会福祉協議会	ニーズの把握から活動へ“貝口地区の取り組み”	66
122	長崎県 対馬市社会福祉協議会	子どもと高齢者の交流や助け合い	139

ポスター 番号	都道府県 所属機関名	ポスタータイトル	掲載頁
2	長崎県 五島市長寿介護課	日本最西端の離島 GOTO 列島 ～行政の部門を超えて連携する～	15
80	長崎県 南島原市社会福祉協議会	いいね、いい場所、みんなのつばみ	97
96	長崎県 波佐見町健康推進課	波佐見は続くよ どこまでも！ (線路も海もないけれど。)	113
6	長崎県 佐々町地域包括支援センター	無関心をやめて、おせっかいを始めたら・・・まちが ひとつになった!!	19
18	熊本県 人吉市社会福祉協議会	地域づくりの源は「協議体」に、協議体づくりは地域の 納得から!!	33
98	熊本県 球磨村	有償ボランティア『世話やき隊』	115
44	大分県 竹田市社会福祉協議会	高齢者の社会参加で地域を元気に！	60
107	宮崎県 日向市社会福祉協議会	助けられたり、助けたり「お互いに支え合う仕組みづく り」を目指して～日向市東郷町の取組み～	124
40	宮崎県 新富町福祉課	新富町 生活支援体制整備事業	55
74	宮崎県 五ヶ瀬町 NPO 法人結ネットたんぽぽ	居場所づくりからの生活支援創出	91
90	鹿児島県 鹿屋市保健福祉部高齢福祉課	町内会主体の有償ボランティアで「地域力」を上げる！ 支え、助け合う地域づくり	107
115	鹿児島県 奄美市高齢者福祉課	安全・安心見守り隊	132
132	沖縄県 宜野湾市社会福祉協議会	ダンスで繋がるプロジェクト “こんなのあったらな～” を形にする	149
121	沖縄県 恩納村地域包括支援センター	地元屋号学習と子どもによるゆいまーる家庭訪問 (ハロウィン編)	138



花開く



地域包括ケア